

目 次

会長のページ いよいよ正念場！	秦 喜八郎	3
日州医談 医療の情報化の諸問題	富田 雄二	4
随筆 泥棒！御用だ！！	早稲田芳男	6
理解できない靖国合祀	富山 明宜	7
ハンセン病悲話	東 茂光	9
エコー・リレー（316）	徳田 吉郎，島田 雅弘	10
叙 勲・祝 賀，叙 位・叙 勲		11
表 彰・祝 賀		12
感染症サーベイランス情報		18
グリーンページ（医療制度改革の行方）	志多 武彦	19
宮崎県献眼顕彰慰霊碑除幕式		25
各都市医師会だより		26
宮崎医科大学だより（精神医学講座）	三山 吉夫	28
各種委員会（医療安全対策委員会）		29
各都市医師会会長協議会		31
九州ブロック医師会広報担当理事連絡協議会		36
九州医師会連合会第243回常任委員会		37
九州医師会連合会第82回臨時委員総会		38
九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会		39
第101回九州医師会総会・医学会		40
九州医師会連合会第244回常任委員会		42
平成13年度（第23回）九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長 及び九州各県医師会会長合同会議		43
平成13年度九州学校検診協議会専門委員会		45
九州各県医師会学校保健担当理事者会		49
医療危機突破都道府県医師会・郡市区医師会緊急合同対策会議		50
医師国保組合だより（第7回歩こう会）		53
日医 FAX ニュースから		54
医事紛争情報		56
薬事情報センターだより（176）（ビール酵母）		58
理事会日誌		59
県医の動き		64
ニューメンバー	隅 清克，深見 淳一	65
会員消息		66
ベストセラー，ドクターバンク		68
行事予定		69
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		71
診療メモ（満1歳になったら直ちに麻疹ワクチンを接種して下さい）		75
あとがき		80
「日州医事」平成13年総目次（617～628）		82
~~~~~		
予 告 宮崎県医師会役員の選挙について		30
お知らせ ORCA（仮称）情報		5
郡市医師会への送付文書		78

## 医師の誓い

人の生命を尊重し、これを救い、更に健康増進に寄与するは、医師たる職業の責い使命である。

人の生命を至上のものとし、如何なる強圧に遇うとも人道に反した目的のために医学の知識を乱用せず、絶えず医学の研鑽と医術の練成に励み、細心の注意と良心に従って医を行う。

社会の倫理にもとらず、不正の利を追わず、病を追ひ、病を究め、病める人を癒し、同僚相睦び相携えて、医学の名誉と伝統を保持することを誓う。

## 宮崎県医師会

(昭和50年8月26日制定)

〔表紙写真〕

### 霧島連山暮色

茜色に染まった霧島連山の天空には、月と輝きを競演するかのように寄り添う宵の明星・金星が、その下には水星もきらめいていました。宇宙で演出される壮大なドラマに感動し、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の物語を思い起こしていると、夜の帳があり、「冬の大三角形」の星座の星たちも一斉に輝き瞬きはじめました。

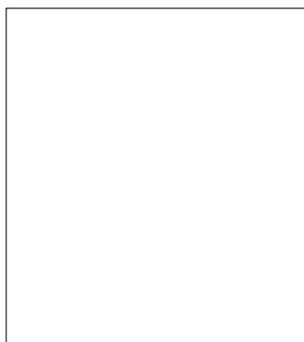
小林市 まえ だ しゅん じ 前田 俊二

(第2回宮崎県医師会医家芸術展より)

## 会長のページ

## いよいよ正念場！

秦 喜 八 郎



本年度の第3回都道府県医師会長会議が、11月20日に行われました。日医執行部より「医療制度改革の現状報告」政府与党社会保障改革協議会ワーキングチーム中間報告（11月16

日）の読み解きがありました。

同中間報告は

・基本報告 ○国民皆保険体制・フリーアクセス堅持、○改革の理念・改革の将来像の明示、○医療保険財政の深刻な状況から医療制度改革は喫緊の課題、○医療制度の持続可能性を確保するための「痛み」の分かち合い

・保健医療システムの改革について、○健康づくり予防推進、○医療提供体制の改革、EBM、IT化、人材育成、広告緩和、医業経営、医療安全対策、小児救急医療の改革等について意見一致、営利企業の参入等については慎重意見

・持続可能で安定的な医療保険制度の構築について（今後の医療保険制度の在り方）

○医療保険制度の一元化、○高齢者医療制度や国民健康保険制度の在り方（医療保険制度の改革）、○給付率の統一、意見集約の必要性、○自己負担限度額の見直し、○保険料総報酬制の導入（2兆5,000億見積り）、○国民健康保険制度8,000億赤字への公費支援（高齢者医療制度の改革）、○老人医療費の伸び率管理制度の導入、○高齢者への公費負担の重点化（5年内で50%）○高齢者の患者一部負担の見直し、○老人医療費拠出金の算定方法の見直し（診療報酬・薬価基準等の見直し）、○診療報

酬の体系的な見直し、平成14年度の診療報酬改革への経済動向の反映、○公的保険の守備範囲、○薬価基準等の適正化

今月末を目処に基本的事項についての意見集約、というものです。

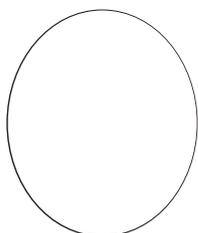
10月県下全会員に御意見を伺いました、厚生労働省の試案（9/25）より大分後退した内容になっています。今後11月末迄に最終報告がまとめられ、12月上旬には経済財政諮問会議、閣議での2002年度予算の基本方針策定がなされ、12月中旬には与党の予算編成大綱が示され、12月20日前後には2002年度予算財務省原案が作成される予定となっています。

日医は、11月末から12月上旬をヤマ場とみて、国民医療を守る全国キャンペーンを繰り広げています。11月20日現在で、

1. 各都道府県地方紙へ意見広告は43都道府県、チラシ4県（本県は11月18日付宮崎日日新聞）
2. 署名運動500万名超（本県48,416名）、11月14日国会請願紹介議員232名（本県7名）
3. 12月1日国民医療を守る全国総決起大会3,000人（本県10名）、決起大会も14県で決行又は予定

当初、小泉改革に名を借りた財務省官僚の医療費削減策と考えていました。坂口厚労相は日医に理解を示しています。この処に来てははっきりした事は、小泉首相自身の怨念です。「患者負担増、医療費の伸び率管理、高齢者医療制度改革、診療報酬の見直し」など小泉厚生大臣時代に唱えて出来なかった改革の実現です。三方一両損で世論を操作しています。私達も分かり易い言葉で、毎日の診療の場で、国民の安全と安心を守る国民皆保険制度の堅持を訴えて行かねばなりません。お年寄りを泣かせてはいけません。（H13.11.23）

## 日州医談



## 医療の情報化の諸問題

常任理事 富田雄二

## 電子カルテ

昨年から、電子カルテの開発や医療現場での電子カルテの利用が急速に進展している。一方で、政府の財政主導の医療制度改革議論の中でも電子カルテの利用促進がうたわれ、この推進が医療の画一化など我々医師の裁量権を狭めるのではないかという不安があると思う。しかしながら、医師会として進めている患者への情報公開、医療機関連携のためのサマリー作りや情報交換、カルテの長期保管、最新の医療情報の取得など、患者情報の電子化はもはや必須の作業である。医師会がその整備に主体的にかかわることにより、電子カルテは医師のための道具になると考える。

また、入力の問題、誰がコストを負担するのか、個人情報保護に関する法的問題、利用者を見定めるための個人認証...と解決すべき課題も多い。宮崎県医師会では、「はにわネット」で平成14年3月には診療所用電子カルテのプロトタイプを完成する。これを軸に、会員の皆さんとともにハードルを越えるためのさまざまな実証を進めていきたいと考えている。

## レセプトの電子的提出

現在の複雑怪奇な保険請求制度のもとでレセプトを電子的に提出し、保険者から機械的なチェックがかけられると考えると絶対に阻止すべき制度といえる。しかしながら、保険者ができるチェックは、あらかじめ医療機関でもできる、または、

医師会がそのような仕組み（施設）を作っても良い。そもそも紙提出という物理的にチェックの手間をかけることで医師の裁量権を守ろうとする姿勢は支持を得られるのか？ 審査会では1人が数日の間に1万枚近いレセプトを見るといって、非現実的な状況に陥っている。大部分の問題の少ないレセプトを除き、医学的な判断が必要なものを抽出して審査員が点検することが妥当かもしれない。この作業は、今よりもさらに多くの労力を要するかも知れず、幅広い議論が必要であるが、本来の審査会の姿へ近づく1つの方法かもしれない。いずれにしても、保険者側の主導によって電子的提出を強制され、審査が保険者の手にゆだねられるようなことだけは、絶対に阻止しなければならない。

## 被保険者証のカード化

被保険者証は患者の利便性を考慮して、1人1枚のカード型にすることとし、平成13年4月1日から施行された。これは健保・国保共通の措置である。しかし、カード型へ移行できる保険者から順次実施されるために当面は現行の世帯1枚の被保険者証も有効である。宮崎県内では、今のところカード化の動きはない。当初、ICカードを用いた被保険者証が考案され、八代市で実証実験中であるが、コストなどの問題で、当面ICカードは用いられず、プラスチックカードなど耐久性を持つ材質に資格を印字されたものが利用される。従って、1世帯1枚か

ら、1人1枚へと変わる以外は医療機関への影響はない。

ICカードを用いることで、失効した被保険者証を識別できるとの利点が述べられることがあるが、これは誤りである。現在も70%以上の医療機関はレセコンを使用しており、保険番号は電子化されている。保険者が自分の持つ被保険者情報をデータベース化し、医療機関が利用できる形で提供しさえすれば、今でも失効した保険証の照合は可能である。保険者は、失効被保険者証によるレセプト請求の責任を医療機関に転嫁することをやめ、システム作りを進める

べきである。ICカードの利用はむしろ、医療保険を含めたさまざまなサービスを受けるための個人認証カードとしてとらえ、普及をはかるべきと考える。

古来より情報を制するものが優位を保つ。身近には日常診療に役立つこと、更には医療政策構想に役立つ情報財産となることを目的に、医療の情報化は進めていかなければならない。苦労したけど導入して良かったと言えるためにも医師会主導で諸事業を進めていきたい。

## - ORCA（仮称）情報 -

日本医師会は、11月20日に、医療現場のIT化を進めるための土台となるネットワーク作りを行う「日医IT化宣言」を発表した。内容は、現在日医総研が開発中のレセコンソフト「ORCA」を中心に、医療情報の標準化、ネットワーク構築、情報の交換を行うことで、国民に高度で良質な医療を提供することをめざすとしている。

これは、新たな事業を始めるということではなく、今までORCA情報などでお知らせしてきた内容と変わりはない。

ORCAの開発状況は、「ようやく使える状態になってきた」という段階で、現在使われているレセコンに比べるとはるかに見劣りする。しかし一方で、高速回線を利用したオンラインでのソフト改善が順調に利用できるなど、上記宣言に資する姿を徐々に整えつつある。県内での実証実験は、12月中旬からになる予定である。また、はにわネットが開発中の電子カルテ「dolphin」とORCAとの接続実験も順調に進行している。

（県医師会常任理事 富田）

## 随 筆

## 泥 棒 ! 御 用 だ !!

宮崎市 早稲田内科神経科医院

わ せ だ よ し お  
早稲田 芳 男

医師になって5～6年も経つと指導教授からそろそろ学位(医学博士)論文にかかれと命を受ける。そこで、研究室の先輩が歩んだような道を同じように歩みはじめる。これまで発表した研究成果をまとめたり、足りない部分は補足実験したり、補足の調査研究等を行って必死になって1本の学位論文にまとめ上げるのである。

その頃は、ほとんどの者が無給医員で、週1～2回のアルバイトで収入を得ては生計を立てていた。しかし、論文作成の段階に入ると大学にこもりっきりになる訳で、アルバイトには出れるはずもなく、収入は絶たれた。その上で、徹夜で研究室にこもって論文をまとめる作業が続くことになる。当然、金もないし、衣食は乱れ、他目には異様に映ることになる。

M先生は、論文完成間近になって、原稿などを机の上に散乱させたまま帰宅してしまった。翌朝それを見た教授がとがめた。「こんな大切なものをそまつにははいかん!命の次に大切なものだ。今後は、膚身はなさず身に付けておくことだ!!」もともと生真面目が着衣しただけとうわさされるM先生、教授のお言葉は至上命令である。その日は予定した論文作成作業が早く終了して帰り仕度にかかった。

莫大な資料を包むには鞆ごときには到底収まりきれない量である。思案したあげく、大風呂敷を購入しておいた。たまたまこの模様が唐草だったのが後に災いとなる。とにかく、その大

風呂敷に文献などを包み込んで、よいしょとばかりに背に負った。大学病院を出ようとする門が閉まって施錠してあった。早く仕事が終わったとはいえ、草木も眠る丑三つ時、午前二時ごろのことであるからして仕方がない。困ったM先生、通用門の脇の土手によく這い上がり、外の道路によいしょとばかり飛び降りた。

ついてない時は誰にもあるもので、その日、その時間、たまたま夜警巡査が通りかかったのである。誰が見ても風采のあがらぬ男が、背に抱えきれないぐらいの大きな荷物...それも唐草模様の大風呂敷に包んで...をかついで上からどさっと降ってきたのである。当然泥棒と間違えられた。「違う、違う泥棒なんかではない」という弁解なんか巡査の耳に届くはずもなく、本署に連行された。本署で大風呂敷を開けて出てきたものが、文献や書きかけの論文ばかりで、それらが山のように机に積み上げられた。巡査も大いに驚いた。「いったいこの犯人は何を盗みに入ったのか?」そこで、本格的に取り調べが始まる訳であるが、M先生が救出を求めた主任教授が深夜間もなく本署に呼び出されて、めでたく釈放となった。命じた教授も、実行したM先生にとっても、深夜の得がたい経験になったに違いない。

大学者となられたM先生に小生の下らぬ論文を送ると、たんねんに読んでいただき、辛口の論評をいただき、いつもいつも感謝しています。

## 随 筆

## 理 解 で き な い 靖 国 合 祀

日向市 鮫島病院 ^{とみ}富 ^{やま}山 ^{あき}明 ^{のり}宜

「如何なる批判があろうと、8月15日に参拝する」と言い切った小泉首相の靖国神社問題は今年の7月以降、国内外で賛否両論、大いにメディアを騒がして正に「百家争鳴」、今まで靖国問題で関心が薄かった国民の注目を喚起した。首相は結局国内外の批判を受け、土壇場で15日を避け前倒して13日に参拝、同時に談話を発表した。その後の国内外の反響は皆様承知の如く、中国韓国など近隣諸国の抗議、国内も賛否両論で国民の支持に程遠い。国のために犠牲になった英霊を国民と共に天皇、首相、外国の賓客も参拝出来る靖国神社にするにはA級戦犯合祀の解決は避けては通れない。戦犯合祀の最大のネックは神社宮司、松平永芳氏と東條輝雄氏（元東條首相の二男）2人の反対である。輝雄氏の反対理由は「A級戦犯合祀を問題視する意見は、東京裁判での戦勝国の論理だ。〔自衛戦争〕と抵抗し続けた被告側の遺族として認めるわけにはいかない」東條英機首相が先の太平洋戦争を日本の自衛と主張するのは、大間違いである。日米和平交渉決裂の原因とされた、ハル・ノートは要するに日本が1931年日本も批准した「中国に関する九ヶ国条約（1922.2.6調印）と不戦条約（1928.8.27調印）に違反して満州事変を起こし以後日中事変にまで拡大して、中国侵略を続けた。アメリカは日本の不法行為を認めず、1931年以前の原状復帰を要求しただけで至極正当な主張である。

今度の靖国神社関連の報道で神社に合祀されている台湾出身者は3万数千人、朝鮮半島出身者は2万数千人と知って驚いた。当時の台湾総

人口約450万人、朝鮮半島約1500万人と比較して圧倒的に台湾の犠牲者が多い。前台湾総統李登輝の兄李登欽（1945.2.15マニラで戦死）も合祀されて居る。私の親類も2人戦死した。

私は今80歳の老台湾人医師、1979年来日、現在日向市鮫島病院に勤務。私は小学から大学まで一貫した日本教育を受け、東京で4年間、大陸の華北で2年間居住。楽しかった戦前、戦中の苦労や戦後の中国国共内戦も体験した。だから私は外国人であるが日本人の気持ちも中国人の思考もよく理解できる。私はかねてから、A級戦犯が靖国神社に合祀されて居ることを知り、日本は一体どうなっているのかと理解に苦しんだ。一体何処の世界に会社を倒産に追い込んだ社長を戦後も会社の神様としてお祀りするだろうか？ A級戦犯は正に国を破局に追い込んだ戦争指導者で、敗戦責任も問われず、敗戦の不始末を国民に謝罪していない。これは戦前、私も学んだ日本が誇る武士道に反する。

武士道といえば、私の中学時代、校長が佐賀県出身の故か、修身の時間によく「葉隠れ論語」を講義した。「武士道とは死ぬことと見つけたり」の名文句を今でもよく憶えている。

戦後「新渡戸稲造」著の武士道を読んで一層深い感銘を受けた。

台湾は日本の植民地として50年間統治されたが、今でも台湾人は日本人を尊敬し強い親日感情を抱いている。その理由は、本国政府が台湾に厳選したエリートを送り込んで植民地経営に当らせた。当時の日本エリート達は何れも武士道の薫陶を受け、武士道に則った行動に終始し

台湾人によい模範を垂れた。例えば、後藤新平（後の東京市長）新渡戸稲造等は日本国内のみならず、国際的にも有名な人材である。武士道の道德規範は、儒教の徳目とほぼ一致し、日本江戸期と中国の明、清時代も同じく朱子学を国学としたので台湾住民には好意を持たれ、共鳴するものが多かった。中国社会は帝王を除いて特権階級が無く、誰でも努力次第で科挙試験に合格さえすれば、宰相や中央・地方の官吏になれるので、日本統治で不利益を蒙る階層が皆無である。それ故に日本に反感を抱く人が少ない（日本の世襲制度と異なる）。これに反し朝鮮半島は日本統治の結果、特権階級の「兩班」が消滅し四民平等となった。おかげで既得権益を失った人達が日本を恨み、この人達が反日の底流をつくって居る。同じく日本の植民地支配を受けたのに、台湾住民が親日、朝鮮半島が反日の傾向があるのは、これで自明と思う。

A級戦犯自身は死後靖国に祀られるとは夢だにできなかったと思う。これは死者の責任では無い。死者の本当の気持ちは、遺族が代わって国民に謝罪し、潔く靖国の合祀を願い下げることにあるのではないだろうか。だから東條輝雄氏は東京裁判の結果にこだわらず、視点を換え、武士道に則って善処することを望む。戦争指導

者の功罪は、後世の歴史家の評価に任せるべきである。

終戦直後、私は指導的立場に居た軍人は沢山切腹して国民に詫びるだろうと思ったが、切腹したのは阿南惟幾陸相1人と知ってがっかりした。武士道も地に墜ちたり...か？

平成13年8月13日、NHKの終戦特別番組で海軍特攻隊（大分県宇佐基地）に関する「指揮官たちの特攻」を見た。中津留達雄大尉（25歳）は海軍兵学校出身で、航空隊の教官を務めたベテランのパイロット。人柄は温厚、日頃部下に慕われていた好青年。特攻作戦を指導してきた宇垣纏中将は、多くの部下を死地に送ったその責任をとるために死に場所を求めた。日本が降伏した直後、中津留大尉は降伏を知らずに宇垣中将を特攻機に乗せ8月15日夕刻、沖縄に向かい米軍基地に向かって自爆した。

降伏した直後に特攻を命じられた中津留大尉の悲劇、死後彼の父親は、「宇垣さんが一人で責任をとってくれていたらなあ」とつぶやいたと言う。宇垣中将の「身勝手」な行動は、果して武士道の作法にかなっているのだろうか？と今も疑問を抱くのは私一人だけであろうか。

この番組を見て、万感、胸に迫るものを感じ思わず涙が流れた。

## 随 筆

## ハンセン病悲話

南郷町 東病院 ^{ひがし}東 ^{しげ}茂 ^{みつ}光

最近ハンセン病が、熊本訴訟により俄かに脚光をあび、テレビ新聞等を賑わしていますが、私が話題を提供するのはそんな大きなことではなく、長くこの病気の陰に泣く気の毒な家族の実例です。

実は私の母の実家のある一地区の中のごく2～3家族の一例です。私が物心つく頃母の里帰りの途中耳にした母の昔物語の一節から、私も子供心に一大関心を持ちそのことが心の隅に在り、戦後の或る時期私も都合によりその地区の近くに約1年余り住んで実情を目のあたりにして、この病気の陰惨さを経験致しました。昔からその家系は所謂「ハンセン病」の家系と言われつづけていることです。明治、大正の初期頃ではないでしょうか、これは私の推量ですが本当に「ハンセン病」が有ったか無かったかは定かではありません。その当時の真実を確かめる術もありません。そのハンセン病家系と言われつづけて、「レットル」を貼られた家族が現実に被害にあっていく現実を知るに及んで、実に気の毒に耐えませんでした。

その実情は次の様な事柄です。その地方では昔から「ハンセン病」は一般社会では遺伝病として恐れられ忌み嫌われ敬遠されたものでした。従ってこの遺伝病を断ち切る最大の得策はその家系と婚姻関係を持たぬことにつきますと思います。これがこの悲劇の最たるものです。その当時その地区（40～50戸位）の中では当然の事乍ら全く結婚相手が見つかりません。このため隣の地区か隣村とか可なり離れた地域に相手を求めざるを得ません。然し乍らこの様な噂は悪事千里の諺通り誰1人知らぬ者は居りません。万策つきた結果が縁談は同病相憐れむ、親類縁者

とすることになり、近親結婚の始まりです。それから代々長期に近親結婚が繰り返され現代に至った結果が医学的に見れば当然遺伝病の出現となりこの親類縁者の中から沢山の知的障害、身体障害が現れ、益々遺伝病と思こまれた状況です。終戦時小学1～2年生であったあの子供達は今頃どうなったことでしょうか。たまに帰郷したら思い出しますが、当時のことを知る母も今は亡く心に残りながらこのことを確めたこともありません。

もう1つの例は婿殿替え玉事件です。幼い頃の昔話ですが母の昔語りで記憶にあります。やはりこの地区の中のことです。婚期を迎えた青年が嫁取りに取りかかったのですが、この青年実は鼻もげでした。この御面相では嫁になり手がありません。一計を案じた古老がこの青年の実情の噂が未だ知られていない遠い村に着目し適齢期の女性を探し出し、替え玉を仕立てて嫁をもらいに行き、縁談がまとまりどうにか結婚式までこぎつけました。

いよいよ結婚式の当日、現れ出でたる婿殿は初めて見る面相に嫁をはじめ嫁側の親類一同この人は婿殿と違うと言うことでだまされたと察し、険悪な空気を見て取った婿殿が日本刀を持出し皆を殺すと言いだし一同騒然となったらしいのです。これを見て取った世話役（替え玉の主謀者）が仲介に入りその場は何とか収めたらしいところまでが母の昔語りです。

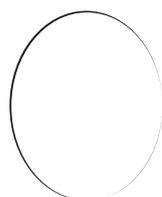
戦後私が1年ばかり近くの村に住んだ頃の婿殿はまともには見られぬ面相でした。昔の話を思い出し乍ら、見て見ぬふりをして過ごしました。後には収まる場所に収まり子供にも恵まれ、めでたしめでたしとのことでした。

## エコー・リレー

(316回)

(南から北へ北から南へ)

## 散 歩

宮崎市 徳田胃腸科内科医院 ^{とく}徳 ^だ田 ^{よし}吉 ^{ろう}郎

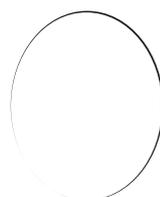
4～5歳の頃だったろうか、夕方時分ときに私が駄々をこねて母を困らせていた時、小学校4～5年生だった兄が「俺とさんぼに行こう」と言って助け船を出した。私は忽ち機嫌を直し

て、一緒に嬉々として夕暮れの戸外に出た。…さんぼという所は一体どんな所だろうか…大好きな兄が連れて行ってくれる所だからブランコがあったり、駄菓子屋があったりするきっと楽しい、素敵な所に違いない…と想像しながら。然し大分歩いて周りがすっかり暗くなっても、なかなかさんぼには辿り着かない。いい加減草臥れて「さんぼはまだ遠いの？」と聞くと「もうすぐだ」という。程なく、出た時とは反対側の道から家の前に着いてしまった。膨れ顔で「さんぼに行こうよ…」と文句を言うと「こうして道を歩くのをさんぼと言うのだよ」と聞かされてがっかり。してやられたと感じても、子供心にかねがね心服していた兄が相手ではしょうことなく、さんぼというのは草臥れるだけでちっとも楽しくないものだ…と言う事を身に沁みて納得した。

親孝行で優しく、私と違って成績も良かったこの兄が、肺結核のため数え年24歳の若さで帰らぬ人となってやがて60年。これまでの私の人生行脚の縮図は、あの時の散歩と何か似てないか…ふっとそんな感慨に駆られる。それにしても、幼い頃夢見たさんぼという、とてつもなく充実した夢に代わる様な体験が、その後の私の半生に果たしてあったかどうか…あった様もあるし無かった様な気もする。

〔次回は 都城市の折津 達先生をお願いします〕

## 開業してみて

日南市 島田内科胃腸科 ^{しま}島 ^だ田 ^{まさ}雅 ^{ひろ}弘

久留米大学の内科の医局に15年程御世話になり、日南に戻ってきて5年になりました。男性の癌の死亡率は肺、胃、肝臓の順に高いのですが、福岡県は胃と肝臓が逆転しており、肝臓癌

が多く超音波検査に多忙な日々を送っていました。5年前には既にIFN熱は下火になっており患者さんの移動も大方終了していたのかもかもしれませんが、当院でのHCV陽性者は少なく、心がけて検査をするのですが現在でもHCV陽性者は10名いないのではないかと思います。あのざらついた肝硬変のエコーをたまにみると非常に懐かしくまた切なくも思います。必然的に循環器の患者さんが多くなり、毎日が勉強です。最近外来の暇な時などリスクの高い方に頸部エコーをしています。若い方はIMTの厚い方は少なく高齢の方に多いように思います。若いうちから末永くHMA-CoA還元酵素阻害剤を服用してもらおうと考えてはいるのですがなかなか難しいものです。私の住んでいる町油津は人口も減少し高齢化が進んでいます。子供が地元にはいないために老夫婦で暮らしている方々がたくさんいらっしゃいます。つい先日もおばあちゃんからこういう事を言われました。“私は独り者だから、死病にかかってもう此処に来れなくなった時は、先生、往診にきてね。他に入院したくないから。”EBMに基づく予防医学も大事ですが、私の成長を見守ってくれた人々に今貢献することの方が大切かなと思う今日この頃です。

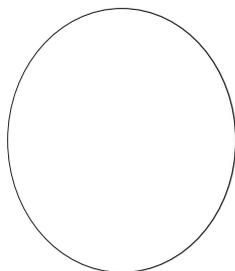
〔次回は 宮崎市の岩城義博先生をお願いします〕

## 叙 勲・祝 賀

勲五等双光旭日章（保健衛生功勞）

さ とう まもる  
佐 藤 衛 先生（宮崎市）

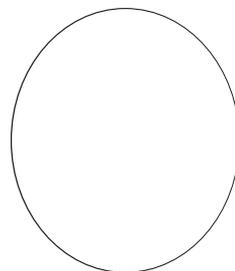
このたびの秋の叙勲において、保健衛生功勞により、勲五等双光旭日章をお受けになりました。



勲五等双光旭日章（警察協力功勞）

いけ だ たく ろう  
池 田 卓 郎 先生（小林市）

このたびの秋の叙勲において、警察協力功勞により、勲五等双光旭日章をお受けになりました。



受章されました両先生に対しまして、衷心から祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

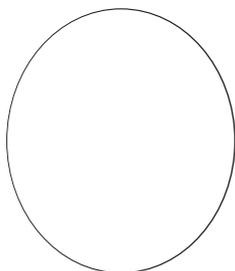
## 叙 位・叙 勲

従五位・勲四等瑞宝章（保健衛生功勞）

たに ぐち よし あき  
故 谷 口 良 昭 先生（日南市）

谷口良昭先生（72歳）は、平成13年10月26日に御逝去されましたが、生前の保健衛生功勞により、平成13年10月26日付をもって、従五位・勲四等瑞宝章に追叙されました。

生前の功績を称えご冥福をお祈りいたします。

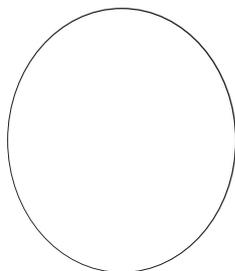


表彰・祝賀

社会保険診療報酬支払基金関係功績者として社会保険診療報酬支払基金理事長表彰

たて やま ひろ みち  
立 山 浩 道 先生（宮崎市）

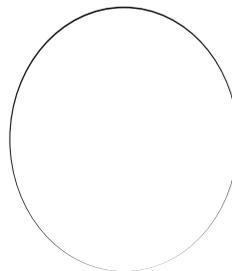
社会保険診療報酬支払基金関係の永年の功績により，9月1日(土)社会保険診療報酬支払基金理事長表彰をお受けになりました。



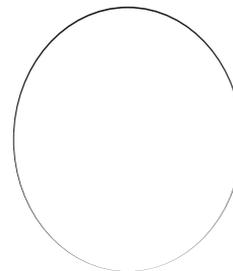
国民健康保険関係功績者として厚生労働大臣表彰

うち やま かず お  
内 山 一 雄 先生（小林市）  
こ ばやし くに お  
小 林 邦 雄 先生（宮崎市）

国民健康保険関係功績の永年の功労により，10月17日(水)厚生労働省において，厚生労働大臣表彰をお受けになりました。



内山 先生



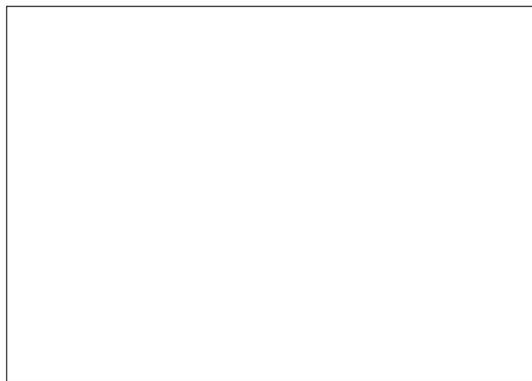
小林 先生

宮崎日日新聞賞（科学賞）受賞

宮崎医科大学周産母子センター（清武町）

いけ の うえ つよむ  
（池ノ上 克 部長）

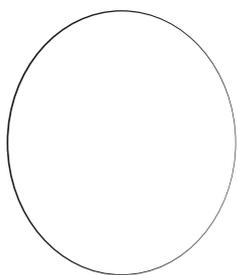
科学の分野において地域社会に貢献された功績により，10月19日(金)宮日会館ホールにおいて，宮崎日日新聞賞（科学賞）をお受けになりました。



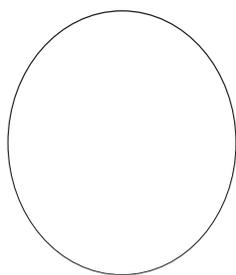
### 学校保健及び学校安全の功労者として 県教育長表彰

すぎ 杉	さわ 澤	とおる 徹	先生（宮崎市）
ご 後	とう 藤	せい 政	治 先生（宮崎市）
よし 義	かわ 川	えい 英	じ 治 先生（都城市）
と 土	い 井	あきら 彰	先生（都城市）
てら 寺	もと 本	しょう 昭	ぞう 三 先生（都城市）
まえ 前	だ 田	しょう 丈	ぶ 夫 先生（延岡市）
ふく 福	おか 岡	よし 良	ろう 朗 先生（日南市）

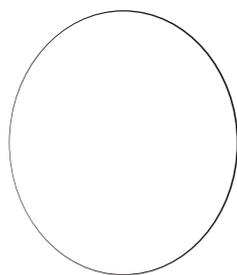
学校保健及び学校安全の普及その充実の功労により、10月30日(火)  
宮崎総合庁舎において、県教育長表彰をお受けになりました。



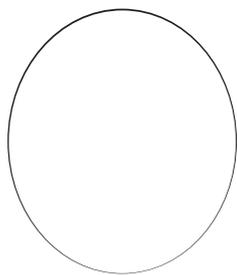
杉澤 先生



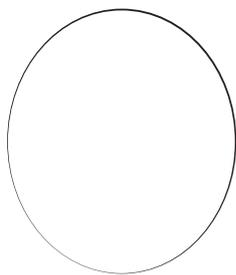
後藤 先生



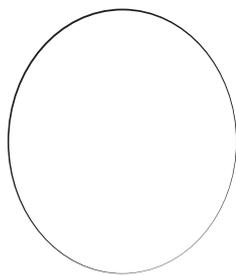
義川 先生



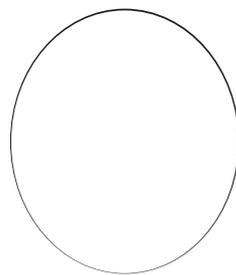
土井 先生



寺本 先生



前田 先生

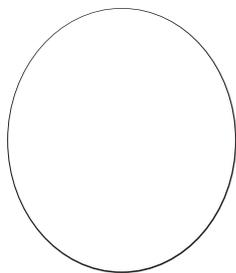


福岡 先生

## 宮崎県文化賞受賞

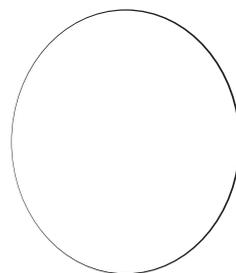
の へ けん たろう  
野 辺 堅太郎 先生（都城市）

短歌振興等本県の文化の向上発展の功勞により、文化功勞部門で11月1日(木)、県庁講堂において、宮崎県文化賞をお受けになりました。

学校保健及び学校安全の功勞者として  
文部科学大臣表彰

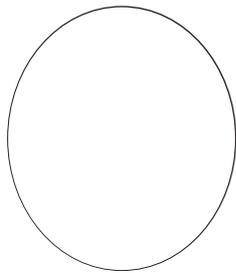
あお やま が こう  
青 山 雅 行 先生（延岡市）

学校保健及び学校安全の普及と向上とその充實の功勞により、11月8日(木)千葉市で開催された第51回全国学校保健研究大会において、文部科学大臣表彰をお受けになりました。

公衆衛生事業功勞者として  
厚生労働大臣表彰

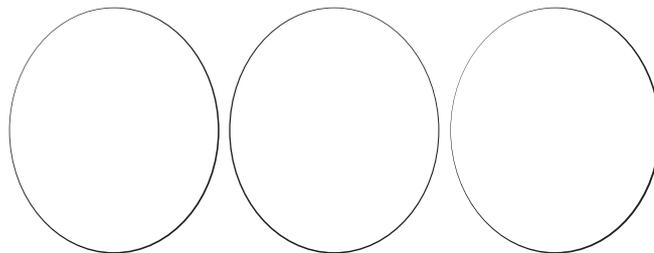
たけ した ふみ お  
竹 下 文 夫 先生（山田町）

公衆事業功勞により、11月15日(木)岩手県花巻市で開催された第5回地域保健全国大会において、厚生労働大臣表彰をお受けになりました。

公衆衛生事業功勞者として  
財団法人日本公衆衛生協会長表彰

やなぎ た たく や  
柳 田 琢 也 先生（都城市）  
ふじ もと こう いち  
藤 本 孝 一 先生（延岡市）  
ふたつ き ひで と  
二 木 秀 人 先生（日向市）

公衆事業功勞により、11月15日(木)岩手県花巻市で開催された第5回地域保健全国大会において、日本公衆衛生協会長表彰をお受けになりました。



柳田 先生

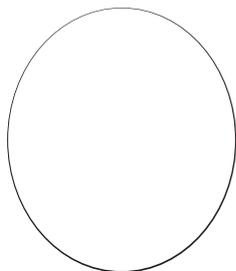
藤本 先生

二木 先生

宮崎県老人保健事業推進功労者として  
県知事表彰

とも きよ よし み  
友 清 義 海 先生（宮崎市）

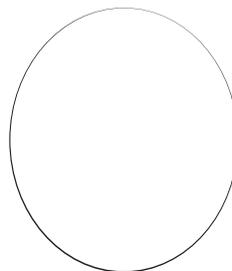
老人保健事業功労により，11月20日(火)，県  
企業局「県電ホール」において，県知事表彰  
をお受けになりました。



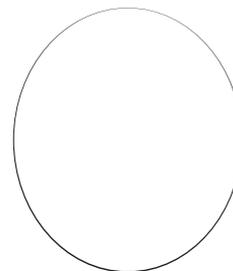
宮崎県公衆衛生功労者として  
県知事表彰

ひら の ひろし  
平 野 宏 先生（延岡市）  
てら お はく じ  
寺 尾 博 二 先生（門川町）

公衆衛生功労により，11月20日(火)，県企業局  
「県電ホール」において，県知事表彰をお受け  
になりました。



平野 先生



寺尾 先生

各分野において表彰されました先生方に対しまして，衷心から祝意  
を表しますと共に，今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。

平成13年 1月～12月  
叙位・叙勲及び表彰・祝賀受賞会員

## 叙位・叙勲

## 【宮崎市郡】

正六位(保健衛生功労)(H13.4.3)	宮崎市	福永克己
勲五等瑞宝章(学校保健功労)(H13.4.29)	高岡町	麻生昭典
勲五等双光旭日章(保健衛生功労)(H13.11.3)	宮崎市	佐藤衛

## 【南那珂】

従五位・勲四等瑞宝章(保健衛生功労)(H13.10.26)	日南市	谷口良昭
-------------------------------	-----	------

## 【西諸】

勲五等双光旭日章(警察協力功労)(H13.11.3)	小林市	池田卓郎
----------------------------	-----	------

## 表彰・祝賀

## 【宮崎市郡】

宮崎県医療功労者 県知事表彰(H13.6.30)	大淵達郎
	杉澤徹
社会保険診療報酬支払基金関係功績者 社会保険診療報酬支払基金理事長表彰(H13.9.1)	立山浩道
救急医療事業功労者 県知事表彰(H13.9.7)	八尋克三
救急医療功労者 厚生労働大臣表彰(H13.9.10)	後藤政治
母子保健家族計画事業功労者 厚生労働大臣表彰(H13.9.20)	佐藤衛
国民健康保険関係功績者 厚生労働大臣表彰(H13.10.17)	小林邦雄
学校保健及び学校安全の功労者 県教育長表彰(H13.10.30)	杉澤徹
	後藤政治
宮崎県老人保健事業推進功労者 県知事表彰(H13.11.20)	友清義海

## 【都城市北諸県郡】

スポーツの普及と振興の功労者 宮崎県体育協会スポーツ功労賞受賞(H13.5.26)	隅清賢
教育委員会委員として地方教育行政の振興の功労者	
宮崎市町村教育委員会連合会表彰・宮崎県教育功労賞受賞(H13.6.7)	柳田喜美子
全国市町村教育委員会連合会表彰・全国教育功労賞受賞(H13.6.7)	柳田喜美子
救急医療事業功労者 県知事表彰(H13.9.7)	柳田喜美子

学校保健及び学校安全の功労者 県教育長表彰 (H13.10.30)	義川英治 土井 彰 寺本昭三
短歌振興等の文化功労者 宮崎県文化賞受賞 (H13.11.1)	野辺 堅太郎
公衆衛生事業功労者 厚生労働大臣表彰 (H13.11.15)	竹下文夫
公衆衛生事業功労者 財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 (H13.11.15)	柳田 琢也
<b>【延岡市】</b>	
警察医功労者 警察庁長官表彰 (H13.7.4)	甲斐允雄
救急医療事業功労者 県知事表彰 (H13.9.7)	赤須 巖
学校保健及び学校安全の功労者 県教育長表彰 (H13.10.30)	前田 丈夫
学校保健及び学校安全の功労者 文部科学大臣表彰 (H13.11.8)	青山 雅行
公衆衛生事業功労者 財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 (H13.11.15)	藤本 孝一
宮崎県公衆衛生功労者 県知事表彰 (H13.11.20)	平野 宏
<b>【日向市東臼杵郡】</b>	
宮崎県医療功労者 県知事表彰 (H13.6.30)	児玉 三千男
公衆衛生事業功労者 財団法人日本公衆衛生協会会長表彰 (H13.11.15)	二木 秀人
宮崎県公衆衛生功労者 県知事表彰 (H13.11.20)	寺尾 博二
<b>【南那珂】</b>	
宮崎県医療功労者 県知事表彰 (H13.6.30)	岩田 達男 早川 潤太郎
教育委員会委員として地方教育行政の振興の功労者	
宮崎県市町村教育委員会連合会表彰・宮崎県教育功労賞受賞 (H13.6.7)	岩田 達男
全国市町村教育委員会連合会表彰・全国教育功労賞受賞 (H13.6.7)	岩田 達男
学校保健及び学校安全の功労者 県教育長表彰 (H13.10.30)	福岡 良朗
<b>【西 諸】</b>	
国民健康保険関係功績者 厚生労働大臣表彰 (H13.10.17)	内山 一雄
<b>【宮崎医科大学】</b>	
宮崎日日新聞賞 (科学賞) 受賞 (H13.10.19)	
	宮崎医科大学周産母子センター (池ノ上 克 部長)

## 感染症サーベイランス情報

調査期間 13年9月10日～13年10月7日

	宮崎	中央	都城	延岡	日南	南関	小林	西高	都鍋	高千穂	日向	合計
インフルエンザ	1											1
咽頭結膜熱			4	1	6					2		13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29	11	6	46	21	7	7	3	10			140
感染性胃腸炎	147	31	125	70	39	37	57	29	104			639
水痘	40	10	5	35	4	20	22	1	1			138
手足口病	6			4	9	4	7					30
伝染性紅斑	23	8		14	3	1	19		2			70
突発性発疹	81	7	36	28	23	7	25	1	20			228
百日咳								3				3
風疹				1								1
ヘルパンギーナ	20	11	7	32	6	17	18		59			170
麻疹			1	2								3
流行性耳下腺炎	52	59	34	28	11	23	23	24	43			297
急性出血性結膜炎	1											1
流行性角結膜炎	109		5	18								132
急性脳炎												
細菌性髄膜炎												
無菌性髄膜炎												
マイコプラズマ肺炎			1	3		1						5
クラミジア肺炎												
成人麻疹												
合計	509	137	224	282	122	117	181	60	239			1871

調査期間 13年9月10日～13年10月7日

	9月10日 ～9月16日	9月17日 ～9月23日	9月24日 ～9月30日	10月1日 ～10月7日	合計
インフルエンザ				1	1
咽頭結膜熱	3	2	5	3	13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30	37	20	53	140
感染性胃腸炎	169	161	165	144	639
水痘	24	43	41	30	138
手足口病	17	7	4	2	30
伝染性紅斑	33	16	9	12	70
突発性発疹	60	65	51	52	228
百日咳				3	3
風疹	1				1
ヘルパンギーナ	58	50	39	23	170
麻疹	3				3
流行性耳下腺炎	66	51	76	104	297
急性出血性結膜炎		1			1
流行性角結膜炎	31	29	34	38	132
急性脳炎					
細菌性髄膜炎					
無菌性髄膜炎					
マイコプラズマ肺炎	1	2	2		5
クラミジア肺炎					
成人麻疹					
合計	496	464	446	465	1871

## グリーンページ

## 医療制度改革の行方

副会長 志 多 武 彦

○医療制度改革の論議が11月になり混迷し足踏みしている。経済成長率 GDP 2年連続マイナス、完全失業率5.3%、米国の同時多発テロとそれに伴う深刻な不況が重なり、経済不安が深まる中、「痛み分けどころではない」「負担増を求める時期ではない」との声が強まりつつある。旗振り役の厚労省は小泉首相の掲げる「聖域なき構造改革」を頼みの綱とするが、政府、与党や日本医師会など関係団体との駆け引きは激しさを増している。暗夜行路の改革論議と言われている。

○9月25日の厚労省試案にしても事務局は現行制度の枠組みを前提とした(抜本改革ではない)財政対策の色彩の濃い改革案を作成したが、発表直前になり坂口厚労相は制度自体を見直すべしとする坂口私案4項目を提案し、最終的には両者が一本化された経過がある。

○最も重大なのは、今回の改革論議での大きな特徴はこれまでと異なり従来からのプレーヤーに経済財政諮問会議や総合規制改革会議、更に財政制度等審議会といった多様な新しいメンバーが加わり、その背後で財務省が強力に糸を操っていることである。14年度医療改革論議は厚労省案を中心に活発化しているが、財務省は論点、経済財政諮問会議は新たに民間議員が意見を発表し、政府、与党社会保障改革協議会 WT(ワーキングチーム)は11月末の取りまとめに向けての本格議論の開始、社会保障審議会医療保険部会も総論的議論を始めた。又、与野党は各関係団体よりヒアリングを行っており、日医も活発なロビー活動を行っている。関係分野がそれぞれの立場から意見を主張し状況は混沌としている。その中でも厚労省と財務省の対立が目を見

いた。

9月26日の経済財政諮問会議では財務省が9月25日の厚労省案を審議会の場で差し戻すという前代未聞の経過があり、坂口厚労相も「言葉を失う」と絶句し、その後の会見では「越権行為」と激しく財務省に反発している。この件では内外より「内閣不一致」と批判が生じた。

○財務省や諮問会議の意向は、医療費の伸び率管理を老人医療費だけでなく、全ての医療費を対象にする、患者の自己負担は老若に関係なく3割に統一すべきである、診療報酬を引き下げる、などが柱である。強引な財政主導型の改革実現としか言いようがない。塩川財務相は財政制度審議会でも「医療ミニマム論」をぶち上げ、公的保険の給付範囲の縮小、即ち国庫負担削減を打ち出している。正に患者にとり、医療機関にとり、劇薬、毒薬である。日医はコメントとして内閣府設立以来、議院内閣制を無視した強力な官主導の政策案が次々と提示されている、経済不況を招いた旧大蔵省の近視眼的失敗を忘れるべきではないとしている。

又、厚労省や財務省の医療改革案は、長引く不況、少子高齢化という社会状況でいずれも財政問題に終始している、医療の本質を理解しないまま財政重視の誤った改革で、将来必ず国民の健康不安を招く、政府がすべきは医療の本質を認識することと国民皆保険、フリーアクセス、現物給付等の現行制度の客観的評価を行うことであると指摘している。

○一連の医療改革の流れでの日医等の主張を振り返ってみる。

日医坪井会長は、小泉内閣の構造改革に賛意

を表明し「総理自らが旗を振る、こんな興奮はない」と改革の方向性を歓迎した。小泉改革の風は絶対に止めてはならない、改革が出来れば我々の仕事、考えが国民にダイレクトに変化装飾なしに伝わる世の中が出来る。担当大臣以下が国の姿もわからない視野で討議しているのでは改革の風は止まってしまうと発言している。民主党の鳩山代表もその必要性、方向性には支持表明し、エールを送ったのと似ている。

しかし、経済財政諮問会議（骨太の方針）の基本方針を作成した財務、厚労、内閣府の官僚と経済学者、企業経営トップを痛烈に批判し、

我々の理念に基づく改革案は100%取り上げられていない、これ程官僚の横暴が際立ったのは初めて、80年度に医療費亡国論を唱えた吉村仁元厚生次官の比ではない、今回の骨太の方針は米国型医療制度を主眼に効率化の所だけを問題にしている、我々は医療の質、受診機会の公平性と一体となった改革を政府に訴えていくとしている。

又、医に倫理や理念、哲学がない限り、医療は成り立たないとし、改革にビジョンのないアメリカ市場主義かぶれのマネーゲーム集団とは徹底的に抵抗し、交戦していくと述べ、一方では国民への医療情報公開と共有、競争原理の導入、EBMに基づく質の評価等、医療側の意識改革を訴えている。「抵抗勢力と呼ばれるのは心外だ、医療改革には大賛成だが、日々患者と接している我々の意見を聞かず、一方的に流血革命をするというのなら国の方向を間違う」とも発言している。

9月9日には、6日から連日全国各紙で大きく報道された医療制度改革の厚労省案を踏まえ、「傷の深さに耐えながら、日本の医療が守れるか、ここ数か月が真剣勝負」「改革だからといって20%もの無保険者を抱えている米国の真似をして国民は幸せになるのか」「これからも我々が国民のために医を通じた奉仕をする志があるのなら米国のようにしたくない、ここが改革のポ

イントだ」と述べている。

診療報酬改定についても、「今回の概算要求シーリングの財政措置からして生易しいものではない。患者負担増を強いられる国民感情や現在の日本の経済状況からも、我々もかつてない覚悟が必要だ。医師会員のために立ち向かうのではない。国民、日本の医療、国家百年の計の為に闘うとした上で、改革案に対しては、血の出る深手を負っても必ず打ち返す。株式会社参入等には日医、医療・政策会議報告書等での理論闘争で修復させる自信はあるし、十分なキャリアーはある」としている。

○我々の頼りとする日医連推薦の武見敬三参議院議員の発言に触れてみる。

骨太の方針（基本方針）については「自助、自立のみしか書かれてない」「社会的連携なくして社会保障は成り立たないのであり、この辺の議論が全く進んでない」「市場競争原理も、これだけで論じられるものではない」「社会保障を軽視した改革は5～10年後に経済は回復しても国民は健康に不安を感じ、未来に希望と明るさが持てない不幸な事態に陥る。英国サッチャーの失敗の歴史がある」「社会保障の基本が何たるか理解できない人達が経済の論理のみで組み立てた、単に経済、財政の視点から組み立てたものだ」等と牽制している。「国家の基本目標は、国民の健康を守り、国民が幸せを追求する機会を増やすことであり、経済の成長や拡大はあくまでその手段である。目的と手段を取り違えると5～10年後の日本は深刻な事態に陥る。より広い視野に立ち、大局観をもって誤りなき判断で、国策を判断、遂行すべきである」とも述べている。

○糸氏副会長も「今回の構造改革は生易しいものではない、革命に近い変革である。方向を間違えば、社会保障の破壊ともなる大きな内容だ。これを正し、小泉内閣が誤りなき改革を行うには日医の主張を医政を通じ国政に反映させる必要がある」と強調している。真の構造改革に向

けた武見議員の獅子奮迅の活躍を期待したい。

ところで、11月7日、8日の新聞各紙に、政府与党の社会保障改革会議WT(ワーキングチーム)が11月6日に発表した2002年度医療改革の中間報告原案が、厚労省内部文書と共に大きく報じられた。見出しは「診療報酬引き下げへー政府1%台巡り調整」「診療報酬2%台下げ」等であったが、これは厚労省文書に折込まれたもので、同省の横やりとも感じられた。

WTの中間報告原案の趣旨は以下の如くである。

2002年度改革

- 1. 公的医療保険による診療と、それ以外(自由診療)との併用を拡大
- 1. いわゆる社会的入院患者の自己負担の適正化
- 1. 大学病院等への入院費用の包括払い
- 1. 205円ルールの原則廃止
- 1. 生活習慣病に対する運動指導などの診療報酬面での評価

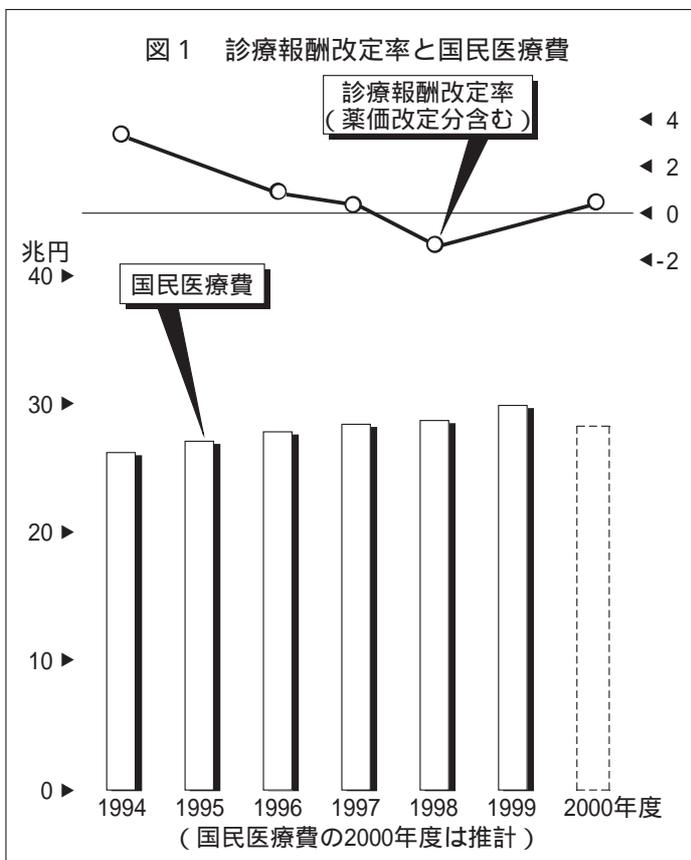
中長期的課題

- 1. 医療技術や医療機関の管理運営費などが適切に反映される診療報酬体系の再構築
- 1. 被用者保険、地域保険の統合、再編  
厚労省文書 ― 今回改正に必要な条件
- 1. 国民全体で負担を分かち合う観点から、2002年度の診療報酬改定はマイナス(引き下げ)が不可避
- 1. 診療報酬改定では2%台のマイナスが必要

WTの中間報告原案は焦点の高齢者医療費の「伸び率管理制度」や「患者負担増」について明確な方向性を示していなかった。高齢者医療費の伸び率管理の導入は医師会の強力な反対「集団罰則的な措置は個人の尊重と平等の理念に反し憲法違反」のキャンペーンに屈した結果と

言える。又、厚労省が、改革は小泉首相のいう「三方一両損」で医療機関にも痛みを求める方針から、診療報酬についてマイナス2%台と踏み込んだのに対し、原案は大学病院の入院医療費の包括払いなど個別の改善策にとどまった。中間報告の原案という性格から、止むを得ない面もあるが、明らかに腰の引けたものとなっていた。周知の如く、平成14年度厚労省概算要求シーリング(8月30日)では、医療費自然増5,500億円に対し、増枠は2,700億円で、2,800億円が縮減された。圧縮費2,800億円の手当てとして、厚労省改革で1,000億円、薬価切り下げで800億円、診療報酬切り下げで1,000億円が考えられた。医療費の1%は約700億円(国庫ベース)とされることから1~2%の診療報酬マイナスとのことである。

1,800億円を全て診療報酬の引き下げで賄うとマイナス2.6%との試算もある。参考までに最近の診療報酬改定を示しておく(図1)。



11月16日になり政府・与党社会保障改革協議  
会 WT から中間報告が発表された。紙面の都合

上詳細は省くが概要は表 1 右側の如くである  
(表 1)。

表 1 医療制度改革 論議の過程

	厚労省試案 ( 9 / 25 )	中間報告原案 ( 11 / 6 )	中間報告 ( 11 / 16 )
患者負担	サラリーマン本人の窓口負担を現行の 2 割から 3 割に, 70 ~ 74 歳は 1 割から 2 割に引き上げ。3 歳未満は 3 割を 2 割に	給付率の 7 割 (患者負担 3 割) への統一については, 種々の意見があったが, <u>やむを得ない</u> との意見が多かった	給付率の統一については現下の厳しい経済情勢との関係などを踏まえ, さらに <u>意見の集約を図る必要がある</u>
高齢者医療制度	対象年齢を段階的に現行の 70 歳以上から 75 歳以上に引き上げ。患者窓口負担を 1 割に統一。高所得者は 2 割負担	<u>実現を図ることが適当</u> との意見が多かったが, 70 ~ 74 歳の患者負担について配慮が必要であるとの意見があった	対象年齢見直しの実現を図ることが適当との意見もあったが, 現時点においては, <u>現実的ではない</u> との意見もあった
老人医療費の伸び率管理制度	経済の動向と大きくかい離しないよう伸び率目標を設定し, その範囲に抑制する枠組みを構築する	<u>反対意見もあり</u> , 公平・公正な伸び率管理の具体的手法を見極め, 意見の集約を図る必要がある	<u>強い反対意見もあり</u> , 公平・公正な伸び率管理の具体的手法を見極め, 意見の集約を図る必要がある
診療報酬	体系的な見直しを進める。次期改定においては, <u>最近の経済の動向, 保険財政の状況等を勘案し, 見直しを行う</u>	体系的見直しの基本的認識は一致。2002 年度改定では, <u>昨今の経済動向に応じて引き下げ</u> るべきだとの意見が多かった	体系的見直しの基本的認識は一致。2002 年度改定については, <u>昨今の経済動向等に応じて判断すべきだ</u> との意見があった

(朝日新聞 平成13年11月19日)

中間報告原案で打ち出していた改革の方向が中間報告から消えたと「骨抜き」が強調され、「患者負担増，診療報酬下げ——中間報告案に明記せず」とも報道された。

即ち，本人の自己負担割合の3割への引き上げについては，原案では「止むを得ないとの意見が多かった」と容認していたが，報告案は「更に意見の集約を図る」と曖昧な表現となった。診療報酬については，原案は「昨今の経済動向に応じて引き下げるべきだとの意見が多かった」としていたが，「経済動向等に応じて判断すべきだとの意見があった」と改めている。「骨抜きになった」とか「危ないトゲが全部抜かれた」と称されている。「明らかな後退」とのため息も漏

れているという。

日医の理論武装と議員相手の懸命な説得，勉強会が効を奏した結果ともいわれている。更には改革反対のための署名活動，新聞広告，ちらし，ポスター配布，決起集会等の賜ともいえる。

しかし，協議会 WT が設定する最終報告のゴールは，11月下旬である。小泉首相は，中間報告で具体的方針が示されなかった（意図的に隠された？）高齢者医療費の上制限や診療報酬見直しなど重要課題について「難しい問題だが先送りしないで結論を下してほしい」と11月末の最終報告までに結論を出す指示をしているという。

本誌が発行される12月にはどうなっていることであろう。

表2 医療制度改革「5つの反対5つの提案」(日医)

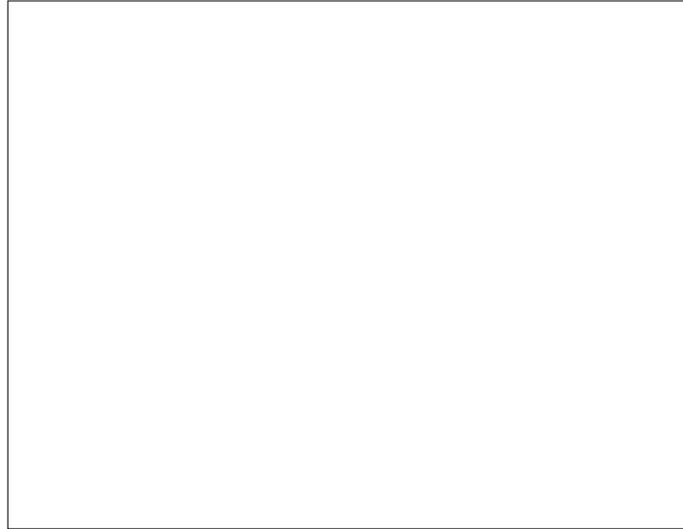
2001.11

反 対	提 案
老人医療費伸び率管理制度 患者負担増 小手先だけの老人保健制度の見直し 保険者による直接審査支払・割引契約 むやみな特定療養費の拡大	高齢者医療制度の創設 被用者保険における保険料総報酬制の導入 薬価・医療材料価格の引き下げ たばこ税の引き上げによる公費財源の確保 一般医療保険の地域保険への一元化

表3 厚生労働省試案に対する日医の見解

医療保険制度	
<p style="text-align: center;">高齢者医療制度</p> <p>老人保健制度の手直しでお茶を濁すことは認められない。</p> <p>高齢者医療制度の創設を求める。</p> <p>高齢者医療制度を創設する前提で対象者を75歳以上にするのは賛成。</p> <p>段階的实施にも賛成。</p> <p>拠出金制度の存続には反対。</p> <p>拠出金制度は廃止することを求める。</p> <p>財源構成 公費50% 拠出金40% 自己負担10% には反対</p> <p>公費90% 保険料・自己負担10%を基本とすることを求める。</p> <p>(一般医療保険に投入されている公費も重点的に投入)</p> <p>集団罰則的医療費抑制策には反対。</p> <p>合理的の包括制, 大病院に対する総額予算制, 介護保険制度との調整等の制度論的アプローチで対応することを求める。</p> <p>自己負担率10%には反対。</p> <p>自己負担率5%とすることを求める。</p> <p>外来月額上限制・定額負担制の廃止には反対。</p> <p>所得によって自己負担に差をつけることには反対。</p>	<p style="text-align: center;">一般医療保険制度</p> <p>制度一本化を展望して被用者保険内及び国保内の財源調整の段階的開始を求める。</p> <p>国レベルでの国保未収金対策の開始を求める。</p> <p>政管健保の負債対策の開始を求める。</p> <p>財源構成 保険料80% 自己負担20%を基本とすることを求める。</p> <p>(公費負担医療を除く)</p> <p>保険料総報酬制には賛成。</p> <p>公費の不足財源はタバコ税の増税で対応することを求める。</p> <p>自己負担率30%で統一には反対。</p> <p>自己負担率20%で統一することを求める。</p> <p>(70~74歳は当面10%)</p> <p>薬剤二重負担廃止には賛成。</p> <p>205円ルールの撤廃には反対。</p>
<p style="text-align: center;">診療報酬・薬価基準制度等</p> <p>医療提供のコスト構造に係る分析・検証には賛成。</p> <p>技術料や運営コスト等を踏まえた診療報酬体系の構築には賛成。</p> <p>診断群別診療報酬支払方式の調査検討を急ぐことには反対。</p> <p>拙速を避け, 研究調査方法等根本的な見直しを行うことを求める。</p> <p>むやみに特定療養費の拡大を図ることについては反対。</p> <p>普遍的な医療については材料等を含め迅速に現物給付化することを求める。</p> <p>薬価・保険医療材料価格の適正化には賛成。</p>	<p style="text-align: center;">保険者機能</p> <p>組合健保の直接審査支払には, 条件整備がされない限り反対。</p> <p>組合健保の割引契約には反対。</p> <p>複式簿記による会計方式の確立を求める。</p> <p style="text-align: center;">医療提供体制</p> <p>営利企業の参入には反対。</p> <p>IT化の推進には賛成。</p> <p>健康づくり, 疾病予防の推進には賛成。</p>

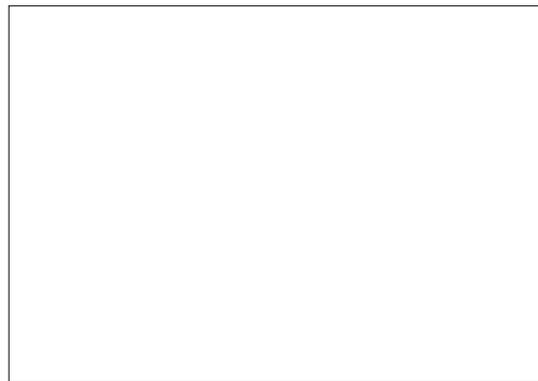
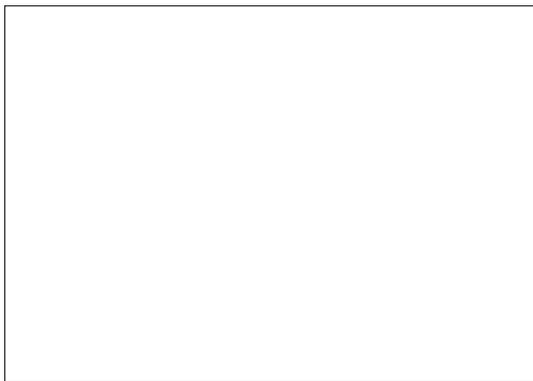
## 宮崎県献眼顕彰慰霊碑除幕式



11月4日、宮崎みたま園（宮崎市）において、献眼顕彰慰霊碑除幕式が、献眼者のご遺族をお迎えし執り行われました。

宮崎県で初めての献眼から25周年、また、もうすぐ県内での献眼者が100名に達しようとしているこの機会に、献眼者の功績を称え、永く顕彰するため、本会、眼科医会、宮崎県アイバンク協会、宮崎県アイバンクライオンズ協力が協力して建立したものであります。

慰霊碑建立にあたりましては、会員の先生方からもたくさんのご寄付をいただきました。心より感謝を申し上げます。



## 各都市医師会だより

## 西 諸 医 師 会

西諸の地も生駒高原のコスモス，えびの高原の紅葉も終わり，本格的な冬の季節が到来します。

連日マスコミを賑わしている聖域なき構造改革の名のもと医療費削減，全ての患者の一律の負担増等取り沙汰され，私達医療に携わる者にとって大変な時期が来ると思われます。私達も将来の医療はどうあるべきか確かなビジョンが提示され，納得のいくものであれば，ある程度の痛みは覚悟しなければと思いますが，まだ雲の中にいる様です。

前回の医師会だよりから10か月が経過しています。現在の会員数は126名でA会員B会員ほぼ同数です。年齢別にみますとA会員で30代，40代の会員が15名，全会員では60歳以下の会員の占める割合が約70%で，少しずつ若い会員が増えています。現在も西諸医師会事業計画に則り，粛々と会の執行を行っています。他の都市医師会でも同じ様な問題を抱えていると思われますが，今後，当医師会が最も考えていく必要がある一つは，看護学校の問題だと思われます。少子化等の影響があり年々受験者が減少してきており，これからも同じ傾向は続くと思われます。入学しても現在の若人氣質でしょうか，退学する者もでてきています。検定試験の合格率も下がってきています。

看護学校のこれらの色々な問題等を会員の先生方の英知を結集して解決していく必要性を痛感しています。

( 榎 健一郎 )

◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇

## 宮 崎 医 科 大 学 医 師 会

国策によって設置された12の国立医科大学は，今，国策による再編統合と法人化という二つの難問と取り組んでいる。宮崎医科大学と宮崎大学は，中間まとめの段階では統合の合意書の調印にいたらなかったが，引き続き統合を前提に検討作業を行っている。

空席の教授のうち，第一外科学は肝胆膵外科の専門家を対象に選考中であり，衛生学と臨床検査医学は新構想の下で募集中である。

( 南嶋 洋一 )

◇ ◇ ◇ ◇

## 宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市地域医療センター構想の中における緩和ケア病棟，医師会病院新棟が完成し10月31日に引き渡しが行われました。12月1日には記念式典が行われます。素晴らしい緩和ケア病棟と新棟が完成したことにより，旧棟の利用にも余裕が出来，会員の先生方の要望を受入れやすい環境が整いました。病診連携が更に充実するものと期待しています。

( 元村 祐三 )

◇ ◇ ◇ ◇

## 都城市北諸県郡医師会

現在国会においては、いよいよ医療制度改革が正念場を迎えようとしており、この先どのように展開していくのか予断をゆるさない状況にあります。私共は、市場原理を否定することは出来ませんが、経済主導のみを優先にしたのでは、破綻したアメリカ型医療制度の轍を踏むことになると思います。

今政府が推し進めようとしている医療制度改革は、まさにこのアメリカ型医療制度の方向に向かいつつあります。私共医師会員は、単なる既得権益を守る為ではなく、このままでは現在の医療制度が将来どのように変わることになるのかを広く地域住民にも知ってもらうことに努めることが大切であると思います。

(石井 芳満)

◇ ◇ ◇ ◇

## 延岡市医師会

10月22日に日向市東臼杵郡医師会と延岡市医師会の合同理事会が日向市で開催されました。日向市東臼杵郡医師会の先生方より歓迎を受け、看護学校問題や小児救急医療問題等で今後も更なる連携を計ることで話が盛り上がりました。また、日向市東臼杵郡医師会作成の“医療ガイド”という医療機関マップを見せていただきましたが、その素晴らしいできればえは目を見張るものでした。日向市東臼杵郡医師会の先生方には大変お世話になりありがとうございました。紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

(佐藤 信博)

◇ ◇ ◇ ◇

## 日向市東臼杵郡医師会

日向市市制施行50周年記念式典が10月16日にあり、市制発展の功労で「満20年以上学校医」二木秀人、渡邊得三、松岡 弘、田中留志男、黒木俊男、浦上 裕、永田是信、甲斐文明、三ヶ尻栄一、長田憲二郎、田中則光、鮫島哲也各先生、「満12年以上」稲原明肆、大久保史明、瀧井 修、渡邊康久、山元一裕、和田徹也、三股俊夫、井ノ口 裕、中村恒雄各先生(年数の多い順)、「福祉、衛生部門」で千代反田 泉、森山英五郎各先生が表彰され代表で二木秀人先生が受けとられ、全体の被表彰者を代表して千代反田 泉先生が謝辞を述べられた。

(甲斐 文明)

◇ ◇ ◇ ◇

## 児湯医師会

11月13日、当医師会立児湯准看護学校の戴帽式がありました。3月までにすでに802名を送り出しており、今回は第39期生17名です。近年は男性も多くなり、今年も3名入っております。年々運営は厳しくなっていますが、看護婦(士)養成の火を消さぬ様頑張っていきます。

(黒木 宗俊)

◇ ◇ ◇ ◇

## 西都市・西児湯医師会

11月7日、西都市長、市議会議長、議員の代表の方と西都医師会理事とで医師会立西都救急病院懇談会を開催致しました。

日野市長さん、議員の方も医師会病院が西都市周辺市町村の救急医療の核であり、市民の命、暮らしを守るためにも欠かせないものであるので、一層の協力をすると心強い約束をして下さいました。

又、将来の新病院建築についてもそろそろ準備しなければならぬということでも意見が一致しました。

懇親会も大いに盛り上がり、ヤクルトスワローズ日本一でにぎわう西都の夜の街に2次会、3次会と繰り出しました。

とても有意義な晩秋の一夜でした。

(相沢 潔)

◇ ◇ ◇ ◇

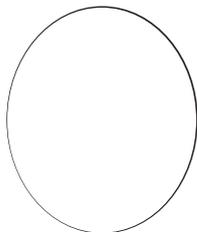
## 南那珂医師会

医政連盟活動についての提言。先の参議院の選挙に関しては、当医師会の医師連盟も県の秦委員長意向を受けて岩田委員長以下武見候補の後援会名簿獲得などずいぶん力を入れました。しかし獲得出来た票は惨憺たるありさま、このような票くらいは各郡市医師会以上の政治連盟の役員が本人、奥方、従業員2人計4人を獲得すれば充分と考えます。来年の医療費改正については署名活動、無駄な行為と費用がかかるハチマキをしめての決起大会はやめ全国紙の一面広告を使って医師会の言い分、主張を広く国民の皆さまに知ってもらうべきだと考えます。厚労省の幹部にFAXを大量に出すのも効果あり(紙代は向こう持ちですから)と思います。反論、賛成の意見はEメールでください。mtoyama@miyazaki.med.or.jp(紙代はいりませんから^^)。

(外山 衛)

## 宮崎医科大学だより

### 精神医学講座



みつやまよしお  
三山吉夫 教授

現在当教室では、三山吉夫教授以下、石田助教授、植田講師、石塚講師、他助手6名(うち臨床心理士1名)医員及び研修医7名で診療・教育・研究を行っています。

精神疾患全般を対象にした外来・病棟診療に加え、痴呆・思春期・てんかんを対象にした特殊外来も行っており、各専門外来を期待して来られる患者さんも増加しております。

未来の宮崎県医療を支える学生に対する教育は大学病院に課せられた大きな責務と考えております。臨床実習開始前に、実習が行えるだけの態度、技能、知識を身に付けているかを如何に評価し、教育するかが最近の大きなトピックスです。宮崎医科大学でもその重要性が検討され、客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination; OSCE)が将来医師国家試験に導入されることが予定されていることから、精神科においても面談方法や病歴の聴取と記載方法を評価に加えるなど学生の实習方法に工夫を凝らしているところです。

研究活動としては、三山教授が痴呆患者の臨床と神経病理学に取り組む一方で、アルツハイマー病やピック病等の変性疾患における分子生物学的研究にも着目し、医局員を指導しております。

林助手らはベータアミロイド蛋白によるフリー

ラジカル産生機構について工学的手法を用いて検討しています。

石田助教授、橋口助手、武田助手らのグループは、精神活動に関連する初期転写因子蛋白発現を免疫染色を利用し大脳機能のマッピング研究を展開しております。

石塚講師は第一生理学教室との共同研究を進展させるために、平成12年1月から平成13年1月まで豪国モナッシュ大学医学部薬理学教室へ留学し、同教室と脳虚血に対する抗酸化物質の効果についての共同研究を行っています。

植田講師、土井助手(平成13年度長期在外研究員として米国セントルイス大学薬理学教室に留学中)、徳丸助手らは実験てんかんモデルを作成し、on-lineで海馬におけるグルタミン酸遊離やラジカル発生を補捉する方法を確立しました。土井助手が行った外傷性てんかんモデルにおけるグルタミン酸輸送蛋白発現に関する一連の研究が認められ、「陸の孤島」で研究費もさほど多くはない教室でありながら、第23回日本生物学的精神医学会において最優秀論文賞を受賞しました。

青少年の心の問題や、急速に進行しつつある高齢化社会における痴呆性疾患の患者さんへの対応まで、精神科医として立ち向かわなければならない社会問題は、幅広きにわたります。

近年、精神科への入局者がにわかになんぞ増しており、この現象も社会のニーズが次第に若い医学生を刺激してきた証であるとも思われます。今後、さらに医師会の諸先生方の御指導を仰ぎながら、教室内容を多方面に充実させていきたいと考えております。

(医局長 植田 勇人)

## 各種委員会

## 医療安全対策委員会

と き 平成13年10月29日(月)

ところ 県医師会館

西村常任理事の司会により、秦会長および高濱委員長の挨拶の後、協議が行われた。

協 議

ヒヤリ・ハット事例アンケート調査「インシデント・レポート」の集計に伴う評価について  
先ず、9月29日(土)福岡市において開催された九州医師会連合会医療安全対策協議会について、資料により、九州各県医師会における委員会の活動状況について報告された。

その後、資料により、インシデント・レポート集計結果の説明が行われ、「この体験で得た教

訓やアドバイス」の意見等記入事項の多い「確認」「抑制・固定」の2項目について内容を分析することになった。

その結果については、医療事故・医事紛争の発生を防止するための対策について「各科別事故対策」の完結編の冊子を印刷の予定であり、集計結果及び分析内容を入れる予定である。

出席者 - 高濱委員長、元村・金丸副委員長、  
石井・牧野・蟻塚・上山・山口・大森・  
上原・殿所委員

県 医 - 秦 会長、志多副会長、西村・早稲田常  
任理事

事務局 - 鳥井元課長

## 予 告

## 宮崎県医師会役員等の選挙について

本会定款等の変更等につきましては、平成13年8月28日開催の第128回本会臨時代議員会及び9月8日開催の第56回本会臨時総会において承認を得て現在、県へ定款認可申請中です。県知事の認可のあった日から施行される予定になっております。

現在の本会役員（会長、副会長、理事、監事）等の任期は来年3月31日をもって任期満了となります。

これに伴い、次期本会役員選挙は、次期代議員による臨時代議員会において行われることとなりますが、新定款の施行により平成12年度就任した本会代議員及び予備代議員の任期は特例として1年11か月（平成14年1月31日迄）となります。

代議員及び予備代議員選挙は、新定款施行細則により各郡市医師会に委託して行うことになっております。念のため申し添えさせていただきます。

日本医師会及び九州医師会連合会との関係等諸般の事情もあり、次のとおり臨時代議員会を開催する予定にいたしておりますので、予めお知らせいたします。

おって、役員等選挙の告示は日州医事1月号に掲載する予定です。

## 第129回本会臨時代議員会（次期役員選挙）

と き 平成14年2月26日（火）

と ころ 宮崎県医師会館 4階研修室

## 各 郡 市 医 師 会 長 協 議 会

と き 平成13年9月4日(火)

ところ 県医師会館

稲倉常任理事の司会により、秦会長の挨拶に引き続き開催された。

### 報 告

#### 1. 8/28(火)(日医)都道府県医師会長協議会について (大坪副会長)

冒頭、坪井会長から挨拶があり、医療制度の改革論議は9月末から緊迫感を増して来るだろう。日医は高い見地からプロフェッショナルとして、国民のために医療がどうあるべきか、真摯に考えてゆく必要がある。9月末になると、改革の各論が出てくるであろう。日医は、日本の医療制度を良くするために、変える必要があるところは変えるが、変えてはいけないところは死守する立場で臨んで参りたい。

続いて、系氏副会長から「医療を取り巻く現状報告」と題して、まず、高齢者医療制度の日医案について説明があった。今年3月に日医が医療構造改革構想を冊子にしたが、平成14年度から段階的に施行するとしている。対象年齢は71歳から、毎年一歳ずつ引き上げて、最終的には75歳にする。公費負担割合は最初50%からスタートして毎年10%ずつ引き上げて、最終的には90%にまで引き上げるという案である。一部負担金は、制度創設時には加入者の保険料と自己負担で10%程度を負担するという構想である。老人保健拠出金に健保連、国保が困っているわけだが、拠出金は40%から年々引き下げていって、最終的にはこれをゼロにするように日医は考えている。

一般医療保険制度については、被用者保険の保険料の賦課方式を見直して、保険料を高

くするというで考えている。

社保に対して、給付率は現在90%から80%に下がっているが、これ以上下げることはいないので、現在の給付率を続けていこうということである。自己負担限度額も、所得の伸びが鈍化している現状では見直しすべきではないという考えである。

一般薬剤の別途負担の見直しについては、所要の財源としては、薬価と材料価格基準の大幅引き下げによって確保するというもの。平成12年度の薬剤費は約7兆円だが、これを5%引き下げることになると、そこで3,500億円の財源が得られるということである。薬業界の経常利益を考えると5%引き下げるとは可能であると思われる。

診療報酬改定については、日医は大学病院・国立病院系列の「特定系統」とそれ以外の「一般系統」に分けて考えている。一方、物と技術の分離、薬価引き下げ等による財源確保を主張し、長期療養者に対しては、合理的な包括支払方式を受け入れるとしている。

政府の経済財政諮問会議は6月21日に基本方針を発表し、6月29日に閣議決定した訳だが、内容をみると、聖域なき財政構造改革といいながらも、医療費の圧縮になっている。今後、具体的な論議が出てくると思われるが、日医はその出方を見ながら対策を考えていきたいと言っている。系氏副会長の話は、「医療をとりまく現状報告」ということで以上のよう内容であった。

終了後、都道府県医師連盟委員長と日本医師連盟常任執行委員の合同会議が行われた。

ここでは坪井委員長が今回の参議院選挙では全力をしぼって頑張った。各都道府県医師連盟には非常にお世話になりましたということで感謝の言葉が述べられた。武見議員から、高位で当選させていただき感謝の言葉があった。当選させていただいたことでこれから国政の場で精一杯活躍していきたい。

坪井委員長から、小泉内閣の政策に対しては、第1ラウンドは小泉軍団の言いたい放題言わせてきたが、こらからの第2ラウンドは、たとえ抵抗勢力といわれてもプロフェッショナルとして日医の医療政策をまっしぐらに押し進めて戦って行く強い決意を述べられた。

## 2. その他

### 1) 准看護婦の資格試験について

(瀬ノ口常任理事)

県福祉保健課からの連絡によると、日時については、平成13年度から九州各県は同一日時に実施予定で2月15日頃の予定。試験問題については、平成15年度から九州各県統一した問題を作成の予定である。

### 2) 日医2001年特別記念事業全国医師親睦野球大会について(河野常任理事)

7月21日(土)福岡市において地区代表決定戦が行われ、九州ブロック代表の本県チームは、中国四国ブロック代表の広島県チームに4対0で勝利し、9月20日(木)東京ドームにおいての準決勝へ進出が決定した。

### 3) 国保の資格証明書の発行について(大坪副会長)

宮崎市郡医師会からお尋ねの「国保の資格証明書」の発行について、昨年4月に国民健康保険法の一部改正があり、国民健康保険の保険税の滞納者に対する対策として、1年以上保険税を滞納しているものに対し、平成13年4月から国民保険証に代り、国民保険の被保険者資格証明書を交付する

ということが義務化された。

各医療機関に資格証明書を持参したものは医療機関で医療費を窓口で10割徴収する。それに対しては医療機関は領収書を発行する、ということである。医療機関は診療すると、その患者のレセプトを国保連合会に提出する。その際、特別療養費と書いて提出し、国保連合会の審査を受けるということになっている。患者は10割を医療機関で支払うと領収書を添付して、療養費を市町村に支給申請し、償還払いを受けるという制度である。市町村は審査結果に基づいた療養費を患者に支給する。宮崎市では平成13年10月から資格証明書を発行することになるので各医療機関に協力して欲しいと通達があったということである。

この問題について、既に平成13年4月の日医代議員会内容の記事として、日本医師会雑誌平成13年4月15日号に菅谷常任理事の回答が掲載してある。日医としては、保険税滞納者対策として、国民健康保険法の一部改正については国民皆保険を維持する立場からやむを得ないことと考えている。

万一資格証明書をもった患者が医療機関に来て診療費を支払わない場合、これは、市町村と話し合いをして欲しい。日医は、この診療費については、医療機関に支払うように厚生労働省の確認を取っている。資格証明書を持った患者に対しては、10割窓口で診療費を徴収して、滞納者が増えないようにすることに協力して欲しいということである。滞納者を許していたら国民皆保険が破綻する。

先日の都道府県医師会長協議会のときに菅谷常任理事と話し合いをしてきた。平成13年4月から全国的に資格証明書が発行されているようだが、今のところ、トラブル

があった報告はないということ。若し、トラブルが起こった場合には、日医にも報告し、市町村と話し合っただけで済ませたい。市町村が払わないということは言えないとの回答であった。

## 協 議

### 1. 宮崎医科大学からの救急医療センターへの医師派遣協力について

( 都城市北諸県郡医師会 )

柳田会長

救急医療の問題に関しては、県全体のレベルで協議しなければならない非常に緊急の問題となってきた。

救急センターへの宮崎医科大学からの医師派遣回数がいずれの医局からも段階的に減らされており、その分を医師会員の当直回数を増やすことで対応しているが、高齢会員、勤務医師会員を除くと実質、夜間勤務可能な会員は限られている。現在既に限界の状態であり、これ以上、派遣回数が減るようなことになると、当地域の夜間救急医療の体制は後退の方向で見直しを図られるというような状況に陥ってくる。

近年非常に問題になってきた小児救急医療体制は、小児科医師が不足しており、これは全国的な傾向であろうかと思うが、救急医療体制基本問題検討会報告書においては、人材養成に努め、必要な小児科医師を確保するなど小児の救急医療体制の一層の充実が望まれるというような文書に留まっており、さて、これを具体化するのにどうするのかと。現在、私共の病院は小児科医師は、福岡大学からお願いしているところである。これはやむを得ない事情が3年ぐらい前にあったように聞いている。

救急医療は医の原点だと思うが、現在、基本問題検討会報告書等に出ている救急医療に

関するところは、文章としては納得できるが、では人材をどうするのかという非常に厳しい面がある。県医師会レベルで一つご協議をお願いしたい。

その後、救急医療センターを運営されている各都市医師会の運営現状等の説明が行われた。

最後に宮崎医科大学医師会住吉会長から、次のとおり説明があった。

基本的に理想論を述べると、この問題は地方自治体が、本来いろいろすべき問題ではないかと思っている。国としてはこの問題に対して、地方交付金を出してやっているはずである。しかし、その理想論や建前論は別として、現状で宮崎医科大学のことを述べると、まず、「ない袖はふれない」という一言に尽きるところと思う。医大に残るものが非常に少なく、そのために各医局も医師の数が非常に減っているということが第1である。

2番目は平成12年4月から、厚生労働省の不祥事をきっかけに、国家公務員倫理法を作ってきた訳であるが、国家公務員倫理法によると、公務員を逸脱するというか、公務員としての仕事をきちんとするということが第1であり、そのことで少なくとも大学の職員というものは外へ出るのはきわめて規制されてきた、ということである。もし違反する事態が起こると、その科長の責任はもとより、学長にも及ぶ訳である。

そのことは確かに私が病院長になって、兼業審査委員会委員長を兼務しているので強調したことは事実である。

3番目は某病院事件があり、これと前後して、各大学でもそうであったが大学院生が学生でありながらよそへ出るのはどういうことだと、そして、しかも某病院では大学院生が3人、職員として保険証ももらい、給料もも

らっていたということである。このことは全国的にも厳しく問われた訳であり、これは、病院長の権限ではなくて、教育担当副学長の権限になる訳で、そのため今度は大学院生がよそへ出るということが厳しい目で見られるようになった。その3点が大きな問題である。

そういうことで各医局の先生もこのような事態を踏まえてよそへ出るのを制限しておられるというふうに思う。

あと、もう一つは先生方ご存知のように、平成16年度から研修医の必修化という問題がある。このことについては、一つの目的は、十分な研修をさせるということである。十分な研修をさせるにはどうするかというと、アルバイトをしないで、その研修医がやっていけるだけの給料をやるということである。そうすると、それが発効した時点で、向こう2年間研修医は外へ出ないという事態が起こってくる訳である。この問題に関しては、秦会長には申し上げたが、私たちは宮崎医科大学だけ、あるいは県立宮崎病院だけで研修するというようなことではなくて、研修に関しては大学を中心に幾つもの研修病院群、場合によって特定の診療所を加えた、病院群を作って研修させようと思っている。ある資格を満たしたところはそれにいれて研修医を出せるような方策を講じようとして、国立大学病院長会議でもそのことを文部省、厚生労働省に要望しているところである。まだはっきりした見解は出ていないが、聞くところによると、病院群での研修は認められる方向にある。それで多少は、その2年間を凌げるということになるかもしれない。

それから先ほど柳田先生も述べられたことだが、県が県全体を見渡して救急問題をどう考えるかということに関しては、私も県福祉保健部長に頼んで、県福祉保健部の人たち、

県立3病院の院長、事務長も一緒に話し合いをしたことがある。県の当局もそういうことを考えて県病院の医師も救急病院で働く、たとえば延岡地区であると、県が救急病院のセンターになるべきであり、そのような拠点病院づくりと、全体をあげての救急体制の確立というのを県のレベルで考えるべきではないか、ということをご提案した。しかし、県はなかなか腰が重くてほとんど動かないと思っている。だから先生方全員がそれぞれ県に要望していかないと、おそらく新しい体制を構築するというようなことは難しいかもしれないと思っている。

皆様への協力については宮崎医科大学の各医局はおしまないというふうに言っているが、今言ったような事情でなかなか出れない、宮医大に残るものが少なくて医局員が全体として少ない、というところに大きな問題があるのだということである。

それから小児救急のことに関しては、早稲田常任理事が小児救急の問題についてアンケートをとられたかと思うが、その時に宮医大の小児科の医局長と教授を呼んで私の部屋で話しを聴いた。彼らは医師が増えるよりほかにはどうしようもないという一点だけの答えであった。もう少し、他に何か現状でいい方策はないのかと重ねてたずねても、その返事のみであった。

もう一つ、研修医が宮崎医科大学は少ないというのは、実は研修医の人数も本省から示達される人数が少ない訳である。なぜ少ないのかと言うと、前年度の研修医の数、外来の患者数というのが次年度の研修医の数を決めるのに非常に大きなファクターになる訳で、宮崎医科大学は全国一外来患者数が少ない病院である。したがって私が病院長になったとき、外来の患者さんをたくさん紹介していた

だきたい、そうして外来の患者を増やしたいとお願いしているのだが、なかなかそのことが実現されていない。だから、今度は、病・病連携、病・診連携ということで県医師会ともいろいろな約束事を取り交わそうとしている。そういうことで 地域医療への貢献をもっと広くやって、外来患者を増したい。その手始めとしているんな医療相談に応じようというようなことをもうすぐ実行に移す予定である。

先生方のいろいろなご意見等をいただきながら、なるべくそれに応えるようにして参りたいと思っており、ご理解いただきたい。

その後、意見交換が行われ終了した。

#### 出席者

各都市医師会 - 綾部・柳田・市原・千代反田・山口・大塚・岩田・前原・住吉会長  
県医師会 - 秦 会長,大坪・志多副会長,稲倉・西村・富田・早稲田・瀬ノ口・河野・濱砂・夏田常任理事,和田・永友・浜田・長田・高崎・小玉・吉田理事  
事務局 - 日高局長,小橋川・鳥井元・島原・児玉課長

## 九州ブロック医師会 広報担当理事連絡協議会

と き 平成13年10月19日(金)

ところ 福岡市・シーホークホテル&リゾート

常任理事 富田 雄 二

九州沖縄 8 県と日医山田常任理事の出席の下に、下記の協議が行われた。

### 1. 医師会の広報活動と医師連盟の関わりについて

現在、医師連盟事項の報告を医師会会報に掲載しているのは、宮崎県、佐賀県、長崎県の3県のみである。熊本県医師会では医師連盟会費徴収方法でマスコミから強く攻撃された経緯が報告され、医師会と医師連盟とを明確に区別する必要性において各県の認識が一致した。

宮崎県においてもこの問題について議論してきた経緯があるが、今回の各県の対応をみて、早急に対応策を講じる必要性を感じた。

### 2. 地方紙による意見広告への費用援助について

日医の行っている全国紙による意見広告はそれなりに効果があるが、地方紙への掲載がよりきめ細かな広報活動につながるのではないかと提案がなされた。

これに対しては、日医も全国の購読率を調査し、今後は、全国紙1紙+各地の地方紙1紙という形で意見広告を出していく方針が伝えられた。

### 3. 新聞等の医師への誹謗記事に対する県医師会の対応について

毎日新聞に掲載された205円ルールに関する

記事のように、根拠に基づかない誹謗記事があるが、それらへの対応を協議した。この問題に対しては日医から、医師会が組織として問題を取り上げ、相手側のメディアのトップへ「質問状」の形で問い合わせをすることが効果的であることが報告された。

### 4. 政治活動の会員への伝達方法について

先般の参議院選挙において、医師会推薦候補に対する会員の反応が思わしくなかったことから、その活動の広報方法について協議された。各県とも医師連盟便りや講演会開催などを行っている。日医に対しても、より積極的な広報を求めたが、あまりに個人を取り上げて広報を行うと、支持政党の他の議員から反発もあるのでなかなか難しいとのことであった。

### 5. 対外広報活動の問題点について

医療制度改革を目前にし、いかに医師会の考えを一般国民に伝えていくのが効果的かという問題が日医より提案され、協議した。国民に対しては、イラストなどを用いたよりわかりやすいメッセージを出すことが必要であるという認識で一致した。また、直接政策を訴えるだけでなく、医師会のイメージアップにつながる広報活動の重要性を提案した。

出席者 - 富田常任理事、高崎理事  
崎野課長補佐

## 九州医師会連合会第243回常任委員会

## 報 告

## 1. 九州医師会連合会事業現況について

平成13年9月末日までの常任委員会、各種協議会その他の大会、会議に係る開催状況とその主な協議事項、議事等の説明があり、予定どおり順調に推移している旨の報告があった。

## 2. 九州医師会連合会歳入歳出現計について

本年度9月30日現在の歳入歳出現計が報告され、了承された。

なお、現計と差引残高は次のとおり。

歳入合計	54,620,349円
歳出合計	10,711,178円
差引残高	43,909,171円

## 3. 第101回九州医師会医学会及び関連行事について

臨時委員総会などの前日諸会議、合同協議会、総会・医学会をはじめ、分科会(9)、記念行事(8)の概要について報告があった。

## 協 議

## 1. 第101回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について

去る9月29日の当委員会において承認された宣言・決議(案)については、引き続き開かれる第82回臨時委員会の議事として提案することに決定した。

と き 平成13年10月19日(土)

ところ 福岡市・シーホークホテル&リゾート

## 2. 九州医師会連合会・九州各県医師会役員合同協議会の運営について

終了時間を繰り上げ、参議院外交防衛委員長で自民党医療政策副委員長でもある武見敬三参議院議員に挨拶してもらうことが承認された。

## その他

## 1. 第26回日本医学会総会について

第82回臨時委員総会において、杉岡洋一会長が発言することが認められた。

なお、標記総会は次のとおり開催される。できるだけ早めに事前登録をお願いしたいとの依頼があり、了承された。

会 期：2003年(平成15年)4月4日(金)

5日(土)

6日(日)

開催地：福岡市 福岡国際会議場(建設中)  
福岡サンパレス  
シーホークホテル

## 2. 医療保険制度改革に対する反対キャンペーンについて

今般、報道されている患者負担増による医療保険制度改革に対する反対キャンペーンとして、署名運動・意見広告・決起大会等の実施依頼が日本医師会から来ているので、その対応について意見の交換が行われた。

出席者 - 秦会長, 日高局長

## 九州医師会連合会第82回臨時委員総会

関原九医連会長挨拶の後、日医坪井会長及び宮崎参議院議員の来賓挨拶が行われた。

その後、関原九医連会長が座長に選出され、報告・議事が行われた。

### 報 告

#### 1. 第243回常任委員会について

本委員総会に提案する報告事項等についての協議が行われ、了承された旨の説明があった。

#### 2. 九州医師会連合会事業現況について

本年4月1日から9月30日までの事業現況について説明が行われた。

#### 3. 九州医師会連合会歳入歳出現計について

本年9月30日現在の歳入歳出現計について説明が行われた。

#### 4. 第101回九州医師会医学会及び関連行事について

10月19日(金)前日諸会議、20日(土)合同協議会及び九州医師会連合会総会並びに九州医師会医学会、21日(日)分科会・記念行事についての説明が行われ、了承された。

### 議 事

#### 第1号議案 第101回九州医師会連合会総会の宣言・決議(案)に関する件

関原九医連会長から、担当の福岡県医師会において原案を作成し、九州各県医師会及び日本医師会のご意見を伺って、本日提案している旨の説明が行われた。

村岡九医連委員(福岡県医師会)から、宣言・決議(案)の内容について朗読が行われ、原案どおり承認されたので、10月20日(土)の総会に上程することになった。

### その他

#### 第26回日本医学会総会について

杉岡日本医師会医学会総会会頭・九州大学総長から次のとおり挨拶(要旨)が行われた。

日頃、日本医学会総会につきましてご支援賜つ

と き 平成13年10月19日(金)

ところ 福岡市・シーホークホテル&リゾート

ております日本医師会そして九州各県医師会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

日本医学会総会は、明治35年に第1回が東京で開催されて以来、4年毎に開催されており、今回が26回目に当たります。

過去約100年に亘って東京・大阪・京都・名古屋の4大都市に限り開催されておりました日本医学会総会が初めて九州の福岡で開催され、かつ21世紀の最初の総会であるという記念すべき総会となっております。なお、2003年は九州大学医学部創立百周年に当たる年でもあります。

現在、日本医学会は95分科会を擁していますが、第26回の医学会総会は内科学会を初め24の分科会が開催されることになっております。学会の運営、準備委員会等を含めまして日本医師会の理事の先生方、九州各県医師会及び中・四国医師会の先生方から委員を出していただいております。先生方のご指導ご鞭撻をいただきながら実りあるものにして行きたいと思っております。

経済状況が悪いので、寄付を頂くことも非常に困難な状態でございます。是非、なるべく早くご登録いただき、一人でも多くご参加下さいますようお願い申し上げます。

今後共、九州で初めて開催されます医学会総会が成功しますようにご指導ご支援賜りますよう心からお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

#### 第26回日本医学会総会の会期と開催地

2003年(平成15年) 於;福岡

総 会 = 4月4日(金)~6日(日)

分科会 = 3月~6月

出席者 秦 会長, 大坪・志多副会長, 稲倉常任理事, 大塚・岩田日医代議員  
日高局長, 小橋川・鳥井元課長

## 九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員 合 同 協 議 会

関原九医連会長の座長により、日医坪井会長から、九州各県医師会から事前提出の質問・要望事項を踏まえて、中央情勢についてスライドを使用し講演が行われた。

医療制度改革論議はどこをターゲットにしたら良いか分かった。旧大蔵官僚である。経済財政諮問会議、総合規制改革会議は医療が分かっていないということをお願いしてきたが、これから先は、財政論議になってくるので、それに対して日医は対応して参りたい。

確認の第1点は、日医の政策は、医療の倫理、ヒューマニティを含めて医療の原点を踏まえた政策である。その方法論として、財政的な問題も日医の案として提議する。原点は医療の本質である。

第2点は、改革論議であるので、何を変えなければいけないのか。改革の中でも変えてはならないものが沢山ある。勇気をもって主張しなければならない。

第3点は、日医の政策としての基本は医療構造改革構想と2015年医療のグランドデザインである。これが日医の主張であり、方法論である。

第4点は、改革論は、今の医療の中で改革の必要なものは、中長期的なスタンスで改革していかなければならないもので、基本的な哲学論争をしながら中長期的に変えなければならないものと短期的な決着が必要であるもの。例えば、診療報酬改定の問題、薬価の問題等があるので、こういう問題を分けて論議の必要がある。

日医の医療政策である医療構造改革構想を全面に打ち出して、正面から堂々と押し切っていく。財務省主計局が論点として示した改革案については、争点は、医療保険給付率の7割統一、国民全体の医療費の伸びを年1%程度に抑制、経済動向にあわせた診療報酬の引き下げと薬価の引き下げに集約される。医療を変えるという

と き 平成13年10月20日(土)

ところ 福岡市・シーホークホテル&リゾート

哲学がどこにも入っていない。

厚生労働省が改革試案で、21世紀保健医療ビジョンに示した当面の施策については、われわれの考えとそうかけ離れたものではない。

今後の話し合いで日医の主張にかなり近づける。現在は厚生労働省が財務省と日医の調整役という図式になっているので、激励、督促して改革を進める。医療保険給付率については、7割統一に反対、中期的目標として一元化・一本化論議を再興させる。

経済財政諮問会議、総合規制改革会議が打ち出した改革の具体的項目については、公的保険と自由診療の併用を認める公民ミックスによる医療サービスの提供と株式会社の医療経営参入が大きな議論になる。両会議及びバックにいる旧大蔵官僚が主張する医療への市場原理の導入は、米国で失敗したものをなぜ、皆保険の日本に持ち込もうとするのか。米国では、HMOの出現で患者のアクセスに制限がかかり、医療が市場での取り引きに乗ったことで、多様なアウトソーシング会社が登場するなど企業は急成長したが、無保険者は放置された。

医療はどんな政策より一般市民を直撃するため、危険な感情的、政治的領域に触れざるを得ない。マンハッタン計画っぽい雰囲気の中で政策が決定されやすい側面がある。日医も従来、政治決着という手法を選択してきたが、国民の誤解を招きやすいとして、オープンな議論をしたい。今までとは違う手法でやる。

諮問会議の基本方針が閣議決定されている事実については、それほど悲観も失望もしていない。国民のためというバックボーンを背負うわれわれに正義があると講演した。

その後、武見敬三参議院議員から、先の参議院議員選挙での九州各県医師連盟の役員及び諸先生方に対して、御礼の挨拶があった。

## 第101回九州医師会総会・医学会

と き 平成13年10月20日(土)

ところ 福岡市・シーホークホテル&リゾート

### 総 会

昨年の総会以降から現在までの222名の物故会員に対し、黙祷を捧げ、関原九医連会長挨拶に引き続き、来賓として、日本医師会長、福岡県知事、福岡市長から祝辞があった。

その後、宣言・決議が採択され、その取り扱いについては、九州医師会連合会長に一任された。

なお、次回担当県の鹿児島県医師会鮫島会長から、平成14年度は11月16日(土)、17日(日)鹿児島市において開催する旨の挨拶があり終了した。

その後、医学会が開催された。

### 医学会

#### 特別講演

演題 「21世紀を拓く医学と医療

- 教育の現場から - 」

講師 第26回日本医学会総会会頭・

九州大学総長 杉岡 洋一 先生

(座長 福岡県医師会副会長 田中 一)

### 特別講演

演題 「人生は夢」

講師 東京大学法学部教授

蒲島 郁夫 先生

(座長 福岡県医師会会長 関原敬次郎)

10月21日(日)は、分科会として、第1分科会：内科学会、第2分科会：小児科学会、第3分科会：産婦人科学会、第4分科会：不妊学会、第5分科会：外科学会、第6分科会：東洋医学会、第7分科会：産業医学会、第8分科会：耳鼻咽喉科学会、第9分科会：整形外科学会が福岡市内他の各会場において開催された。

また、記念行事として、ゴルフ大会、走ろう会大会、囲碁大会、サッカー大会、テニス大会、弓道大会、謡曲大会、卓球大会が福岡市内他の各会場において開催され、いずれも盛会裡に終了した。

## 宣 言

現在，政府が進めている医療改革論議は，経済財政改革に重点がおかれ，我が国が世界に誇る公平な国民医療体制の崩壊へと進んでいる。これは医療のみならず社会保障制度自体をも瓦解させる危険性を孕んでおり，強く危惧するものである。

今こそ政府は，医療の非営利性と公共的使命を十分に理解し，将来に向けて国民が合意・納得する社会保障制度の改革と，「安心できる」社会の実現に努めるべきである。

我々九州医師会連合会は，日本医師会が提唱する医療構造改革構想を全面的に支持し，21世紀における国民の保健・医療・福祉のあるべき姿の実現に向けて一致団結し，一層の努力を傾注することをここに宣言する。

平成13年10月20日

第101回九州医師会連合会総会

## 決 議

我々九州医師会連合会は，適切な医療制度改革の実現により，全ての国民に公平で健やかな生活を保障し「安心できる」社会，ことに保健・医療・福祉の充実した社会を目指すため，政府に対し次の事項を要求する。

- 1．国民皆保険制度の堅持・強化
- 1．医療の質の向上のための財源確保
- 1．国民が納得し安心できる少子化対策と新たな高齢者医療制度の創設
- 1．医療の情報提供推進と安全性確保のための環境整備の確立
- 1．准看制度の堅持と三層構造の存続
- 1．医療の公共性を尊重した税制の確立

以上，決議する。

平成13年10月20日

第101回九州医師会連合会総会

## 九州医師会連合会第244回常任委員会

と き 平成13年10月23日

ところ リーガロイヤルホテル小倉

### 報 告

1. 第101回九州医師会総会・医学会及び関連行事について
2. 宣言・決議について
3. 全国医師会勤務医部会連絡協議会について  
本会の秦会長から、「坪井日本医師会長のタイ出張が中止になり、本会担当で開催する標記会議に坪井会長が出席され、ご講演いただくことになった」との報告があった。

### 協 議

1. 九州医師会連合会第245回常任委員会並びに第2回各種協議会について  
日 時 平成14年1月26日(土) 16:00～  
場 所 福岡市・シーホークホテル&リゾート  
上記会議の開催について承認された。
2. 医療保険制度改革に対する意見広告等について  
標記意見広告等について協議された。

出席者 - 秦会長, 日高局長

## 平成13年度（第23回） 九州各県・政令指定都市保健医療福祉 主管部局長及び九州各県医師会長合同会議

と き 平成13年10月23日(火)

ところ リーガロイヤルホテル小倉

岡田北九州市助役挨拶

最近、よく保健医療福祉の連携ということが言われる。私は平成6年に保健福祉局長を拝命し、その後3年半在任した。

当時を顧みると、保健福祉を一本化して行かない限り、将来、少子高齢化に対応できないのではないかということで、北九州市保健福祉局ができた。

北九州市の医師会との連携を深めていく中で、いろんな施策を行い充実して、市民の健康と福祉の問題に取り組んでいった。それ以来、市と市医師会との連携は非常にうまくいっている。北九州方式と言われるが、市の医師会あつてのものとなさえ思われる。

本日の会議が北九州市で開かれることを心から歓迎し、実りある議論になっていただければと念じている。

堀之内厚生労働省九州厚生局長来賓挨拶

九州厚生局は、これまで九州地方医務局といていた。この機会に九州厚生局を紹介したい。

国立病院・療養所の統括、これは九州地方医務局時代から歴史的にも馴染みの分野の仕事である。これに九州地区麻薬取締官事務所が一緒になって、九州厚生局に麻薬取締部ができた。

それから、本省で行っていた事務、例えば九州管内で2つ以上の県に跨がる医療法人、社会

福祉法人の指導監督等の事務が移管されたが、この事務が物凄く多い。

従って、従来の国療関係、麻薬取締関係、本省から移管された指導監督関係の3つが柱となって九州厚生局が成り立っている。

各県の医師会長先生には、国病、国療の再編問題で大変なご迷惑とお手数をお掛けしており、あるいは、お掛けしたことに厚く御礼申し上げます。これからも、ご指導ご協力方よろしくお願ひしたい。

座長選出

駒田北九州市保健福祉局長を座長に選出。

議 事

議題1 小児科医の確保について（佐賀県）

（提案理由）

患者が子供であることによる診断・治療の難しさや、その困難性に比べ診療報酬が少ないなどの問題から、小児科医が不足しており、特に小児救急医療の充実への大きな障壁となっている。

そのため、小児医療に係る診療報酬制度や小児科医育成制度など、国をはじめ、自治体、医療関係者等による抜本的な小児科医の確保対策が必要と思われる。

各県・市及び医師会のご意見及び対策についてご教示いただきたい。

## (参考)

## 佐賀県の状況

- ・ 医師一人当り小児人口 / 1,270人
- ・ 医師総数に占める小児科医数 / 8.7%
- 小児(0~14歳)人口 147,263人...
- 医師総数 1,332人...
- 小児科医師数 116人...

、情報は佐賀県医師会提供

- ・ 取組状況 独自の制度等は設けておらず、これから検討したい。

## (宮崎県の回答)

- ・ 本県における小児科医状況は下記のとおり。
- ・ 本県においても小児科医の確保は重要な課題であると考えているところであるが、小児科医の確保については小児科の不採算性等の構造的な問題を含むものであり、国に対して要望していきたいと考えている。

## (参考)

## 宮崎県の状況(平成10年度医師・歯科医師・薬剤師調査より)

総医師数	2,343人
うち小児科を標榜する医師数	258人
(総医師数に占める割合)	11.0%
うち小児科を主たる診療科とする医師数	112人
(総医師数に占める割合)	4.8%
小児(0~14歳)人口	
(平成10年10月1日現在)	197,244人

## 議題2 救急医療体制の再構築について

(福岡県医師会)

## (提案理由)

近年少子高齢化、核家族化等の社会環境が変化し、特に小児救急医療、精神科救急医療

体制の問題が、早急に解決しなければならない課題となっている。

小児科医師の高齢化や小児科標榜医療機関の減少などで支障を来している小児救急医療、精神障害者が夜間・休日などの緊急時に本人や家族の求めに応じて適切な医療を確保するための精神科救急医療システム及び24時間対応可能な電話相談窓口の設置などの精神科救急医療について、今後一層の量的・質的な面からの充実を図っていくことが重要であると考えます。

九州各県における救急医療体制(特に小児救急医療、精神科救急医療)の取り組みについて伺いたい。

## (宮崎県の回答)

- ・ 本県における小児救急医療については、地域の小児科医の不足等により、休日夜間急患センターの診療時間帯が限られていたり、初期、二次、三次の機能分担が十分でない場合等の問題があり、市町村や医師会等の関係機関と連携しながら充実に努めていきたい。
- ・ また、精神科救急医療については、現在、日曜、祝日、年末年始の年間72日間を24時間体制で対応できるよう19の精神科救急指定病院で当番を組んで運営しているが、平日夜間や土曜日などは対応に苦慮することが想定されるので、将来的には365日を24時間体制で対応できるシステムの構築が必要であると感じている。そのため、今後、精神病院協会をはじめとした関係機関と連携しながら充実に努めていきたい。

出席者 - 秦会長、日高局長

## 平成13年度九州学校検診協議会専門委員会

と き 平成13年11月17日(土)

ところ 福岡市・三鷹ホール

### 1. 心臓専門委員会

座長；福岡県山本理事

マラソンやテレビゲームの後など興奮したあとホッとした時になりやすいが、小児期のNMSは軽症例が多くNMSと思われる突然死の報告は国内で1例だけである。

病態の詳しい理解が大切であり、心臓検診への取込は今後検討していく。

### 2) 九州における学校管理下の心臓性急死

(福岡県)

#### 【協議内容】

九州各県医師会は児童生徒の心臓性急死例を福岡県メディカルセンターに報告し集約しているが、福岡県より平成8年度～12年度の報告があった。

この期間の報告は27件であり、内19件が運動中であった。

なお、平成13年4月以降は、福岡県の1例のみ報告が上がってきている。sudden deathのnear miss症例の検討が出来ないかとの提案があり、まず福岡県医師会から教育委員会へ調

### 1) 神経調節性失神と学校保健(沖縄県)

#### 【提案理由】

神経調節性失神(NMS)についての理解が必要であると同時に、一次スクリーニングとしての学校検診のかかわり方の検討が必要である。

#### 【協議内容】

沖縄県よりNMSについて概念、病態、診断方法、治療などについての説明があった。

査依頼をすることになった。

### 3) プルガーダ型心電図のスクリーニング

(福岡県)

#### 【提案理由】

不整脈源性右室異形成の心電図学的表現であると考えられるプルガーダ型心電図について、学校検診一次心電図所見からピックアップできないか、どのような基準でスクリーニングすべきか、拾い上げられた症例をどのように観察していくべきなのか。

#### 【協議内容】

プルガーダ型心電図は一般の検診でもかかっていると思うが、それだけを拾い上げる必要があるのか？

心電図だけでチェックしようとするとかくさんかかってくる。ピックアップ率をどこに置くかが問題である。などの意見が出されたが、福岡県がスクリーニング基準の素案を平成14年度幹事会に提示するのでそれを待つこととなった。

### 4) 新しい学校生活管理指導表について

(福岡県)

#### 【協議内容】

新しい管理指導票が出来上がったので14年度から全国的に使用する。心臓、腎臓共通となる。

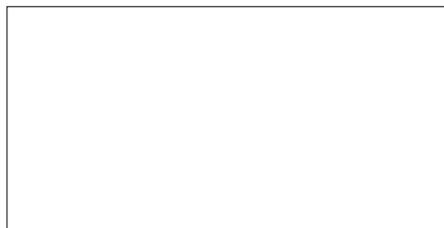
### 5) その他

熊本県より小学4年生での心電図検査を行政に働きかけているが、県内市町村の47%で実施している。熊本市など人口の多い市町村は費用が何千万とかかるので難しいが小さな市町村は実施してくれている。

福岡県より心臓検診の料金体系について、少子化のため将来頭がけだと赤字が予想される。かかる費用を細かく見積もって総額で契約を進めたいと考えている。

## 2. 腎臓専門委員会

座長；大分県阿南常任理事



### 1) 調査結果が報告された「腎不全児で学校検尿以上なし」について(長崎県)

#### 【提案理由】

九州における腎不全児のアンケート調査結果が8月の九州学校保健・学校医大会で報告されたが、B票の集計「腎臓病発見の動機」で、60名中14名が学校検尿で見つかり、在学中だったが学校検尿では異常なしが60名中6名であった。学校検尿では異常なしの6名について原因疾患等ご教示いただきたい。

#### 【協議内容】

- (1) 急性の疾患だったため学校検尿にかからなかった。(3名)
- (2) 先天性の奇形疾患のため、尿にほとんど変化がなくかからなかった。(1名)
- (3) 巣状系球体硬化症とループス腎炎については、なぜ学校検尿にかからなかったか資料がないため不明である。

3歳児検診以降の学校にあがる前の幼稚・保育園の段階で、先天性の奇形、低形成を含めた疾患を早く見つけてやる必要があるのではないか。検査項目についても、理想は尿比重を計るとスクリーニングになるが精度の問題があり、超音波検査が確実ではないか。

### 2) 九州における学校検尿システム及び実施状況についての各県都市医師会に対してのアンケート調査について(宮崎県)

## 【提案理由】

学校検尿実施状況の医師会の調査は最近行われておらず、平成10年に日本学校保健会が全国自治体（教育委員会）に調査を行っているが、医師会の知らない所で行われている。従って、実態を把握していない点があり、三次検尿以後の詳しい調査はされておらず、その報告もほとんどなされていない。

医師会としても、九州における実態を把握して、改善すべき点がないか検討する必要があると思われる。

## 【協議内容】

アンケート調査の詳しい内容を提示したが、多少意見があったので変更して来年度中には九州各県の都市医師会宛にアンケート調査することに決定した。

## 3) 新しい学校生活管理指導表使用上の問題点（福岡県）

## 【提案理由】

平成14年度から管理指導表が一新され、全国での使用が強く求められている。医師側に多少の戸惑いがあると考えられるが、いかが。

## 【協議内容】

長崎県で教育委員会に聞いてみたところ、学校の先生方は使いやすいとの意見だということであった。医師側からの不満等は聞いていない。

## 4) 全国「平成10年度児童生徒の心臓検診、尿検査実態」の調査結果の実態把握と改善について（福岡県）

## 【提案理由】

学校検尿の実態の把握は困難であったが、この調査で有益な情報となった。しかし、その結果が地元の学校検尿現場の実態を反映していたのだろうか。

## 【協議内容】

学校医が関わっていない調査であり、実態

が把握されていないようなので、宮崎県から提案の九州全体のアンケート調査をやってみて、その結果でいろいろな問題点が浮かんでくるのではないか。

## 5) その他

新しい学校生活管理指導表については、うまく指導すればそのまま診断書として使えるのではないか。教育委員会は診断書料を取ってくれるなどのことであるが、判定をしたという医師の責任の問題もある。診断書料を請求するのかもしれないか。かなり細かなところまで判定しており診断書料をとっている医療機関も実際ある。

医師会では結論が出せないの、各医療機関の判断にまかせる。

## 3. 小児生活習慣病専門委員会

座長；田崎佐賀医科大学教授

## 1) 小児生活習慣病検診の実態について

（佐賀県）

## 【提案理由】

生活習慣病が小児期からの生活習慣が原因であることははっきりと言われているが、予防検診を児童・生徒を対象に行おうとすると問題が色々あり、現在行われている地区はまだ少ない。その現状を少し掘り下げることで何らかの対応を考える手がかりを得られるのではと思う。

## 【協議内容】

現在、採血まで実施しているところはわずか、鹿児島、大分、沖縄（今年から）、長崎、

熊本、宮崎、佐賀が行っているが、いずれも一部か数か所である。しかしながら、中には事後システムもしっかり取り組んでいるところ(熊本市、鹿児島市)もあった。

## 2) 検診の事後システムについて (宮崎県)

### 【提案理由】

当医師会では調査研究事業としての小児生活習慣病予防健診を行い、健診結果を個人に報告しているが、個人および集団での保健指導、事後管理等は不十分である。小児生活習慣病予防健診は生活習慣病予防を子ども時から考えるよい機会であると評価できると思うが、各県の事後システムへの取り組みをお伺いしたい。

### 【協議内容】

事後システムについてはいずれも不十分である。特に長期フォローがほとんどなされていない。現在、生活習慣病が非常に問題視されているが、これも元をたどれば小児期からの生活習慣病予防が重要との問題提起をもつとしないといけない。ただ、心臓検診あたりも実際に心電図検診を行い出して、それが法制化されるまでに時間がかかった。われわれも拙速にならずに現時点では地道にやれるこ

とからやって、医師会内部も含め、行政側、あるいは学校側にも働きかけ(啓蒙・啓発)浸透していくようなやり方が一番いいのではないかという認識に至った。

## 3) 尿糖強陽性者に対する緊急速報システムの構築 (福岡県)

### 【提案理由】

福岡市における糖尿病検診についての上記システムを構築したので報告したい。

### 【協議内容】

小児生活習慣病検診としては、腎臓検診はタッチしていないところがほとんどである。出席者全員、必要性は認識しているが、これは腎臓検診の中で構築していただいたほうがいいのではないかという意見であった。

### 出席者

心臓専門委員会 - 佐藤雄一先生(宮崎)

事務局 - 久永主事

腎臓専門委員会 - 宮田純一先生(延岡)

事務局 - 小川課長補佐

小児生活習慣病専門委員会 - 浜田理事

事務局 - 島原課長

## 九州各県医師会学校保健担当理事者会

と き 平成13年11月17日(土)

ところ 福岡市・三鷹ホール

1. 第46回九州ブロック学校保健・学校医大会  
並びに平成14年度九州学校検診協議会(年次  
大会)について (鹿児島県)

平成14年8月3日(土)関係役員等による諸会  
議, 8月4日(日)学校保健・学校医大会を開催  
することを決定した。

《8月3日関係役員等による諸会議》

九州学校検診協議会幹事会, 九州各県医師会  
学校保健担当理事者会(日医学校保健担当理事  
との懇談会)

《8月4日学校保健・学校医大会及び九州学校  
検診協議会年次大会》

教育講演

「心臓疾患における学校生活管理指導表の  
解説」

福岡こども病院名誉院長 本田 恵

「腎臓疾患における学校生活管理指導表の  
解説」

日本医科大学小児科学教授

村上 睦美

「生活習慣病事後処置のあり方」

鹿児島大学医学部小児科学教授

吉永 正夫

九州医師会連合会学校医会評議員会

九州医師会連合会学校医総会

基調講演

「教育改革の動向と心の問題への取り組み」

鹿児島県教育長 脇田 稔

パネルディスカッション

「せきららな学校現場の報告

- 開かれた学校とは -」

性逸脱(産婦人科医)

非行, 暴力, 薬物(警察)

虐待(児童相談センター)

いじめ, 不登校(教育関係者)

2. 日本学校保健会第4回財政問題検討委員会  
について (福岡県)

日本学校保健会拠出金値上げ問題に関する  
フリートークでの意見交換があり, 拠出  
金の値上げについては平成16年度から努力目  
標として値上げをお願いしたい。管理費の削  
減, 事業の見直しはセットで考えていくが,  
鋭意努力している。募金の切り崩しは限定的  
なものとした。会報の購読料で大幅な収入  
増としたいと考えているようだが, ホームペ  
ージの開設・充実を提案してきた。等の報告が  
あった。

出席者 - 浜田理事, 島原課長, 小川課長補佐,  
久永主事

## 医療危機突破都道府県医師会・ 郡市区医師会緊急合同対策会議

と き 平成13年11月7日(水)

ところ 日本医師会館

### 菅谷常任理事

厚生労働省の医療制度改革についての試案が示されて以来、いろんな議論が活発化してきているが、中身は患者の負担は大幅に引き上げる、提供する医療サービスの内容は縮小・削減というものである。小泉総理のいう「痛み」を国民・患者・医療機関に一方的に押し付けるという内容である。今後の医療は大変な危機に陥る恐れがあるが、会員の中にはいまだ十分に認識されていない方もいるので、本日の内容を会員へお伝えいただき、その先生方から国民に対して理解していただくようお願いしたい。また、12月1日の国民医療危機突破全国総決起大会にそなえて意思の確認をしていただきたい。

### 坪井会長挨拶

現状は医療の危機の極限に達していると言っても過言ではなく、財政を中心とした改革論争をする方のために崩壊しつつある。世界一良い

フリーアクセスを持つ日本の医療、経済効率からも世界に誇れる国民皆保険制度は国家的財産であり、堅持する必要がある。当面は厚生労働省、財務省との改革論議、中長期には国民皆保険制度を崩壊させようという愚論と闘っていかねばならない。

### 糸氏副会長

すべての患者に最善の医療を提供するという医療の原点に立ち帰り、国民皆保険制度の客観的な評価を行う必要がある。厚生労働省の試案は当面の財政収支対策に終始したもので、現在の老人保健制度の一部手直しに過ぎず、新たな制度を構築し負担をできるだけ少なくして制度の永続性を図るべきである。老人医療費の伸び率管理制度については、日医としては合理的包括制度の導入、大病院への予算制の導入、介護保険制度との調整等の制度的アプローチで充分対応できると考えているので、制度導入には断

固反対である。厚生労働省試案は高齢者に負担を強いる以外の何ものでもない。

#### 青柳常任理事

老人医療費伸び率管理制度は「集団罰則的医療費抑制策」であり、地域・入院・外来・診療科による格差、老人医療費に関与する格差、医療機関の姿勢にも格差があり反対である。厚生労働省の患者だけに負担を求める試案とは違い、日医案では薬剤費・医療材料費の引き下げ、合理的包括払い方式導入等で4800億円の財政効果がある。

各界、国会議員などに日医の考えを説明するのに、提案のどこが重要なのか、簡潔に説明してほしいとの要望があり『医療制度改革に関する五つの反対、五つの提案』という形で以下のように冊子にまとめた。

反対1 老人医療費伸び率管理制度には反対〔老人医療費伸び率管理制度は、憲法違反の疑いがある〕

個人の尊重と平等の理念を侵す。国民の生存権を脅かす。国の社会的使命の履行義務に反する。フランスでは違憲判断がされている。

反対2 患者負担増には反対〔これ以上の患者負担増は、家計破壊となる〕

患者負担増は公費、事業主負担の家計への転嫁に過ぎない。医療費財源における家計負担（保険料の家計負担分＋患者一部負担金）は、既に45%に達している。

高齢者は既に応分の負担をしており、高齢者を標的にした患者負担増は許されない。

反対3 小手先だけの老人保健制度の見直しには反対〔財政的な辻つま合わせだけの改革で済まされる状況ではない〕

対象者を単に75歳以上にし、対象者を縮減することによって、財政的な辻つま合わせをしようとしているだけである。医療費の抑制を伸び率管理制度という安直な策にしか頼れ

ず、制度論的にアプローチするという前向きな姿勢がみられない。

反対4 保険者による直接審査支払・割引契約には反対〔医療の平等性、公平性、フリーアクセスを国民から奪う政策には反対する〕

公平な審査体制が構築できない。患者さんへの守秘義務が担保できない。割引契約は、大規模組合に有利に作用し負担面で被保険者間の不公平が拡大する。健保組合による医療機関の囲い込みと患者誘導がはじまり、その結果フリーアクセスが阻害される。値引きには値引きで対抗するしかなく、質の低下、地域医療の混乱を生じる。

反対5 むやみな特定療養費の拡大には反対〔公的保険のカバー範囲の縮小につながる特定療養費の拡大には反対する〕

受けられる医療の格差をもたらす。確実に患者負担の増大となる。私的保険は誰でも加入できる訳ではなく、公的保険の代替とはなり得ない。

提案1 高齢者医療制度の創設を提案〔お年寄りが安心して医療を受けられる制度が必要〕

70歳から段階的に対象年齢を引上げ、最終的にすべての後期高齢者（75歳以上）を被保険者とする独立した保険制度創設を目指す。健康に対するリスクの高い者だけで保険集団を形成するには無理がある。「保険」という考え方から「保障」という考え方を強く反映させた制度とする。具体的には、財源として公費割合を段階的に増やし最終的に90%とする。

提案2 被用者保険における保険料総報酬制の導入を提案〔保険料徴収の平等化と合理化が必要〕

月給与と賞与を合わせた総報酬に対して保険料を課す方式にすると2兆円を超える財源となる。

提案3．薬価・医療材料価格の引き下げを提案  
〔厳しい値引き交渉が行われなくなった結果、  
薬価・医療材料価格は高止まりしている〕

製薬メーカーの2000年度連結決算は、平均  
経常利益率は18%にも達していて、価格引き  
下げにも十分耐え得る余力がある。ペースメ  
ーカーや心臓カテーテルなど、医療材料の価格  
は非常に高価であり、内外価格差が指摘され  
ている。

提案4．たばこ税の引き上げによる公費財源の  
確保を提案〔社会保障に対する国の役割を果  
たすためにも公費財源の確保が必要である〕

たばこ税は、喫煙者も健康に対するリスク  
を承知していて、税額の引き上げがあっても  
その分が医療に使用されるのであれば納得感  
があると考え。将来的には、医療目的のため  
の消費税率引き上げも考慮する必要がある。

提案5．一般医療保険の地域保険への一元化を  
提案〔国民が公平かつ平等に医療を受けられ

る医療保険制度が必要である〕

現在5,000にも及ぶ保険者の整理・統合が必  
要であり、最終的に都道府県単位で被用者保  
険と国保を「地域保険」として一元化して、  
各保険者が一定の規模を持ち、安定的な一般  
医療保険制度の運営を目指す。

石川副会長

10月下旬から患者負担増に反対する署名運動  
を展開していただいているが、最終的には500万  
人を超えようとしていて、来週にも国会請願を  
予定している。対国会議員説明等を連日精力的  
に行っており、本日出席の各都道府県・郡市区  
会長にも、『医療制度改革に関する五つの反対、  
五つの提案』の冊子を利用していただいて、地  
元選出の衆参国会議員へ直接陳情して紹介議員  
を増やしていただきたい。

出席者 - 早稲田常任理事, 千代反田会長(日向)  
小川課長補佐

## 医師国保組合だより

## 第 7 回 歩 こう 会

と き 平成13年11月3日(土)

ところ 都城・霧島

理事 永 友 和 之

11月3日、文化の日の歩こう会は、朝から雨となつて、関之尾の滝周辺のウォーキングをとりやめて、霧島への日帰り温泉の旅となりました。秦理事長を始め、両副理事長夫妻など8歳から75歳まで、老若男女28名が県医師会館に集まり、定刻10分前の9時50分、貸切バスに乗って出発しました。バスの中で理事長の挨拶、都城市北諸県郡医師会館にて柳田会長夫妻と合流、参加予定者30名が揃いました。先ず雨の中、都城歴史資料館を見学し、霧島ロイヤルホテルに向かいました。車中柳田会長差し入れのお菓子を食べながら、医師国保職員手作りのクイズに挑戦、12時20分ホテルに到着。早速、京風の上品な昼食を、アルコールとともにおいしく頂きました。

昼食休憩もそこそこに、同ホテルの立派な温泉に直行、WalkingならぬWarmingとなりました。

雨の霧島を望みながら、日頃の心身の疲れをゆっくりと癒し、最後の目的地、都城市立美術館でフランス・カンペール美術館所蔵「ブルターニュの海と空」展を鑑賞して、16時30分予定通

り到着、恵みの雨に感謝して散会となりました。

ところで宮崎県医師国保組合は保健事業として、歩こう会と健康診断を行っています。両者とも「健康日本21」がスタートして、努力義務から必須義務になろうとしています。

来年の歩こう会には、色々楽しい企画を用意してお待ちしておりますので、是非ともご参加ください。

尚、健診の方も是非とも受けてください。健診に限り自家診療を認めております。

また、健診内容についてのご意見、ご希望もどうぞお寄せください。

## 日医 FAX ニュースから

### 機能評価機構が診療G Lデータベースの管理・運営

厚生労働省の保健医療技術情報普及支援検討会（座長＝高久史磨・日本医学会副会長，自治医科大学学長）は11月2日，診療ガイドラインデータベースなどの管理・運営を財団法人日本医療機能評価機構に依頼することを決めた。事務局を通じて今週中にも機構に正式依頼する予定。機構側の回答を待って検討会を再開し，細部の詰めを行う。

具体的運営方法など詳細は未定だが，高久座長は「データベースを作るための運営機構を作らざるを得ないだろう。そのなかには医療機能評価機構，日医の人も入り，実際には学会が中心になるのではないか」との見通しを示した。

G Lの評価・選定作業は日医の関与が不可欠  
櫻井常任理事

一方，日本医師会はこれまで独自に診療ガイドラインの開発・評価やDBを構築する構想を示してきた。検討会終了後，取材に応じた櫻井秀也委員（日医常任理事）は，DBに登録する診療G Lの評価・選定作業に臨床医の団体である日医が関与する必要性を改めて指摘。そのうえで「新しい機構のなかで日医が委員などとして入れてもらえるのであれば意見をいわせていただきたい」と述べ，今後の動向を見据えて柔軟に対応する姿勢を示した。

（平成13年11月9日）

### 特許切れ薬の薬価引き下げを主張

糸氏副会長

厚生労働省の中医協薬価専門部会は11月7日，2002年度の薬価制度改革について議論した。最大の焦点となる先発品と後発品の取り扱いについて診療側と支払側は，特許切れ先発品の一定程度の価格引き下げが必要との見解で一致した。製薬業界代表の専門委員は市場価格主義の原則

を主張し，反対姿勢を示した。

先発品と後発品の問題では糸氏英吉委員（日医副会長）が「価格の安い後発品をたくさん使えといわれても，（情報提供や安定供給で）信用できない面もあり，難しい。しかし，だからといって先発品の価格が高くていいということにはならない。特許が切れた先発品は，ある程度，安く提供してほしい」と主張した。

「医薬品選択の第一基準は情報」

菅谷常任理事

また，菅谷忍委員（日医常任理事）は後発品の使用が進まない理由について「医薬品選択の第一基準は情報だ。医師になって初めて選択する医薬品は情報量が一番多く，信頼性が高い医薬品。それで先発品がずっと使われる。また，患者負担をかけたくないので開業医は後発品を使用することがあるが，製造中止になったりすることがしばしばある」などと指摘。「ただ単純に安いのを使えといっても無理だ」と述べた。

（平成13年11月13日）

### 患者負担増反対署名が500万人突破

日医が国会請願

患者負担増に反対する署名運動を展開していた日本医師会は11月13日，500万2735人分の署名が集まったと発表した。14日，請願書とともに国会に提出した。坪井栄孝会長は13日の会見で，「（診療報酬の）値上げとか，われわれのベースアップに対して国民の同意を得ようという意思でやったのではない。真から日本の医療の危機を感じているためだ」と署名運動の趣旨を説明。500万人を超える署名を「国民の同意の表れとして使命を背負った」と受け止め，「支援の強さを私達のアゲインストの人たちに理解してもらわねばならない」と決意表明した。

坪井会長は会見で，国民皆保険制度とフリーアクセスという，日本の医療保険制度の長所を堅持する必要性を改めて強調した。その一方で「日本の医療で直さねばならないところもある」とし，医療の質を評価する手法の確立と医療情

報の開示を推進する考えを表明。「この守らねばならないものと変えなければいけないものの2つの路線で主張していきたい」と述べた。

老人医療費に焦点をあてたことでは「厚労省、財務省が考える伸び率管理の方法とわれわれの方法は実質的には変わらない」とし、「われわれの方法を行政的に検討したらどうか」と述べている」と述べた。（平成13年11月16日）

## 日医連が来年度予算・税制改正で要望

日本医師連盟など医療関係団体は11月9日、自民党厚生労働部会・厚生関係団体協議会合同会議で、2002年度予算と税制改正について要望した。

予算関係で日医連は看護婦等養成所への運営費補助金の増額や小児救急や病院群輪番制など救急関連事業の予算拡充、保険診療への予防給付の積極的導入などを要望した。税制では診療報酬に対する消費税の非課税制度をゼロ税率課税に改めることや、4段階制による所得計算の特例措置の存続などを要請した。

（平成13年11月16日）

## 社保審・医療保険部会が26日に 意見書取りまとめ

厚生労働省の社会保障審議会医療保険部会（貝塚啓明部会長）は11月14日、医療制度改革試案について議論した。系氏英吉副会長は「ただ医療費を抑えるのでは副作用も多く、本当の意味での対策にはならない。疾病予防を含めた対策が必要」との認識を示した。厚労省の中村秀一審議官は、疾病予防・健康づくりにあわせて、診療ガイドラインの作成やデータベースの構築などを進めたいと強調した。

同部会は19日から報告書作成の議論に入り、26日に部会としての「意見書」を取りまとめる予定。

議論では、系氏副会長が伸び率管理制度につ

いて「なんとしても医療費を抑え込む厚労省の強い意図を感じる」と強調。さらに「医療の進歩や新薬、材料を一切適用せず、人工透析を打ち切るといえるのか。医の倫理より国の医療経済を優先することは許されることではない」と同省を痛烈に批判した。患者負担についても「根本的解決になっていない」と指摘したほか、高齢者にも所得のバラツキがあり「軽いとはいえない」と強調した。（平成13年11月20日）

## 勤務医会費の県内格差是正はかどらず 都道府県医勤務医担当理事連絡協

日本医師会の都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が11月14日開かれ、勤務医の医師会活動への参加促進策、勤務医会費・入会金の格差是正などを議論した。勤務医会費については1999年に行った調査で同一県下の郡市区医師会間でも格差があることが判明、問題となっていた。

公費負担問題も議論

協議会では、公立病院勤務医の医師会費公費負担の問題で議論があった。この問題では、高知県のオンブズマンが県立病院に対して、県が公費で負担した勤務医の医師会費返還を求める訴訟を起こした経緯がある。長野県医は「公費負担を打ち切り、個人負担とした場合、勤務医入会数の激減、脱会者の増加などによって組織率が下がるのではないかと危機感を表明した。

日医が卒後研修体制のモデル事業を検討

星北斗常任理事は同日、2004年度からの医師卒後臨床研修必修化に向け、地域医師会で研修医を引き受けるモデル事業を検討していることを明らかにした。星常任理事は「医師会が研修医を引き受ける仕組みで研修を実施する。これが理想とする研修を実現するための理想のやり方だ」と強調。生涯教育、共同利用施設の関係委員会などで具体的に検討する方針を示した。

（平成13年11月20日）

## 医事紛争情報

メディアファクスより転載

### 出産時の処置が不適切として 1億2600万円賠償命令

出産時に医院長らが適切な処置を怠ったため、生まれた長女（13）に重度の障害が残ったとして、大阪府の両親らが高松市内の産婦人科医院の院長に約2億8000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、岡山地裁の渡辺温裁判長は25日、約1億2600万円の支払いを命じた。

判決によると、長女の母親は1987年11月、陣痛が始まり同医院に入院、院長らは腹部を強く圧迫する方法で分娩を試みたが、母親がショック状態に陥り失神したため、急きょ帝王切開手術に切り替えた。長女は一時仮死状態で生まれ、脳性まひの障害が残った。院長側は「脳性まひの原因は不明で、出産時の処置に問題はなかった」などと主張していたが、渡辺裁判長は「強い腹部圧迫などによる出産が原因で脳性まひに至ったと認められる」と述べた。

### 肺真菌症の誤診で5600万円の 賠償命令

さいたま市の自治医大大宮医療センターで1997年11月、元会社役員黒田克己さん（当時60）が肺の感染症で死亡したのは、主治医が誤診したためとして、妻が同大と主治医に計約6500万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、さいたま地裁の渡辺等裁判長（佐藤康裁判長代読）は26日、被告側に計約5630万円の支払いを命じた。

渡辺裁判長は「黒田さんは肺がんの手術を受けており、主治医は既往歴に留意すべきなのに、肺に真菌が付着して発症する感染症の検査をせず、黒田さんは適切な治療を受けることなく死亡した」と、過失と死因との因果関係を認定した。

判決によると、黒田さんは87年11月に肺がんの手術を受け、肺の一部を切除。97年7月から、激しいせきやたんのため同医療センターに通っていたが、風邪と診断され、効き目のない薬を投与され続けた。同年10月末に入院したが、約2週間後に感染症の肺アスペルギルス症で死亡

した。

遺族側は「（黒田さんは）肺がん手術を受けていて真菌が感染する可能性は高かったのに、主治医は症状を見過ごして単なる風邪と誤診した」として99年4月、提訴していた。

### うつぶせ寝乳児死亡事故で賠償命令

うつぶせ寝で生後間もない赤ちゃんが脳性まひになり、7か月後に死亡したとして、舞台俳優の井上達也さん夫妻が東邦大（東京都大田区）に損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で東京高裁は17日、約4800万円の支払いを命じた一審判決を支持、病院側の控訴を棄却した。

うつぶせ寝による窒息死か乳幼児突然死症候群（SIDS）かが争われたが、飯田敏彦裁判長は東京地裁判決同様に窒息死と認定。一審が担当看護婦（34、業務上過失致死罪で公判中）の責任を重視したのに対し、飯田裁判長は「病院はうつぶせ寝用の硬めの寝具を用意していなかったうえ、当直の看護婦を1人しか置かず十分な監視を怠った。看護婦の責任は相対的に小さい」と述べ、病院の過失を重く認定した。

判決によると、井上さんの二男の湧介ちゃんは1995年1月5日、東京都目黒区の東邦大付属大橋病院で出生。看護婦は同月8日午前4時ごろ、ミルクを与えてうつぶせに寝かせた。約3時間後の授乳の際、呼吸が停止しているのを発見。湧介ちゃんは命はとりとめたが重い脳性まひとなり、同年8月に死亡した。乳幼児の死因がうつぶせ寝による窒息かSIDSかが争われた同種訴訟では、SIDSとされるケースが多かった。

### 階段からの転落事故に対し 安全配慮義務違反

北海道旭川市の無職男性（当時78）が精神分裂病で入院中に階段から転落、2年後に死亡した事故は、病院の安全配慮義務違反が原因として、男性の長男（54）が同市内の豊岡病院（森正義院長）を相手に慰謝料など約3500万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が10月30日、旭川地裁で言い渡され、森富義明裁判長は病院側の安全配慮義務違反を認め、同病院に約700万円の支払いを命じた。同裁判長は「男性がひとりで階段を使えば事故が発生するおそれがあり、重大

な結果を招くことは十分予見可能」と述べた。男性は1997年9月、階段から転落し、脳挫傷などで寝たきりとなり、99年7月に死亡した。

### C型慢性肝炎患者への エコー未実施で2200万円の賠償

津市の男性（当時56）が、がんで死亡したのは、主治医が早期発見に必要な検査を怠ったためとして、遺族が津生協病院（津市）を運営している津医療生活協同組合などに約4100万円の損害賠償を求めて津地裁で争っていた訴訟で、10月31日までに、主治医と病院側が2200万円を遺族に支払うことで和解が成立した。

訴状などによると、男性は1990年2月、同病院でC型慢性肝炎と診断された。しかし男性の主治医は、肝炎から移行のおそれがあるがんを早期発見するための超音波検査などをしなかったため、男性は入退院を繰り返し、98年12月、肝細胞がんで死亡した。

### 術後の MRSA 感染防止処置怠り 650万円賠償命令

大阪府枚方市の同市立枚方市民病院に入院していた男児（当時3）が死亡したのは、手術後にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に感染したためだなどとして、両親が市に計約2300万円の損害賠償を求めた訴訟で、大阪地裁の山下寛裁判長は10月30日、市に計約650万円の支払いを命じる判決を言い渡した。山下裁判長は、手術後の患部を露出したまま一時放置し、消毒などのMRSA感染防止措置を講じなかったと認定した。

判決によると、男児は1995年10月から、微熱やせきなどの症状を訴え、同病院で受診していた。12月の検査で脳に腫瘍が見つかり、摘出手術を受けた。しかし、手術後MRSAに感染、髄膜炎となり、翌年3月死亡した。

### 放射線治療ミスおよび その隠ぺいに対して賠償命令

済生会横浜市南部病院（横浜市港南区）で、鼻腔の腫瘍治療を受けた港南区の女性会社員（当時27）が1995年に死亡したのは、脳幹部に放射線を照射されたのが原因として、両親が約4600

万円の損害賠償を求めた訴訟で、横浜地裁は31日、病院側の過失を認め、1500万円の支払いを命じた。

判決理由で岡光民雄裁判長は「同病院は転院先の病院に放射線治療の記録を送付せず、死亡診断書でも放射線障害に触れなかった。女性の死後は両親にあえて誤った説明をした」と治療ミスの隠ぺいを指摘し「女性や両親の精神的、肉体的苦痛は極めて大きい」と述べた。

判決によると、女性は93年3月から4月にかけて、同病院で治療を受けた。その際、病院側は患部ではない脳幹部に放射線が当たることを抑える基本的処置を怠った。女性は放射線障害でまひや歩行障害を引き起こし、94年6月、別の大学病院に入院。その後、済生会病院でリハビリを続けたが95年2月、脳幹部の呼吸中枢障害で死亡した。

同病院は大学病院に放射線照射量などの記録を「見当たらない」と送付せず、死亡診断書には死因を鼻腔の腫瘍と記載。さらに病院長は両親に「脳幹部への照射抑制は不可能だった」と虚偽の説明をした。

### 骨折の手術ミスで賠償 先進的機関にはより高度の 注意義務を求める

骨折の手術ミスで足が不自由になったとして、東京都内の男性（43）が日本医大（東京都文京区）に1億3000万円余りの損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁（井上哲男裁判長）は31日「手術の時期を誤り骨髄炎を発症させた」として約6100万円の支払いを命じた。

判決理由で、日本医大病院が日本初の高度救命救急センターを設置したことに触れ「先進的な医療機関の医師は細心の注意を払う必要がある」と一般の医療機関よりも高度の注意義務があることを指摘した。

判決によると、男性は1991年6月末、都内で正面衝突事故を起こし、両足を骨折して同センターに運ばれた。片足が細菌に感染している兆候があったのに、医師はボルトで骨を固定する手術をし、男性は骨髄炎を発症。右足が10センチ短くなり、松葉杖が必要となった。

## 薬事情報センターだより (176)

### ビール酵母

昨年ごろから、ビール酵母をヨーグルトに混ぜて行うダイエットが雑誌などに取り上げられた結果、ビール酵母に注目が集まり、その効果が見直されています。

ビール酵母は日本薬局方にも乾燥酵母の名で収載されています。そして、一般用医薬品としても、栄養補給・食欲増進・整腸などの効能で販売されています。ビール酵母の約50%がタンパク質です。このタンパク質には8種類の必須アミノ酸が含まれています。また、約30%が食物繊維です。その他、ビタミンB群を初めとしたビタミン類、カリウムなどのミネラル類、核酸など様々な有用な成分が含まれています。

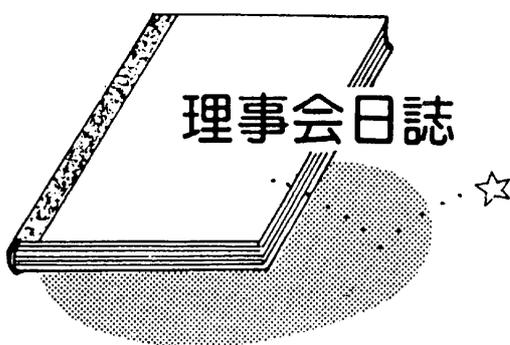
このビール酵母はビールの醸造課程から得られます。具体的には、ビール大麦から得られた麦汁に生きたビール酵母を加えると麦汁からアミノ酸やミネラルなどを吸収し、アルコールと炭酸ガスを排出しながら、増殖していきます。この過程が発酵です。発酵を終えると、ビール酵母は発酵タンクの中に沈んでいきます。この上澄液が出来たてのビールです。一方、この沈殿した泥状のものからホップ樹脂などを取り除き加熱乾燥したものが乾燥ビール酵母です。加熱乾燥しますので、ここで得られたビール酵母は死んだ状態のもので、そのため、糖分をアルコールに変える力はなくお酒が飲めない人も安心して摂取できます。また、そのまま摂取しても、料理に加えても効果も変わらないわけです。さらに、死んだ状態の方が生きた状態のものよりも体によく作用することが明らかになっています。

このビール酵母が医療目的で使用されたという記録は古代エジプトや古代ギリシャに遡ります。しかし、当時のビールは現在、日本で主に製造されているラガービールと異なり、エールビールです。エールビールはイギリスなどでは、現在でも広く製造されていますので、飲まれたことのある方も多いと思います。エールビールのビール酵母はラガービールのビール酵母のように発酵後に発酵タンクの中に沈んでいくのではなく、ビールの上面に浮かび上がります。その他にも、両酵母では発酵温度や発酵時間等が異なります。両酵母がどのような関係にあるのかということについては様々な見解があるようですが、ともにサッカロミセス属 (*Saccharomyces*) に属する酵母であるという点は確かなようです。サッカロミセス属には他にもパン酵母などが含まれますが、この名称はこれらの酵母が砂糖を消費して発酵するという現象から、砂糖(サッカロース)という言葉を組み込んで命名されたと言われています。

日本においても、長年、ビール酵母が使用されてきたわけですが、現代のような飽食の時代に、本来の栄養補給の目的でビール酵母を摂取する意義は薄れているのかもしれない。

しかし、逆にダイエットに伴う栄養補給を目的にビール酵母を摂取する人が増え、注目されるようになったというのは興味深い現象だと思えます。

参考:「ビール酵母」大辞典 <http://www.abby.co.jp/yeast/index.html>



平成13年10月30日(火) 第14回全理事会

#### 医師会関係

##### (報告事項)

1. 10/19(金)(福岡市)九医連第243回常任委員会について  
37ページ参照
2. 10/23(火)(北九州市)九医連第244回常任委員会について  
42ページ参照
3. 10/23(火)(北九州市)平成13年度(第23回)九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議について  
43ページ参照
4. 10/24(水)(支払基金)支払基金幹事会について  
審査状況等の報告があった。
5. 10/16(火)(日向市)宮崎県精神保健福祉大会について  
盛会であった。
6. 10/19(金)(福岡市)九医連第82回臨時委員総会について  
38ページ参照
7. 10/20(土)(福岡市)九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会について  
39ページ参照
8. 10/20(土)・21(日)(福岡市)第101回九州医師会総会・医学会について  
40ページ参照
9. 医療制度改革試案への県医の取り組みに関する会員からの反論,意見等について  
厚生労働省の「医療制度改革試案」及び日医の「厚生労働省の医療制度改革試案に対する意見」を会員へ送付し,反論・意見等をお尋ねしたところ,7名の会員から提出があった。
10. 10/19(金)(福岡市)平成13年度九州ブロック医師会広報担当理事連絡協議会について  
36ページ参照
11. 10/29(月)(県医)広報委員会について  
日州医事11月号の編集校正が行われた。
12. 10/21(日)(日医)日医医療政策シンポジウムについて  
3題の講演と5名のパネリストによりパネルディスカッションが行われた。内容は日州医事に掲載予定である。
13. 10/23(火)(県立看護大学)県立看護大学講義について  
医師会活動及び看護職に期待することについて講義を行った。
14. 10/22(月)(県医)県産業保健連絡協議会・県産業医研修連絡協議会について  
産業医活動推進全国会議,地域産業保健センター・宮崎産業保健センターの現況と事業等の報告があり,協議会の運営について検討された。
15. 10/24(水)(宮崎市郡医師会)第1回宮崎中部地域産業保健センター運営協議会について  
平成13年度上半期の事業実績の報告があり,今後の活動方針等について協議が行われた。
16. 10/26(金)(産業保健センター)第1回宮崎県メンタルヘルス対策推進連絡会議について  
職場におけるメンタルヘルス対策の事業

- 者等支援事業等の報告が行われ、宮崎県メンタルヘルス対策推進連絡会設置規定の制定について協議された。
17. 10/23(火) (県庁) 県准看護婦(士)試験委員会について  
平成13年度准看護婦(士)試験について協議が行われた。
18. 10/23(火) (宮崎空港) 宮崎空港航空機事故消火救難総合訓練について  
航空機事故による消火救難総合訓練による救急医療活動、消火救難が行われた。
19. 10/26(金) (福祉総合センター) 地域福祉権利擁護事業契約締結審査会について  
締結審査が行われた。
20. C型肝炎対策体制整備事業への協力依頼について  
事業内容として、体制整備検討会の検討、C型肝炎対応マニュアル作成、アンケート調査の実施についての協力依頼である。
21. 10/25(木) (県医) 労災診療指導委員会について  
労災レセプトの審査が行われた。特に問題はなかった。
22. 11/6(火) (ホテルメリージュ) 全国医師親睦野球大会優勝祝賀会開催について  
参加予定者は、監督、選手及び各都市医師会長、本会役員。
23. 10/26(金)・27(土) (宮崎観光ホテル) 平成13年度全国医師会勤務医部会連絡協議会前日打合せ・連絡協議会について  
26日(金)は前日打合せが行われた。27日(土)は連絡協議会が開催され、午前中は、坪井日医会長から「21世紀の医療ビッグバン」と題して、特別講演が行われた。  
午後は濱砂常任理事から「宮崎県勤務医アンケート調査報告」が行われた後、医療情報システム開発センターの開原成允理事長から「IT革命と医療」と題して、特別講演があった。  
その後、「勤務医に夢はあるのか」をテーマとして、シンポジウムが行われ、有意義に終了した。
24. 10/28(日) (西都原他・フェニックスカントリークラブ) 平成13年度全国医師会勤務医部会連絡協議会観光・ゴルフ等について  
参加者に喜んでいただき、無事終了した。
25. 10/29(月) (県医) 医療安全対策委員会について  
ヒヤリ・ハット事例アンケート調査「インシデント・レポート」の集計に伴う評価について検討し、今後分析を行い報告書を作成の予定である。
26. 10/29(月) (県医) 学校医部会学校検診委員会について  
九州ブロック学校保健学校医大会及び九州学校検診協議会について報告が行われ、心臓・腎臓・小児生活習慣病検診について並びに検診協議会の今後の運営について検討された。
- (協議事項)
1. 12/4(火) (県医) 第3回各都市医師会長協議会の開催に伴う提案事項等について  
提出議題をお願いした。
2. 宮崎県身体拘束ゼロ作戦推進会議委員の推薦依頼について  
河野常任理事の推薦を承認。
3. 宮崎地方社会保険医療協議会委員の推薦依頼について  
稲倉常任理事及び立山県立宮崎病院長の推薦を承認。
4. 白菊会への運営資金援助についてのお願  
例年どおり会員へお願いの文書を送付することが承認された。

5. 平14. 2 / 9 (土) ( 県医 ) 日本医師会生涯教育講座・日本医師会社保指導者講習会並びに宮崎県救急医療施設医師研修会の開催について役割分担が決定した。

6. 署名運動・意見広告・決起大会等の実施について

決起大会は、九州各県とも実施しないことになった。

7. 社会保険医療担当者(医科)の共同指導の実施について

実施について検討された。

8. 電子計算機で診療(調剤)報酬明細書を作成されている保険医療機関(薬局)における点数表マスター等の提出について

会員の事務負担を軽減するよう県医で調整。

9. 勤務医住宅ローン借入れ申し込みについて

1名の申請について承認。

10. 互助会融資申し込みについて

1名の申請について承認。

11. 互助会定期預金について

3件を承認。

12. 平成13年度宮崎県リハビリテーション支援センター業務の委託について

委託契約を承認。

13. 11月及び12月行事予定について

医師連盟関係

(報告事項)

1. 10/26(金)(ホテルプラザ)大原一三政経セミナーについて

関係者多数の出席により盛会であった。

(協議事項)

1. 請願紹介議員お引き受けの依頼について  
各衆参議院議員にお願いすることになった。

2. 11/13(火)(東京)「21世紀の社会保障制度を

考える議員連盟」総会への出席について

早稲田・濱砂常任執行委員の出席を承認。

3. 11/26(月)(東京)「21世紀、日本の展望」案内について

秦 委員長に一任。

医師国保組合関係

(報告事項)

1. 10/12(金)(石川県金沢市)全国医師国保組合連合会全体協議会について

平成12年度事業報告・決算、平成13年度事業計画・予算等が承認された。

2. 10/25(木)(大阪)(社)全国国保組合協会第37回通常総会について

平成12年度事業報告・決算、役員を選任等が承認された。

医師協同組合・エムエムエスシー関係

(報告事項)

1. 10/30(火)医協運営委員会について

購買事業等順調に推移している。

(協議事項)

1. 組合員新規加入承認について

2名の新規加入が承認された。

平成13年11月6日(火) 第15回全理事会

医師会関係

(報告事項)

1. 平成13年10月末日現在 宮崎県医師会会員数について

A会員 802名, B会員 796名 計1,598名

2. 年未年始におけるレセプト提出及び平成14年レセプト提出締切日のお願いについて

平成13年11月～平成14年11月診療分迄のレセプト提出締切日について、各保険医療機関へ国保連合会から直接案内される。

3. 11/3(土)(宮崎観光ホテル)宮崎医科大学周産母子センター宮崎日日新聞賞科学賞受賞の祝賀会について

- 関係者多数の出席があり、盛会であった。
4. 11/4(日)(みたま園) 献眼顕彰慰霊碑除幕式について  
25ページ参照
  5. 11/1(木)(福祉総合センター) 県介護支援専門員連絡協議会について  
12月16日(日)サンホテルフェニックスにおいて開催予定の第2回宮崎県介護支援専門員研究大会の内容について協議した。本会の担当は、特別講演関係で講師として青柳日医常任理事に依頼してある。
  6. 11/2(金)(宮崎市民プラザ・オルブライトホール) 平成13年度第1回ホスピスマインド育成・普及事業末期医療対策研修会について  
県の委託事業で3年目。今回は「どこでもできるホスピス・ケア」の演題で、ホームケアクリニック川越院長 川越厚先生に講演していただき、その後、講師とアナウンサーの対談を行った。出席者は192名。
  7. 予防接種法一部改正案の成立について  
11月7日(水)を目途に公布、即日施行予定との通知であった。
  8. 平成13年度の地方交付税における学校保健関係の財源措置について  
地方交付税による学校医報酬(幼稚園、小・中・高等学校)など財源措置について通知があった。ほぼ前年並み。
- (協議事項)
1. 11/7(水)(日医) 医療危機突破 都道府県医師会・郡市区医師会緊急合同対策会議の開催について  
早稲田常任理事の出席を承認。
  2. 12/1(土)(東京)「国民医療危機突破全国総決起大会」の開催について  
今後検討することになった。
  3. 宮崎県成人病検診管理指導協議会委員の依頼について

現委員の秦会長他17名を承認。

4. 学術研修会の開催に伴う講師派遣依頼について  
講師を決定した。
5. 11/16(金)(県医)「診療情報提供の環境整備のための講習会」の開催に伴う講師の送迎計画等について  
送迎関係は担当理事の予定。
6. 施設入所者へのインフルエンザの接種について  
適格な対応を行い周知徹底する予定。

#### 医師連盟関係

##### (報告事項)

1. 医療制度改革について議員への働きかけについて  
地元選出衆参国議員への働きかけのお願いであった。

##### (協議事項)

1. 「患者負担増による医療保険制度改革阻止署名運動」に関し請願紹介議員の引き受けに伴う請願者について  
請願者を決定。  
提出期限の関係もあり、本連盟役員等に対応することになった。

#### 医師国保組合関係

##### (報告事項)

1. 11/3(土)医師国保組合歩こう会について  
無事終了した。

平成13年11月13日(火) 第16回全理事会

#### 医師会関係

##### (報告事項)

1. 週間報告について
2. 11/8(木)(県医) 医学会誌編集委員会について
3. 11/9(金)(県医) 有床診療所協議会だより編集委員会について

4. 第101回九州医師会連合会総会における宣言・決議の取り扱いについて
5. 11/8(木)(県庁)平成13年度第3回宮崎県行政改革懇談会について
6. 11/10(土)(都城)第14回県内医師会病院連絡協議会について
7. 11/13(火)(宮崎観光ホテル)第38回献血運動推進全国大会実行委員会設立総会及び第1回実行委員会について
8. 平成13年度宮崎県准看護婦(士)試験の実施について  
平成14年2月15日(金)サンホテルフェニックスで実施される。
9. 平成13年度看護婦等養成所運営費に係る国庫補助基準額の見直しについて  
見直しが行われ、生徒にかかる分が一律2,000円の増となった。
10. 11/8(木)(県医)平成13年度在宅医療推進のための「実地研修会」打ち合せ会について
11. 11/10(土)(千葉)第32回全国学校保健・学校医大会について  
『21世紀の学校保健 みんなで育てようからだとこころ』をメインテーマとして、午前中は、「からだ」「こころ」「耳鼻咽喉科」「眼科」の4分科会が開催され、活発な討論が行われた。  
午後は、「児童・生徒のこころを取り巻く社会環境」と題し、シンポジウムが行われた。  
次期は福井県医師会担当で平成14年11月9日(土)に開催される。
12. 11/10(土)(県医)産業医研修会について
- (協議事項)
1. 平14. 1/27(日)(県総合保健センター)第5回アディクション(嗜癖・依存)フォーラム宮崎における後援名義使用のお願いについて  
後援を承認。
2. 平14. 1/26(土)(福岡)九州医師会連合会第245回常任委員会並びに平成13年度第2回各種協議会の開催について  
第2回各種協議会は医療保険・地域保健医療(小児救急医療を中心として)・介護保険対策の3協議会が開催される。提案事項があれば出させていただくことになった。
3. 特定疾患治療研究専門委員候補者の推薦依頼について  
現委員の辞任に伴う後任の推薦依頼。県眼科医会に推薦を依頼することに決まった。
4. 平14. 2/16(土)(日医)平成13年度学校保健講習会の開催について  
浜田理事の出席が承認された。
5. 平14. 2/17(日)(日医)平成13年度乳幼児保健講習会の開催について  
浜田理事の出席を承認。
6. 平成13年度学校医報酬基準額について  
承認された。
7. その他  
各都市医師会年末懇談会の対応について出席者が決まった。
- 医師連盟関係
- (協議事項)
1. 12/11(火)(日医)日本医師連盟執行委員会開催について  
秦委員長、志多副委員長の出席が決定した。

## 県 医 の 動 き

(11月)

- 1 日医設立記念医学大会(日医)  
県介護支援専門員連絡協議会  
(河野常任理事他)
- 2 県無線従事者養成講習会  
ホスピスマインド研修会(会長他)
- 3 医師国保組合歩こう会(会長他)  
宮医大周産母子センター宮日新聞科学賞受賞祝賀会(会長)
- 4 献眼顕彰慰霊碑除幕式(会長)
- 5 安田火災との懇談会(会長他)
- 6 第15回全理事会(会長他)  
全国医師親睦野球大会優勝祝賀会(会長他)
- 7 日医医療危機突破都道府県医師会都市区医師会緊急合同対策会議(日医)  
(早稲田常任理事)
- 8 県身体拘束ゼロ作戦推進会議  
(河野常任理事)  
県行政改革懇談会(会長)  
在宅医療推進実地研修会打合会  
(夏田常任理事他)  
はにわネット幹事会(富田常任理事)  
医学会誌編集委員会(大坪副会長他)
- 9 有床診療所協議会だより編集委員会  
(稲倉常任理事)
- 10 日本婦人科がん検診学会(東京)(西村常任理事)  
全国学校保健・学校医大会(千葉)  
(大坪副会長他)  
九医協連購買・保険部会(福岡)  
(志多副会長他)  
産業医研修会(濱砂常任理事他)  
病院部会・医療法人部会合同研修会  
(濱砂常任理事他)  
乳がん検診研修会  
県内医師会病院連絡協議会(都城)(会長)
- 11 日母全国支部がん対策担当者連絡会(東京)  
(西村常任理事)
- 12 宮崎地方労働審議会(河野常任理事)
- 13 献血運動推進全国大会実行委員会設立総会及び実行委員会(会長)  
21世紀の社会保障制度を考える議員連盟総会(東京)(早稲田常任理事他)  
第16回全理事会(会長他)  
県福祉保健部と県医師会との懇談会  
(会長他)
- 14 「地域高齢者のいきいき活動」実践モデル事業推進委員会(早稲田常任理事)  
日医労災・自賠責委員会(日医)  
(河野常任理事)
- 15 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会(日医)(濱砂常任理事)  
医協会計監査(会長他)  
県献血者確保計画策定検討会  
(早稲田常任理事)  
県保健・医療・福祉関連団体協議会役員会(会長他)
- 16 県社会福祉事業団理事会(会長)  
診療情報提供の環境整備のための講習会  
(会長他)  
広報委員会(高崎理事)
- 17 九医協連理事会(福岡)(会長他)  
九州学校検診協議会専門委員会(福岡)  
(浜田理事)  
九州各県医師会学校保健担当理事者会  
(福岡)(浜田理事)
- 19 県リハビリテーション連携指針作成作業部会(夏田常任理事)  
勤務医部会理事会(浜田理事他)
- 20 都道府県医師会長協議会(日医)(会長)  
宮崎情報ハイウェイ21構想研究会生活部会  
(富田常任理事)  
第13回常任理事会(大坪副会長他)
- 21 都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会(日医)(瀬ノ口常任理事)  
宮崎政経懇話会特別講演会・懇親会(会長)  
宮崎信販との懇談会(会長他)
- 22 県医諸協会計監査(会長他)
- 23 九州理学療法士・作業療法士合同学会  
(濱砂常任理事)
- 24 宮医大すずかけ祭シンポジウム  
(夏田常任理事)  
宮崎リハビリテーション学院創立20周年記念式典(濱砂常任理事)
- 25 医療安全に関するシンポジウム(東京)  
(西村常任理事)
- 26 支払基金理事会(東京)(会長)  
宮母常任理事会(西村常任理事)  
広報委員会(富田常任理事他)
- 27 医協運営委員会(会長他)  
第14回常任理事会(会長他)
- 28 支払基金幹事会(会長)  
地域福祉権利擁護事業契約締結審査会  
(早稲田常任理事)  
宮崎銀行との懇談会(会長他)
- 29 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会(日医)(西村常任理事)  
労災診療指導委員会(河野常任理事)
- 30 県健康づくり協会職員表彰式(会長)  
三師会協議会(会長他)  
県警察官友の会宮崎北支部定時総会  
(早稲田常任理事)

## ニューメンバー

すみ きよ かつ  
隅 清 克

住 所：北諸県郡高崎町大  
字大牟田1204

専門科目：内科，消化器内科

家族構成：妻，長男（3歳），  
長女（2歳）

略 歴：

昭和56年 県立都城泉ヶ丘高校卒

平成6年 金沢医科大学医学部卒

同年 宮崎医科大学附属病院第二内科  
入局

趣 味：スポーツ観戦，ドライブ

抱 負：宮崎医大第二内科入局後，宮崎およ  
び都城地区を中心に一般内科，消化器内科医  
として勤務してまいりました。

この度，平成13年9月より実家の隅病院に  
勤務することになりました。消化器系疾患に  
ついては引き続き，8月まで勤務させていた  
だいておりました藤元早鈴病院消化器内科に  
て水曜，金曜日の半日ずつ勉強させていただ  
いております。まだまだ若輩ものではござい  
ますが，今度の医師会入会を契機に，諸先輩  
方のご指導の下，都城北諸地区の地域医療に  
微力ではありますが，貢献できるよう努力し  
ていきたいと思っております。どうぞよろし  
く御願い致します。

ふか み じゅん いち  
深 見 淳 一

住 所：東臼杵郡門川町加  
草2380の6

専門科目：耳鼻咽喉科

家族構成：妻，長男，長女

略 歴：

昭和18年 大分県立大分中学校卒業

昭和31年 東京慈恵会医科大学卒業

” 同大耳鼻咽喉科教室入局

昭和37年 水戸日赤病院

昭和43年 大分市で耳鼻咽喉科医院開業

平成13年（医）浩洋会 田中病院勤務

趣 味：スキー，テニス（病気のため現在休）

抱 負：抱負ではなく夢を書こうと思いまし  
たが…。戦争で夢は消え，戦後ユダヤとパレ  
スチナの争いでなくなり，20年後にはベトナ  
ム戦争で夢は散ってしまいました。それが我々  
の青春で過ぎた夢でした。

イラン，イラクを戦わせ，そんなことばか  
りで，自分のことをあまり考えることもなく  
老人になってしまいました。

## 会 員 消 息

平成13年11月末現在 会員数 1,598名

( A 会員 803名 , B 会員 795名 )

( 男 性 1,462名 , 女 性 136名 )

### 入 会

B ^{A2}	阿部 航 (宮医大)	H13.5.1	宮崎医科大学 第3内科	宮崎郡清武町大字木原5200 ☎0985-85-2965
B ^{A2}	竹内 茂 (宮崎)	H13.10.1	(医)社団仁和会 竹内病院	宮崎市霧島2-260 ☎0985-26-0123
A	徳留 昌幸 (都城)	H13.10.1	とくとめ クリニック	都城市上長飯町38-1 ☎0986-26-1820
B	坂元 正克 (南那珂)	H13.10.1	(医)同仁会 谷口病院	日南市大字風田3861 ☎0987-23-1331
B ^{A2}	新藤 恵一郎(宮崎)	H13.11.1	宮崎市郡 医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119
B ^{A2}	早瀬 崇洋 (宮崎)	H13.11.1	〃	〃

### 異 動

A	木村 健 (都城) (法人名称変更)	H13.9.1	(医)社団健成会 原田医院	都城市郡元町3245 ☎0986-23-7285
B ^{A2}	相良 勝造 (都城) (自宅会員へ変更: A B ^{A2} )	H13.9.15		都城市牟田町8-1 ☎0986-22-0009
B ^{A2}	荻田 幹夫 (都城) (勤務先変更)	H13.10.1	(社)八日会 藤元早鈴病院	都城市早鈴町17-1 ☎0986-25-1313
A	秋月 直也 (都城) (文書送付先変更)	H13.10.11	あきづき医院	都城市上水流町1023-1 ☎0986-36-0534
A	富田 明彦 (都城) (施設住所変更)	H13.10.11	(医)杏明会 富田医院	都城市栄町14-2 ☎0986-23-4586
B ^{A2}	富田 治海 (都城) (施設住所変更)	H13.10.11	〃	〃
A	弘野 修一 (宮崎) (新規開業: B ^{A2} A)	H13.10.16	ひろの内科 クリニック	宮崎市大字本郷北方字山崎3582-1 ☎0985-52-7311
A	井上 久 (宮崎) (自宅住所変更)	H13.10.26	井上耳鼻 咽喉科医院	宮崎市大工2-105-1 ☎0985-28-4133
B	日高 恵子 (宮崎) (文書送付先変更)	H13.10.26	(医)萌誠会 海老原クリニック	宮崎市丸島町2-26 ☎0985-25-8200
B ^{A2}	南 寛之 (宮崎) (自宅住所変更)	H13.10.26	(医)社団善仁会 市民の森病院	宮崎市大字塩路字江良の上2783-37 ☎0985-39-7630

B	田爪 陽一郎(宮崎) (勤務先変更)	H13.10.29	宮崎社会 保険病院	宮崎市大坪西1-2-1 ☎0985-51-7575
A	細川 和義 (宮崎) (新規開業: B A)	H13.11.1	細川内科 クリニック	宮崎都佐土原町大字東上那珂字池下14901-4 ☎0985-74-0058
B	坂田 禮三 (延岡) (自宅会員へ変更: A B)	H13.11.2		延岡市旭ヶ丘5-9-16 ☎0982-37-3265
退 会				
B	吉山 登志子(宮医大)	H13.9.30	(医) 社団善仁会 市民の森病院	宮崎市大字塩路字江良の上2783-37 ☎0985-39-7630
B A2	新名 克彦 (宮崎)	H13.10.31	宮崎市郡 医師会病院	宮崎市新別府町船戸738-1 ☎0985-24-9119
B A2	松本 真以子(宮崎)	H13.10.31	"	"
B	宮原 一彦 (都城)	H13.11.8	(医) 社団木村医院	都城市安久町6058-1 ☎0986-39-1010

## Web site

### Windows & Mac の疑問を解決

コンピュータを使っていると次から次と問題が起こるものです。

県医師会では、Fax, メールで疑問にお答えしていますが、下記のようなサイトもご利用ください。

#### ウィンドウズ トラブルシュート

<http://homepage2.nifty.com/winfaq/>

#### トラブルシューター for Mac

[http://hpcgi2.nifty.com/dai_dai/trouble_bbs.cgi](http://hpcgi2.nifty.com/dai_dai/trouble_bbs.cgi)

#### Daisy's Macintosh Trouble BBS

[http://www.daisy-mac.com/trouble_bbs/enter.html](http://www.daisy-mac.com/trouble_bbs/enter.html)

## 10月のベストセラー

1	声に出して読みたい日本語	斎藤孝	草思社
2	ハリー・ポッターと賢者の石	J. K. ローリング	静山社
3	どこへ行っても三步で忘れる鳥頭紀行くりくり編	ゲッツ板谷・西原理恵子 ・鴨志田穰	角川書店
4	十津川警部帰郷・会津若松	西村京太郎	講談社
5	今昔続百鬼一雲	京極夏彦	講談社
6	新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 戦争論2	小林よしのり	幻冬舎
7	逆説の日本史(9) 戦国野望編	井沢元彦	小学館
8	あいのり3	テレビライフ編集室	学習研究社
9	陰陽師瘤取り清明	夢枕獏	文藝春秋
10	ハリー・ポッターとアズカバンの囚人	J. K. ローリング	静山社

宮脇書店本店調べ

提供：宮崎店(宮崎市青葉町)

☎(0985)23-7077

## ドクターバンク情報

(H13.12.1 現在)

求人：82件(常勤99人)，求職：6件 6人，賃貸：3件

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。現在、上記のとおり情報が寄せられております。

情報の閲覧ご希望の方は、県医師会事務局に直接お越しになり、ご覧になってください。なお、求人、求職の申し込みをご希望の方は、所定の用紙をお送りしますので、ご連絡下さい。

担当理事 和田 徹也

事務局 福元 優美

TEL 0985-22-5118

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成13年11月21日現在

12		月			
1	土	14:00 (東京) 日医国民医療危機突破全国総決起大会 18:00 宮崎市郡医師会病院・新病棟及び緩和ケア病棟竣工記念式典	16 日	県介護支援専門員研究大会	↑↑ 社 国 保 保 審 審 査 査 ↓↓
	日		17 月	16:00 (東京) 支払基金理事会・懇親会 17:30 県リハビリテーション連携指針作成作業部会 19:00 宮母常任理事会	
2	日		18 火	13:30 県個人情報保護懇話会 14:00 県環境審議会 17:30 第18回全理事会 18:30 年末懇談会	
3	月		19 水		
4	火	18:00 第17回全理事会 19:00 各都市医師会長協議会	20 木	15:00 労災診療指導委員会 15:00 産業医研修会 17:30 医協接遇研修会 18:00 労災部会懇談会	
5	水	14:00 (日医) 日医社会保険診療報酬検討委員会	21 金	19:00 広報委員会 19:00 都城市北諸県郡医師会忘年会	
6	木	9:30 社会保険診療報酬検討委員会 18:30 延岡市医師会会員忘年会	22 土		
7	金	10:00 社会保険医療担当者共同指導 13:30 日医感染症危機管理対策協議会 15:00 (日医) 日医医療情報ネットワーク推進委員会 19:00 成人病検診従事者研修会	23 日	(天皇誕生日)	
8	土	13:00 (福岡) 日本医学会総会広報委員会 13:30 産業医研修会 14:00 (日医) 日医家族計画・母体保護法指導者講習会 15:30 (福岡) 日本医学会総会登録委員会 16:00 成人病検診従事者研修会 18:30 宮崎市郡医師会年末懇親会	24 月	(振替休日)	
9	日	10:30 (日医) 日本医療安全推進者養成講座第3回講習会	25 火	18:00 医協運営委員会 19:00 第16回常任理事会	
10	月		26 水	15:00 支払基金幹事会	
11	火	14:00 (日医) 日医連執行委員会 17:30 医師国保定例事務監査 19:00 第15回常任理事会	27 木		
12	水	14:00 (日医) 日医社会保険研究委員会	28 金	仕事納め式	
13	木	19:00 西都市西児湯医師会忘年会	29 土	(年末休業)	
14	金	18:30 健康づくり協会年末懇談会 19:00 広報委員会	30 日	(年末休業)	
15	土	13:00 プライマリ・ケア研究会世話人会 13:30 プライマリ・ケア研究会総会・講演会 15:00 成人病検診従事者研修会	31 月	(年末休業)	

都合により、変更になることがあります。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成13年11月21日現在

1		月	
1	火	(年始休業)	16 水 14:00(日医)日医労災・自賠責委員会 19:00 広報委員会
2	水	(年始休業)	17 木
3	木	(年始休業)	18 金
4	金	仕事始め式	19 土 14:00 小児救急シンポジウム 14:30 産業医研修会
5	土		20 日
6	日		21 月
7	月		22 火 19:00 第18回常任理事会
8	火	19:00 第17回常任理事会	23 水
9	水		24 木
10	木		25 金
11	金	病院部会・医療法人部会合同理事会・新年会	26 土 16:00(福岡)九医連常任委員会 16:00(福岡)九医連各種協議会 日向市東臼杵郡医師会総会
12	土	14:00 朝日医学セミナー	27 日
13	日		28 月 19:00 宮母常任理事会 19:00 広報委員会
14	月	(成人の日)	29 火 19:00 第20回全理事会
15	火	15:00 県環境整備公社理事会 19:00 第19回全理事会	30 水 15:00 労災診療指導委員会 31 木

都合により、変更になることがあります。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

注：数字は日本医師会生涯教育制度認定単位。当日，参加証を交付。

がん検診 = 各種がん検診登録・指定による研修会    太字 = 医師会主催・共催  
アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
宮崎市郡医師会第 3回市民公開講座・ 第102回しののめ医 学会 ( 5 単位 )	12月 1 日(土) 14:00 ~	宮日会館宮 日ホール	みんなで話そう宮崎の緩和ケア コメンテーター 宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟 医長                    黒岩 ゆかり 田中外科医院長    田中 俊正 宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟 整備検討委員会委員 市原 美宏 宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟 婦長                    筒井 麗子 コーディネーター みやざき中央新聞編集長 水谷 謹人	主催 宮崎市郡医師会
南那珂医師会医学 会 ( 5 単位 )	12月 3 日(月) 18:30 ~	南那珂医師 会館	前立腺癌検診における PSA(前立腺 特異抗原)について 宮崎医科大学泌尿器科助教授 蓮井 良浩	主催 南那珂医師会 共催 武田薬品工業(株)
宮崎市郡外科医会 12月例会 ( 3 単位 )	12月 3 日(月) 19:00 ~20:00	宮崎観光ホ テル	麻酔領域の最近の話題 宮崎市郡医師会病院麻酔科医長 香月 博	主催 宮崎市郡外科医会
第 8 回宮崎消化器 病研究会 ( 3 単位 )	12月 5 日(水) 18:45 ~21:00	宮崎観光ホ テル 1,000円	自己免疫(関連)性膵炎の概念と病態 京都大学医学部附属病院光学 医療診療部助教授 岡崎 和一 遺伝子性消化管ポリポーシスの臨床 九州大学大学院医学研究院病態 機能内科学教授 飯田 三雄	共催 宮崎消化器病研究会 第一製薬(株)
平成13年度宮崎県 医師会成人病検診 従事者研修会 ( 5 単位 ) がん検診	12月 7 日(金) 19:00 ~21:00  2月 8 日(土) 15:00 ~17:00 12月15日(土) 15:00 ~17:10	県医師会館 テレビ議シ ステムで4地区 (日向・西都・ 南那珂・西諸) へ放映予定  都城市北諸県 郡医師会館  カルチャーブ ラザのべおか	肺がん・乳がん検診の現況 宮崎医科大学第 2 外科助教授 松崎 泰憲 胃癌・大腸癌検診の現状と工夫 福田胃腸科・内科クリニック 院長                    原田 靖昭	主催 宮崎県医師会

名 称	日 時	場 所 費	演 題	そ の 他
宮崎県眼科医会講演会 (3単位)	12月8日(土) 16:00 ~18:30	宮崎観光ホテル	今日の眼科保険診療の諸問題について 宮崎県眼科医会健保担当理事 西元 雄一郎 緑内障薬物治療の現状と将来 大阪医科大学眼科助教授 中島 正之 眼科手術の新しいテクニック 藤田保健衛生大学眼科 主任教授 堀口 正之	主催 宮崎県眼科医会
精神科医会懇話会 (3単位)	12月8日(土) 16:30 ~18:00	宮崎観光ホテル	精神疾患を有する人々の社会参加を はばむもの 熊本大学医学部神経精神医学 講座教授 北村 俊則	主催 宮崎県精神科医会 共催 大日本製薬(株)
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会(3単位) がん検診	12月11日(火) 18:30 ~	都城ロイヤルホテル	プロントンポンプ阻害剤の適応 逆流性食道炎維持療法とピロリ菌除菌療法 佐賀医科大学内科学教授 藤本 一真	主催 都城市北諸県郡医師会内科医会 共催 武田薬品工業(株)
宮崎市郡内科医会12月例会 (3単位)	12月13日(木) 19:00 ~	宮崎観光ホテル	GERDの病態と治療 自治医科大学附属病院消化器 内科教授 菅野 健太郎	主催 宮崎木曜会 共催 宮崎市郡内科医会 宮崎市郡外科医会 アストラゼネカ(株)
第1回宮崎小児神経セミナー (3単位)	12月14日(金) 18:30 ~21:00	宮崎観光ホテル 1,000円	エンテロウイルス髄膜炎のRNA診断 (仮) 福島県立医科大学小児科講師 細矢 光亮	共催 宮崎小児神経セミナー 大日本製薬(株)
第112回宮崎県泌尿器科医会 (3単位)	12月20日(木) 19:00 ~	宮崎観光ホテル	MRSAによる院内感染について 宮崎医科大学泌尿器科教授 長田 幸夫	主催 宮崎県泌尿器科医会
第25回宮崎呼吸器カンファレンス学術講演会 (3単位)	平成14年 1月10日(木) 19:00 ~21:00	宮崎観光ホテル	呼吸器感染症治療における最近の動向(仮) 長崎大学医学部第2内科教授 河野 茂	共催 宮崎呼吸器カンファレンス 田辺製薬(株)

名 称	日 時	場 所 会 費	演 題	そ の 他
朝日医学セミナー ( 5 単位 )	1 月 12 日 ( 土 ) 14 : 00 ~ 17 : 00	県医師会館	最近の不整脈治療・治療適応の evidence 北里大学医学部内科学講師 庭野 慎一 ブレインアタック時代の脳梗塞診断と治療 慶應義塾大学医学部内科学教室 講師 棚橋 紀夫	主催 宮崎県医師会 朝日新聞社 第一製薬(株) 後援 日本医師会 日本循環器学会 日本脳卒中学会
宮崎県高血圧治療 ガイドライン教育 講演会 ( 3 単位 )	1 月 18 日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 30	宮崎観光ホテル	心腎保護効果から見た降圧治療 旭川医科大学第 1 内科教授 菊池 健次郎 高血圧症の現状と治療ガイドライン 九州大学名誉教授 藤島 正敏	共催 日本高血圧学会 宮崎県内科医会 臨床医のための循環器疾患研究会 山之内製薬(株)
小児救急医療に関する一般公開シンポジウム ( 5 単位 )	1 月 19 日 ( 土 ) 14 : 00 ~ 17 : 00	宮日ホール	小児救急医療の問題点 ( 仮 ) 北九州市立八幡病院小児科部長 市川 光太郎	主催 宮崎県医師会
第 5 回宮崎リウマチ医の会 ( 3 単位 )	1 月 19 日 ( 土 ) 15 : 00 ~ 18 : 00	JA-AZM ホール 1,000円	リウマチ学のトピックス : ACR と EBM 県立宮崎病院内科部長 上田 章 リウマチ頸椎病変に対する保存的治療 国療神奈川病院整形外科医長 桑原 茂 リウマチのリハビリテーション 水俣市立湯之児病院リハビリテーションセンター院長 浅山 滉	共催 宮崎リウマチ医の会 日本リウマチ財団 旭化成(株)
宮崎県内科医会学術講演会 ( 3 単位 )	1 月 19 日 ( 土 ) 17 : 00 ~ 19 : 00	宮崎観光ホテル	一般内科の不眠症の診断と治療 九州大学医学部心療内科講師 十川 博 不眠症治療ガイドラインの概要 久留米大学医学部精神神経科学 助教授 内村 直尚	共催 宮崎県内科医会 三菱ウェルファーマ(株)
第 16 回宮崎県腹部 超音波懇話会 ( 3 単位 )	1 月 19 日 ( 土 ) 17 : 00 ~ 19 : 00	県医師会館 4 階研修室 1,000円	胆嚢疾患エコー 虎の門病院消化器外科部長 渡辺 五朗	共催 宮崎県腹部超音波懇話会 住友製薬(株)

名 称	日 時	場 所 費	演 題	そ の 他
第11回宮崎臨床免疫研究会 ( 3 単位 )	2 月 1 日(金) 18 : 40 ~ 20 : 30	宮崎観光ホテル 1,000円	全身性エリテマトーデスの病態と分子機構 埼玉医科大学総合医療センター 第2内科教授 竹内 勤	共催 宮崎臨床免疫研究会 旭化成(株)
第26回宮崎県スポーツ医学研究会 ( 3 単位 )	2 月 2 日(土) 16 : 30 ~ 18 : 00	県医師会館	開業医の立場からみた成長期スポーツ傷害の現状とその対策 大場整形外科クリニック院長 大場 俊二	共催 宮崎県スポーツ医学研究会 ファイザー製薬(株)
平成13年度日本医師会生涯教育講座 ・日本医師会社保指導者講習会復講 ・宮崎県救急医療施設医師研修会 ( 5 単位 )	2 月 9 日(土) 15 : 00 ~ 18 : 00	県医師会館 テレビ会議システムで5地区(都城、延岡、西都市・西尾湯、南那珂、西諸入)同時放映予定	次期診療報酬改訂について 宮崎県医師会常任理事 稲倉 正孝 脳血管障害の臨床 - 内科の立場より - ( 医 ) 翔和会みなうち内科神経内 科院長・宮崎市郡医師会理事 皆内 康広 脳血管障害の臨床 - 外科の立場より - 宮崎医科大学脳神経外科助教授 中野 真一 宮崎県医師会災害医療計画について ( 仮 ) 宮崎県医師会常任理事 早稲田 芳男	主催 宮崎県医師会
宮崎県医師会県民健康セミナー ( 5 単位 )	2 月 16 日(土) 13 : 30 ~ 16 : 00	県医師会館	生活習慣病の予防と運動 名古屋大学総合体育科学センター 教授 佐藤 祐造 未定 長野県医師会長 鈴木 強	主催 宮崎県医師会 宮崎県 宮崎日日新聞社 後援 日本医師会 宮崎市郡医師会 協賛 (株)ツムラ
第24回宮崎リハビリテーション研究会 ( 3 単位 )	2 月 23 日(土) 15 : 30 ~ 17 : 00	宮崎社会保険病院 1,000円	作業療法におけるリハビリテーション事例研究 九州保健福祉大学教授 Pesco Mary S .	主催 宮崎リハビリテーション研究会

## 診療メモ

満1歳になったら直ちに  
麻疹ワクチンを接種して下さい

わが国では、毎年麻疹の地域的な流行が反復し、国内約3,000の小児科定点から年間11,000人から22,000人の麻疹患者の報告がある。実際の麻疹患者数はこの10倍以上の数に達すると推定されている。宮崎県でも、今年（2001年）1月から6月までの6か月間に県下37定点から700人余りの小児麻疹の報告があった。欧米ではワクチン接種によって麻疹制圧に成功しており、米国の年間麻疹発生数は100人未満である。わが国は今や麻疹輸出国の烙印が押されている。麻疹はワクチン効果が最も期待される疾患の一つであり、ワクチンによって制圧されなければならない。

県立宮崎病院小児科では、今年（2001年）1月から8月の間に90人の麻疹患者を経験した。年齢別には1歳代20人（20.0%）、6か月～1歳未満17人（18.9%）、10歳以上16人（17.8%）であり、1歳以上が患者の80%、1歳未満が20%を占めた。同年1月から6月までの宮崎県下定点から報告された698人の年齢分布もほぼ同様の傾向であり、1歳代185人（26.5%）、6か月～1歳未満93人（13.3%）、10歳以上93人（13.3%）であった。90人中66人（73.3%）が麻疹肺炎、麻疹後肺炎、中耳炎および脱水症などのために入院治療を必要とした。重症合併症は2歳9か月男児、6歳6か月女児、7歳3か月女児の3人にみられ、2歳9か月男児は麻疹肺炎と脳炎を合併したが、後遺症なしに治癒した。他の2人（6歳6か月女児はホジキン病寛解中に麻疹肺炎合併で死亡。7歳3か月女児は医療ネグレクトのためワクチン接種の拒否および麻疹肺炎

治療の放棄で死亡）は死の転帰をとった。麻疹の合併症は、二大死因である肺炎（4～7人/麻疹患者100人）と脳炎（1人/麻疹患者1,000～2,000人）が重要であるが、その他に中耳炎、下痢はしばしば合併する。また、麻疹ウイルスの中枢神経系細胞における持続感染によって生じる亜急性硬化性全脳炎が麻疹罹患患者10万人に1人の頻度で見られる（県立宮崎病院小児科では2人を治療中）。麻疹合併症による死亡は麻疹患者100人当たり1人との報告もあり、わが国では毎年80～90人の死亡例が確認されている。麻疹は小児科医が身構える重症小児感染症の一つであることは、今も変わらない。

発症した麻疹の治療は対症的である。ただし、麻疹患者と接触したら接触3日（72時間）以内の場合はワクチン接種、接触3日以上5日以内の場合は筋注用γ-グロブリン0.25ml/kgで発症予防または軽症化が期待できる。

90人のうち、麻疹ワクチン未接種者は重症合併症3人を含む84人（93.3%）接種者は6人（6.7%）であった。接種者6人のうち、3人は緊急接種の例で、他の3人はprimary vaccine failure（接種を受けても抗体が産生されない）であった。今回経験した90人の麻疹罹患者の約80%は1歳以上の幼児および学童であり、その95%はワクチン未接種者であった。1歳以下の罹患率は約20%にみられたが、これはワクチン未接種群の1歳児などが感染源となり、麻疹感受性となっている乳児を巻き込んだ結果であろう。

麻疹の流行を阻止するためには95%以上の予防接種率が必要であるが、わが国の接種率は80%

前後と推定されている。平成12年度の宮崎県の接種率は77%と低率であり、市町村による格差もみられた(表1)。

麻疹流行の問題を早期に解決するためには、第一段階としてワクチン接種率の向上(95%以上の達成が必要)によって麻疹の流行そのものをコントロールし、第二段階として適当な時期に麻疹ワクチンを追加接種し、secondary vaccine failure(接種により抗体が産生されたにもかかわらず、年毎に抗体の減衰が繰り返し感染発

症する)を阻止することである。医師会が中心となり麻疹流行阻止のための行動を開始している都道府県があるが、沖縄県も麻疹流行阻止緊急アピールを出し、その対策を示した(表2)。宮崎県の麻疹ワクチン接種率は全国平均以下であり、医師会、行政およびその他の予防接種関係者が協力し麻疹ワクチン接種率の向上のために更に力を傾ける必要がある。

(浜田 恵亮)

表1 保健所管轄別にみた麻疹予防接種率の年次推移(%)

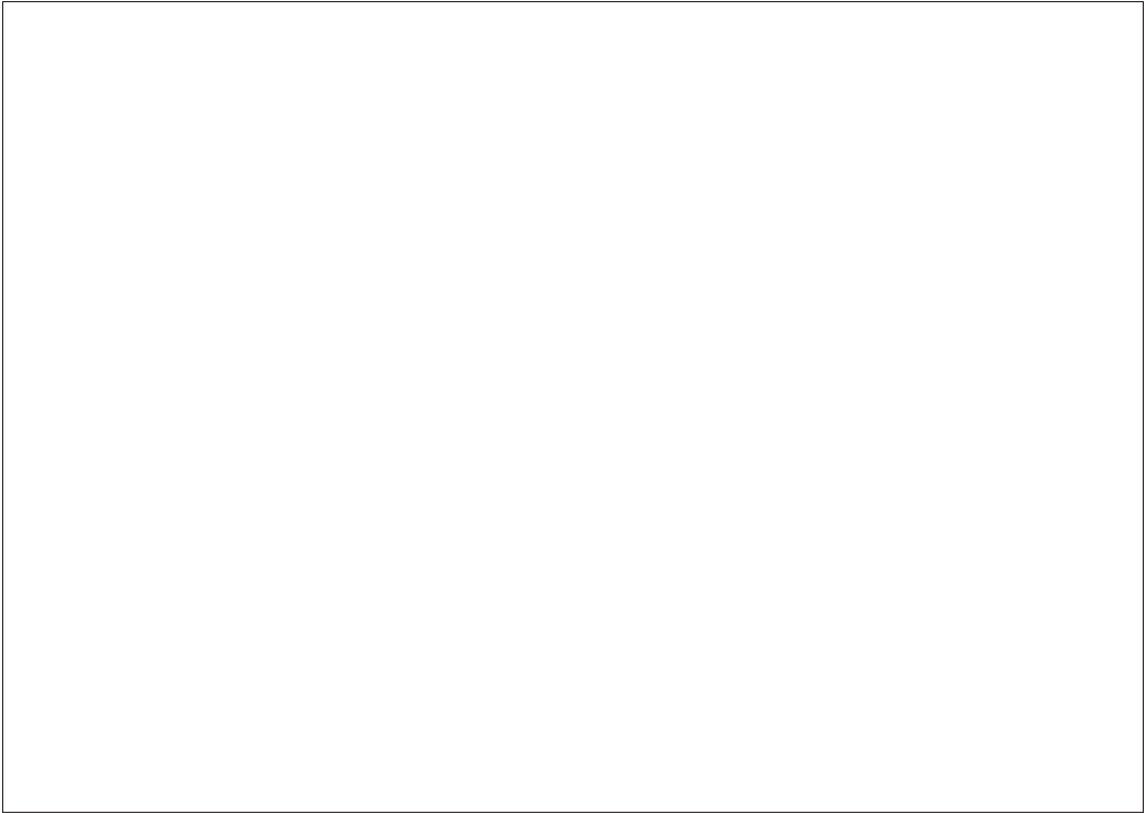
	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
宮崎 H C	80	68	90	97	94
日南 H C	51	50	57	58	49
都城 H C	51	32	69	79	81
小林 H C	52	36	51	48	79
高鍋 H C	60	51	52	67	60
日向 H C	50	44	51	64	56
延岡 H C	65	77	69	71	78
高千穂 H C	87	90	85	82	83
宮崎県合計	63%	52%	69%	76%	77%

(宮崎県保健薬務課疾病対策係)

表2 麻疹予防対策

- 1) 保護者は、定期予防接種を1歳の早期に徹底させる。
- 2) 市町村は、予防接種行政を強力に推進する。1歳児の麻疹予防接種率の目標を95%以上とする。
- 3) 保育所などの施設は、園児等の予防接種歴の把握と感受性者への接種勧奨をおこなう。
- 4) 保健・医療機関は、予防接種の正しい知識の普及に努める。
- 5) 麻疹は小児だけの感染症ではないことを認識する。

(沖縄県感染症情報HP引用改変)

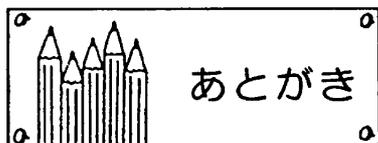


## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。  
詳細につきましては、所属郡市医師会へお問い合わせください。

送付日	文 書 名	備 考
10月20日	・感染症・食中毒情報（ 1012）	
10月22日	・使用済み医療器具由来のH I V等の感染予防について	
10月23日	・感染症・食中毒情報（ 1013）	
10月24日	・病原性微生物等の管理の強化について ・感染症・食中毒情報（ 1014）	
10月25日	・新たに保険適用となった医療用具の通知の一部訂正について （日医発第322，405，496号） ・感染症・食中毒情報（ 1015）	
10月26日	・病原性微生物等の管理の強化について（依頼） ・社団法人日本感染症学会「炭疽に関する意見書」の送付について ・感染症・食中毒情報（ 1016）	
10月29日	・T H P「心とからだの健康づくり指導者養成専門研修受講の案内」 ・炭疽菌等の汚染のおそれのある郵便物等の取扱いに関する対応について ・公開シンポジウム「21世紀の権利擁護を考える」の開催について（案内） ・医療用具の保険適用について	
10月30日	・「医療安全シンポジウム」及び第6回医療安全対策検討会議の開催について（通知） ・膵臓移植希望者（レシピエント）選択基準の一部改正及び腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準における型の取扱いについて	
11月2日	・特定保険医療材料の材料価格算定に関する留意事項の一部改正について ・救急蘇生法の指針の一部修正について ・麻薬及び向精神薬取締法施行令及び麻薬，向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令の施行について ・「病原微生物検出情報」，「病原微生物検出情報（普及版）」の送付について ・インフルエンザH Aワクチンの接種及び供給について（依頼） ・感染症・食中毒情報（ 1017，1018，1019，1020）	
11月5日	・インフルエンザH Aワクチンの供給及び購入について	

送付日	文 書 名	備 考
11月6日	・感染症・食中毒情報（ 1021 ）	
11月7日	・年末年始におけるレセプト提出及び平成14年レセプト提出締切日について（お願い）	
11月8日	・感染症・食中毒情報（ 1022 ）	
11月9日	・被爆者健康手帳の無効について（通知）2名分	
11月12日	・麻薬及び向精神薬取締法施行令及び麻薬，向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令の施行について ・感染症・食中毒情報（ 1023 ）	
11月13日	・医師免許を有しない者による脱毛行為等の取扱いについて（通知） ・感染症・食中毒情報（ 1024 ）	
11月14日	・予防接種に係る全国主管課長会議資料の送付について ・平成13年度看護婦等養成所運営費に係る国庫補助基準額の見直しについて	
11月15日	・今冬のインフルエンザ総合対策の推進について ・予防接種法の一部を改正する法律等の施行について ・感染症・食中毒情報（ 1025 ， 1026 ）	



21世紀元年もあつという間に師走を迎えました。今年最後の日州医事をお届け致します。電子カルテや進化型オンラインレセプトコンピュータシステム(ORCA)など、医療の電子情報化への動きは年々速度を増しています。今月号の日州医談では富田先生が、医療の情報化の諸問題や情報財産構築の意義について解説されています。一般のビジネス社会においては、情報のネットワーク化やシステム化

は今や常識になってきていますが、医療界でも個人のレベルでその有用性・利便性を今以上に認識し積極的に関わっていくことが必要ではないでしょうか。薬事情報センターだよりでは、ビール酵母が日本薬局方にも収載されているなど興味深い知見が紹介されており。また、診療メモでは、浜田先生が麻疹の流行や重症例について言及され、満1歳でのワクチン接種を強調されています。診療メモは、各診療科のトピックを掲載していますが、執筆の先生におかれましては、いつも突然の依頼に快くお応えいただき感謝の限りです。これからもよろしく願い申し上げます。

この一年、数多くのご投稿やご意見を賜わり誠にありがとうございました。また、この度お寄せ戴いた新春随想は、来月号より2回に分けて掲載致します。編集委員一同、重ねてお礼申し上げます。何かと辛い話題の多い一年でしたが、明ける年は今月号表紙の明星の如く、うす暗い夜空の中にも凜として光り輝くような社会になるよう祈りたいと思います。(川名)

* * * * *

今年も残り1か月となりました。21世紀の始まりという記念すべき年となるはずが、テロと戦争という不安の幕開けとなってしまいました。

さてこちらは大詰めを迎えた医療制度改革問題。そもそも公共事業一辺倒の偏った財政構造を変えるのが構造改革だと思うのですが、構造はそのままに、全体を小さくして帳尻を合わせようという考えは、将来不安を増大させるだけでしょう。財務省主導案には徹底して異を唱え続けるべきと考えます。

(富田)

* * * * *

11月18日(日)の宮崎日日新聞に載った三師会による一面広告をご覧になりましたか。富田広報担当理事の報告にありますように、地方紙への掲載がよりきめ細かな広報活動につながるのと日医の方針に基づくものです。掲載前に会員に配布されたポスターと同じものですが、保険医療制度についての医師会の考えがわかりやすく見やすく載っていましたので県民へのインパクトはあったと思います。お金は掛かる(約200万円)でしょうが、今後大事な時には載せるべきだと考えます。(成田)

* * * * *

今年最大の出来事はニューヨーク世界貿易センタービルのテロによる破壊でしょう。毎年11月に行われる世界最大のマラソン大会、ニューヨーク・シティマラソンはきっと中止になると思っていました。ところが、ジュリアーニ市長の決断で今年も開催され、2万4,000人あまりが参加、大いに盛り上がったそうです。「立ち上がろう。涙より笑いを」だそうです。もし、ホテル45が破壊されたら青島太平洋マラソンは中止にされたでしょう。そんな気がします。どちらが正しいと決められるものではないと思いますが。

(井上)

* * * * *

記念すべき21世紀の幕開けの年は、いろんな意味で歴史に残る年になりました。個人的にも、意味合いの大きな年でした。来年はいったいどんな年にな

るのやら。

「医療制度改革」と正義の言葉のように聞こえるけれど、老人の受診控えにより、経営的には更に厳しさを増すように思います。また、今月号には電子カルテの話もありますが、本当にいろんな変革がなされてくるのでしょうか。ああっ、取り残されないようにしなくては。

それでは、皆様がつつがなく新年を迎えられますように、そして2002年が良い年でありますようにお祈りいたします。(大藤)

* * * * *

今年はまだ11月だというのに、我が医院にはすでに数人のインフルエンザの患者さんが来られた。慌てて判定キットを納入してもらい準備を整えたが、ワクチン接種も間に合わないほどの早い流行になるのか心配している。去年は肩透かしを食らったような感じであったが、今年は不意打ちを食らい、これからやってくるであろう多忙な日々を恐れをなしている。国のワクチン対策も後手に回らなければいいがと思う。皆さんもワクチン接種はお早めに。

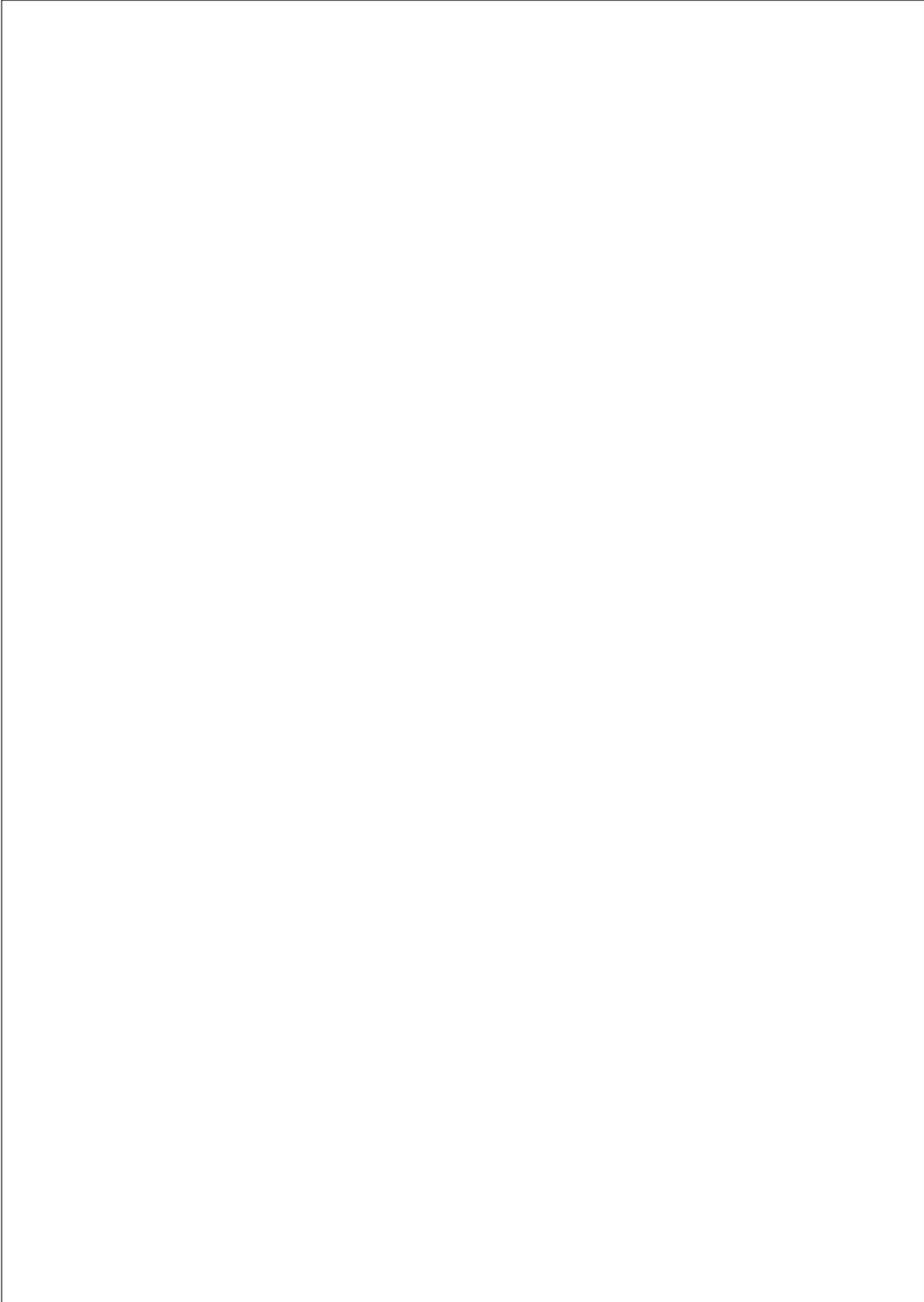
(小村)

* * * * *

最近医療ミス報道の数が明らかに増加していますが、新聞等で関連の内容を読むと偏ったものが少なくない印象です。先生方はどのように感じておられるのでしょうか。いったん裁判沙汰になると、受け身となられた当事者の先生方の心労は大変なものと思われれます。

本誌に連載されている医事紛争情報を欠かさず読んで、対岸の火事ではないと肝に銘じています。本号の中ではC型肝炎へのエコー検査未実施による賠償判決が特に他人事とは思えません。C型肝炎で数年間フォローされていたにもかかわらず肝癌が5~6cm以上の大きさになって初めてご紹介を受けることが稀ではありません。肝癌は3cmになればエコー検査でほとんどが発見可能です。ご注意ください。

(三原)



## 「日州医事」平成13年 総目次 ( 617 ~ 628 )

## 【表 紙】

初日の出	宮 崎 市	竹 尾 康 男	1 月号
山の子供達	高千穂町	田 崎 力	2 月号
憩いのひととき	宮 崎 市	吉 賀 幸 夫	3 月号
サンマリスタジアム宮崎	(宮崎県提供)	三 原 謙 郎	4 月号
鶴戸神宮の岩	都 城 市	飯 田 長 雄	5 月号
フライト	小 林 市	前 田 俊 二	6 月号
浮 遊	宮 崎 市	竹 尾 康 男	7 月号
流れる	宮 崎 市	楠 元 正 輝	8 月号
ファンタジー	小 林 市	前 田 俊 二	9 月号
青島風景	宮 崎 市	谷 栄 市	10 月号
窓 辺	宮 崎 市	竹 尾 康 男	11 月号
霧島連山暮色	小 林 市	前 田 俊 二	12 月号

## 【会長のページ】

21世紀の年頭に			1 月号
高齢者医療制度創設を急ごう			2 月号
3月危機説			3 月号
21世紀の初年度を迎えて			4 月号
生の意見をお寄せ下さい!			5 月号
改革の機運			6 月号
2001年定例総会挨拶(予定稿)			7 月号
改革のスピード			8 月号
「我が医療革命論」を読もう!			9 月号
財政主導の厚生労働省 医療制度改革試案			10 月号
患者負担増(自己負担3割)に反対しよう!			11 月号
いよいよ正念場!			

## 【日州医談】

地域医療~かかりつけ医と病診連携~	常任理事	夏 田 康 則	2 月号
介護保険に於ける主治医の役割	常任理事	河 野 雅 行	3 月号
准看護婦(士)問題に理解を	常任理事	瀬ノ口 頼 久	4 月号
社会保障制度の改革に必要なこと	副 会 長	志 多 武 彦	5 月号
見えてきた病床削減策	常任理事	濱 砂 重 仁	5 月号
平成13年度宮崎県福祉保健部予算について	常任理事	夏 田 康 則	5 月号
医事紛争と法律	常任理事	西 村 篤 乃	6 月号
健康教育に関心を	常任理事	瀬ノ口 頼 久	6 月号
ORCA(仮称)-レセコンはどうなるのか-	常任理事	富 田 雄 二	6 月号
宮崎産業保健推進センターについて	常任理事	濱 砂 重 仁	7 月号
老人医療費	副 会 長	大 坪 睦 郎	8 月号
平成12年度宮崎社会保険事務局の定時調査について	常任理事	稲 倉 正 孝	8 月号
成年後見制度と医師の役割	常任理事	早稲田 芳 男	8 月号
第9回参院選かく戦えり	常任理事	早稲田 芳 男	8 月号
宮崎県における小児救急医療の問題点	常任理事	早稲田 芳 男	10 月号
第9次へき地保健医療計画について	理 事	高 崎 直 哉	10 月号
第39回 全医連全体協議会から	理 事	永 友 和 之	11 月号
注意して下さい!療養環境加算	常任理事	濱 砂 重 仁	11 月号
医療の情報化の諸問題	常任理事	富 田 雄 二	12 月号

## 【挨拶】

年頭所感		日本医師会長	坪井 栄 孝	1月号
年頭所感			各都市医師会長	1月号
年頭所感		顧問	城山 英太郎	1月号
年頭所感		顧問	福永 克己	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(1区)		中山 成彬	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(2区)		江藤 隆美	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(3区)		持永 和見	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(比例区)		大原 一三	1月号
年頭のご挨拶	衆議院議員(比例区)		堀之内 久男	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員		上杉 光弘	1月号
年頭のご挨拶	参議院議員		長 峯 基	1月号

## 【退任教授挨拶】

医療情報部教授			吉原 博幸	4月号
---------	--	--	-------	-----

## 【新任教授挨拶】

病理学第一講座教授			浅田 祐士郎	5月号
微生物学講座教授			林 哲也	5月号
皮膚科学講座教授			瀬戸山 充	5月号
小児科学講座教授			布井 博幸	6月号

## 【論壇・論説】

宮崎医大はどう変わる？	宮崎市		佐藤 衛	6月号
今後の医療の展望	宮崎市		矢野 隆郎	11月号
小児医療は常に救急医療である	宮崎市		佐藤 衛	11月号

## 【随想・随筆】

蘭医 後藤治房の墓	宮崎市		神戸 十四郎	3月号
日記	宮崎市		谷口 二郎	3月号
茶のルーツ・茹苦茶	日向市		富山 明宜	4月号
奇縁奇遇	都城市		小田 昌男	4月号
細い水脈	宮崎市		大西 雄二	5月号
庭の万両	宮崎市		友成 久雄	5月号
イディオ・サヴァン	宮崎市		早稲田 芳男	6月号
59年ぶりに判明した亡夫の消息	宮崎市		貴島 テル子	6月号
臨床医の勲章	日向市		三倉 剛	10月号
庭に花が咲いた	宮崎市		友成 久雄	10月号
泥棒！御用だ！！	宮崎市		早稲田 芳男	12月号
理解できない靖国合祀	日向市		富山 明宜	12月号
ハンセン病悲話	南郷町		東 茂光	12月号

## 【旅行記】

You Should decide...	清武町		濱砂 良一	3月号
シドニーオリンピック旅行記	宮崎市		河野 雅行	4月号
Fijiの正月	宮崎市		貴島 テル子	10月号

## 【新春随想・俳壇・歌壇】

櫛木立ち	西都市		水田 雅久	1月号
21世紀の脳神経外科医,チームワーク医療と脳賦活	宮崎市		上田 孝	1月号
明るい21世紀へのスローガン	門川町		汪 昭名	1月号
現代医学の進歩	宮崎市		富田 正雄	1月号
生死一如？	日向市		鮫島 哲也	1月号
年齢相応	宮崎市		早稲田 芳男	1月号
1000年紀という節目	宮崎市		立山 浩道	1月号
牡丹	宮崎市		永吉 洋次	1月号

新春随想	川南町	難波	煌	治	1月号
カケロマ(加計呂麻)島紀行	宮崎市	中山	山	健	1月号
救急当直について	延岡市	中田	島	也	1月号
父の形見	宮崎市	谷口	誠	二	1月号
ゴルフ・300歳	宮崎市	日高	正	昭	1月号
第四楽章へ	日向市	尾崎	正	生	2月号
雑感	宮崎市	神尊	敏	彦	2月号
日本経済のゆくえ	串間市	川島	尚	志	2月号
新春の抱負・希望	宮崎市	田中	善	久	2月号
タバコ	宮崎市	大野	政	一	2月号
黒龍江省訪問記	宮崎市	大原	田	一	2月号
我が家の「はな」ちゃん	宮崎市	丸田	敵	剛	2月号
新ミレニアムを迎えて想うこと	延岡市	無敵	野	武	2月号
新春雑感	宮崎市	小野	沼	弘	2月号
Arts in Healthcare	延岡市	長沼	藤	三	2月号
テニス, ジョギング, そして水泳	清武町	江藤	胤	尚	2月号
大晦日	宮崎市	楠元	正	輝	2月号
【はまゆう随筆・俳句・短歌】					
トルコ行進曲	宮崎市	大淵	達	郎	7月号
宮医大看護学科新設について	清武町	森満	隆	一	7月号
新湯温泉・大幡山登山の勧め	高平原町	莫根	直	也	7月号
鮮烈な海外体験	清武町	田島	恒	久	7月号
ダッチオープン	三股町	内田	下	兼	7月号
無用の者なり	三股町	山島	哲	也	7月号
私もシャボンダマの一つ!	日向市	鮫古	賀	知	7月号
くちなしの花	宮崎市	新宮	世	三	7月号
decade	宮崎市	壹岐	尚	生	7月号
若山牧水(繁)と私	宮崎市	安藤	健	一	8月号
脇を締める	都城市	谷口	二	史	8月号
信じられない話	宮崎市	瀬ノ	洋	敬	8月号
父(院長)の趣味	都城市	浅田	田	敬	8月号
思い出	宮崎市	野辺	本	宏	8月号
アレルギー性鼻炎の特効薬(?)	宮崎市	松本	山	陽	8月号
憧れのラッフルズホテル	田野町	横山	下	恒	8月号
シーチキンと骨シチュー	都城市	木下	崎	生	8月号
鴉に叩かれた話	宮崎市	尾崎	田	浩	8月号
ダラス 学会無宿	日向市	柳田	山	浩	8月号
近頃思うこと 父と私	都城市	立山	野	武	9月号
菅牟田の稚児どん	宮崎市	小野	中	善	9月号
ある日(其の三)	宮崎市	田中	成	久	9月号
英検1級を受験して	宮崎市	友成	久	雄	9月号
高年の誕生日	宮崎市	野成	辺	貞	9月号
上杉鷹山	宮崎市	野津	津	舜	9月号
ノーモア淳君事件	都城市	稲邊	辺	命	9月号
小さい旅をして	日向市	渡辺	沼	弘	9月号
両舌者	延岡市	長沼	間	三	9月号
お犬騒動	宮崎市	近林	榮	治	9月号
10年目の節目	宮崎市				9月号
【叙位・叙勲】					
正六位(保健衛生功勞)	宮崎市	福永	克	己	6月号

勲五等瑞宝章（学校保健功劳）	高岡町	麻生昭典	6月号
勲五等双光旭日章（保健衛生功劳）	宮崎市	佐藤衛	12月号
勲五等双光旭日章（警察協力功劳）	小林市	池田卓郎	12月号
従五位・勲四等瑞宝章（保健衛生功劳）	日南市	谷口良昭	12月号
<b>【表彰・祝賀】</b>			
警察医功劳者警察庁長官表彰		甲斐允雄	8月号
救急医療功劳者厚生労働大臣表彰		後藤政治	10月号
母子保健家族計画事業功劳者厚生労働大臣表彰		佐藤衛	10月号
救急医療事業功劳者県知事表彰		柳田喜美子	10月号
救急医療事業功劳者県知事表彰		赤須巖	10月号
救急医療事業功劳者県知事表彰		八尋克三	10月号
社会保険診療報酬支払基金関係功績者社会保険診療報酬支払基金理事長表彰		立山浩道	12月号
国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰		内山一雄	12月号
国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰		小林邦雄	12月号
宮崎日日新聞賞（科学賞）	宮崎医科大学周産母子センター		12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		杉澤徹	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		後藤政治	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		義川英治	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		土井彰	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		寺本昭三	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		前田丈夫	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者県教育長表彰		福岡良朗	12月号
短歌振興等の文化功劳者宮崎県文化賞		野辺堅太郎	12月号
学校保健及び学校安全の功劳者文部科学大臣表彰		青山雅行	12月号
公衆衛生事業功劳者厚生労働大臣表彰		竹下文夫	12月号
公衆衛生事業功劳者財団法人日本公衆衛生協会長表彰		柳田琢也	12月号
公衆衛生事業功劳者財団法人日本公衆衛生協会長表彰		藤本孝一	12月号
公衆衛生事業功劳者財団法人日本公衆衛生協会長表彰		二木秀人	12月号
宮崎県老人保健事業推進功劳者県知事表彰		友清義海	12月号
宮崎県公衆衛生功劳者県知事表彰		平野宏	12月号
宮崎県公衆衛生功劳者県知事表彰		寺尾博二	12月号
スポーツの普及と振興の功劳者宮崎県体育協会スポーツ功劳賞		隅清賢	
宮崎市町村教育委員会連合会表彰・宮崎県教育功劳賞		柳田喜美子	
宮崎市町村教育委員会連合会表彰・宮崎県教育功劳賞		岩田達男	
全国市町村教育委員会連合会表彰・全国教育功劳賞		柳田喜美子	
全国市町村教育委員会連合会表彰・全国教育功劳賞		岩田達男	
宮崎県医療功劳者県知事表彰		大淵達郎	
宮崎県医療功劳者県知事表彰		杉澤徹	
宮崎県医療功劳者県知事表彰		児玉三千男	
宮崎県医療功劳者県知事表彰		岩田達男	
宮崎県医療功劳者県知事表彰		早川潤太郎	
<b>【グリーンページ】</b>		副会長 志多 武彦	
高齢者医療制度改革について			1月号
高齢者医療制度改革について（その2）			2月号
高齢者医療制度改革について（その3）			3月号
平成12年度個別指導結果について			4月号
社会保障構造の在り方について考える有識者会議報告書について			5月号
平成12年度個別指導結果について			6月号
医療制度改革の課題と視点（その1）			7月号

医療制度改革の課題と視点 (その2)			8月号
今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針			9月号
経済財政諮問会議・総合規制改革会議			10月号
医療制度改革試案			11月号
医療制度改革の行方			12月号
<b>【エコリレー】</b>			
霊峰を望みつつ	小林市	矢野裕士	1月号
ロボット時代	野尻町	園田泰三	1月号
薩英戦争	宮崎市	福田元廣	2月号
グアム島旅行	宮崎市	田中善久	2月号
マイカー通勤	都城市	榑原進一郎	3月号
私は道路上班, 班長さん	宮崎市	田中政幸	3月号
ちょうど20年目	宮崎市	松岡均	4月号
この15年程	都城市	宮下哲朗	4月号
血液疾患治療者は開業に不向きか?	日南市	河野清秀	5月号
入 厄	日向市	家村文夫	5月号
ノートパソコンと私	宮崎市	矢野伸樹	6月号
入学早々...	えびの市	前田和伸	6月号
こんな片田舎にも...	小林市	益山芳正	7月号
ゴルフについて思うこと	門川町	長田浩伸	7月号
名硯図録	西都市	水田雅久	8月号
先輩との旅	都城市	田口利文	8月号
原子爆弾と学生同盟の頃の思い出	山之口町	志々目亨	9月号
釣りは魔物?	宮崎市	中津留邦展	9月号
クラス会	延岡市	宮本利哉	10月号
娘の誕生	都城市	田中彰人	10月号
み ち	都城市	土井 彰	11月号
マラソンの楽しみ方	宮崎市	木佐貫博人	11月号
散 歩	宮崎市	徳田吉郎	12月号
開業してみて	日南市	島田雅弘	12月号
<b>【あなたできますか?】</b>			
平成11年 医師国家試験問題より(32)~(36)			1月号~5月号
<b>【宮崎医科大学だより】</b>			
生理学第二講座	助 手	穴井慶太	2月号
薬理学講座	助 教 授	小林英幸	3月号
放射線医学講座	助 教 授	小玉隆男	4月号
公衆衛生学講座	教 授	加藤貴彦	5月号
内科学第三講座	医 局 長	中里雅光	6月号
法医学講座	助 教 授	瀬尾泰久	7月号
寄生虫学講座	教 授	名和行文	8月号
薬剤部	副 部 長	児玉裕文	9月号
生化学第二講座	教 授	中山建男	10月号
地域医療連携推進センター	副 病 院 長	池ノ上克	11月号
精神医学講座	医 局 長	植田 勇人	12月号
<b>【郡市医師会だより】</b>			
(メイン)	西諸医師会	榎 健一郎	2月号
(メイン)	宮崎医科大学医師会	松 倉 茂	4月号
(メイン)	宮崎市郡医師会	八 尋 克三	5月号
(メイン)	都城市北諸県郡医師会	石 井 芳満	6月号
(メイン)	延岡市医師会	市 原 正彬	7月号

(メイン)	日向市東臼杵郡医師会	千代反田 泉	8月号
(メイン)	児湯医師会	内 田 俊 浩	9月号
(メイン)	西都市・西児湯医師会	富 田 雄 二	10月号
(メイン)	南那珂医師会	外 山 望	11月号
(メイン)	西諸医師会	榎 健一郎	12月号
【国公立病院だより】			
小林市立市民病院	院 長	野 本 浩 一	3月号
県立宮崎病院	院 長	立 山 浩 道	5月号
県立日南病院	院 長	柴 田 紘一郎	7月号
国立都城病院	院 長	水 元 淳 一	9月号
宮崎社会保険病院	院 長	石 川 正	11月号
【専門分科医会だより】			
精神科医会	医 会 長	後 藤 勇	2月号
泌尿器科医会	医 会 長	王 丸 鴻 一	4月号
耳鼻咽喉科医会	医 会 長	菊 池 清 文	7月号
放射線科	医 会 長	渡 邊 克 司	10月号
【薬事情報センターだより】			
(165) インフルエンザH A ワクチンについて			1月号
(166) 新たな効能・効果			2月号
(167) P P I			3月号
(168) う触とフッ化物			4月号
(169) 保健機能食品制度について			5月号
(170) インターネット上の医薬品情報			6月号
(171) 水分活性			7月号
(172) E B M			8月号
(173) 「ジアシルグリセロール」について			9月号
(174) 日本薬局方			10月号
(175) レジオネラ属菌			11月号
(176) ビール酵母			12月号
【医師国保組合だより】			
さわやかウォーキング			2月号
被保険者証の検認について			3月号
第84回通常組合会公告・議事録			4月号
組合員及び配偶者の健康診断について			7月号
第85回通常組合会議事録			10月号
第7回歩こう会			12月号
【医師協同組合だより】			
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談 他)			1月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談 他)			2月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談 他)			3月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談 他)			4月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			5月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			6月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			7月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			8月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			9月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			10月号
相談窓口から(開業医継承相談, 医療法人(一人)設立相談)			11月号
【告 知】			
定時代議員会・医連執行委員会開催			3月号

臨時代議員会・医連執行委員会・医協総代会				5月号
第128回宮崎県医師会臨時代議員会開催				8月号
<b>【お知らせ】</b>				
宮崎県ドクターズテニスクラブ秋の大会報告				1月号
郡市医師会への送付文書				3月号
職員異動				3月号
郡市医師会への送付文書				4月号
諸会費決定・融資契約一部変更				4月号
郡市医師会への送付文書				5月号
医家芸術展作品募集				5月号
はまゆう随筆原稿募集				5月号
はまゆう随筆原稿募集				6月号
県ドクターズテニスクラブ春の大会開催報告				6月号
郡市医師会への送付文書				6月号
はまゆう随筆原稿募集				6月号
健康教育小冊子配布について				7月号
第2回宮崎県医師会医家芸術展ご案内				7月号
社保・国保診療報酬審査委員名簿				7月号
郡市医師会への送付文書				7月号
宮崎県医師会館の閉館について				8月号
日医野球大会カンパのお願い				8月号
「生命を見つめる」フォトコンテスト作品募集				8月号
郡市医師会への送付文書				8月号
グループ保険加入・増額のおすすめ				9月号
資格関係誤りレセプト発生防止にご協力を				9月号
郡市医師会への送付文書				9月号
融資契約の一部変更について				10月号
グループ保険加入・増額のおすすめ				10月号
新春随想原稿募集				10月号
郡市医師会への送付文書				10月号
郡市医師会への送付文書				11月号
新春随想原稿募集				11月号
宮崎県医師会役員の選挙について				12月号
郡市医師会への送付文書				12月号
<b>【案内】</b>				
全国医師将棋大会				3月号
総会・春期医学会・互助会総会・医連大会				6月号
臨時総会・秋期医学会等開催について				8月号
全国医師会勤務医部会連絡協議会				10月号
<b>【駒込だより】</b>				
第5回医療情報ネットワーク推進委員会	常務理事	富田雄二		1月号
第6回医療情報ネットワーク推進委員会	常務理事	富田雄二		2月号
第4回日医労災・自賠責委員会	常務理事	河野雅行		2月号
日医社会保険研究委員会	副会長	志多武彦		3月号
第5回日医労災・自賠責委員会	常務理事	河野雅行		4月号
第6回日医労災・自賠責委員会	常務理事	河野雅行		6月号
第8回医療情報ネットワーク推進委員会	常務理事	富田雄二		6月号
第5回社会保険診療報酬検討委員会	常務理事	稲倉正孝		7月号
第6回社会保険診療報酬検討委員会	常務理事	稲倉正孝		8月号
第9回医療情報ネットワーク推進委員会	常務理事	富田雄二		8月号

第7回日医労災・自賠責委員会	常務理事	河野雅行	8月号
日医社会保険研究委員会	副会長	志多武彦	9月号
第7回社会保険診療報酬検討委員会	常務理事	稲倉正孝	10月号
第8回日医労災・自賠責委員会	常務理事	河野雅行	10月号
<b>【報告（各種委員会）】</b>			
救急医療委員会			1月号
会館建設検討委員会			1月号
医の倫理推進委員会			1月号
定款等諸規程検討委員会			2月号
健康スポーツ医学委員会			2月号
医療保険委員会			3月号
定款等諸規程検討委員会			4月号
医の倫理推進委員会			4月号
会員福祉委員会			4月号
医療保険委員会			4月号
少子化対策委員会			5月号
医学会誌編集委員会			5月号
情報システム委員会			5月号
医学賞選考委員会			7月号
医の倫理推進委員会			7月号
会館建設検討委員会			7月号
医療安全対策委員会			8月号
定款等諸規程検討委員会			8月号
救急医療委員会			9月号
医の倫理推進委員会			11月号
会員福祉委員会			11月号
健康教育委員会			11月号
医療安全対策委員会			12月号
<b>【報告（諸会議）】</b>			
各都市医師会長協議会			1月号
九医連第236回常任委員会			1月号
九医連第80回臨時委員総会			1月号
第100回九州医師会総会・医学会			1月号
第17回全国医療情報システム連絡協議会			1月号
九医連第237回常任委員会			2月号
全国医師会勤務医部会連絡協議会準備委員会			3月号
九医連第2回各種協議会			3月号
宮崎県献血推進協議会			3月号
宮崎県医師連盟執行委員会			4月号
産業医部会理事会			4月号
都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会			4月号
都道府県医師会労災保険担当理事連絡協議会			4月号
九医連第238回常任委員会			4月号
宮崎県医師会定時代議員会			5月号
各都市医師会長協議会			5月号
各都市医師会役員連絡協議会			5月号
宮崎県医師連盟執行委員会			5月号
九州ブロック日医代議員連絡会議			5月号
九医連第239回常任委員会			5月号
都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会			5月号

都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会	5月号
感染症危機管理対策協議会	5月号
第104回日医定例代議員会	5月号
九医連第240回常任委員会	6月号
九医連医療保険対策協議会	7月号
県福祉保健部と県医師会との懇談会	7月号
九医連第81回定例委員総会	7月号
都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会	7月号
第127回宮崎県医師会臨時代議員会	8月号
宮崎県医師会互助会定時評議員会	8月号
成人病検診各部会長連絡協議会	8月号
定例総会・春期医学会・互助会総会・医師連盟大会	8月号
各郡市医師会長協議会	8月号
宮崎県介護保険苦情処理協議会	8月号
准看護学校連絡協議会	8月号
医師年金制度普及推進懇談会	9月号
各専門分科医会長・各郡市医師会社保担当理事合同連絡協議会	9月号
九州ブロック学校保健・学校医大会・検診協議会	9月号
九医連第241回常任委員会	9月号
第128回宮崎県医師会臨時代議員会	10月号
第56回宮崎県医師会臨時総会	10月号
秋期医学会・健康スポーツ医学セミナー	10月号
介護認定審査会審査委員連絡協議会	11月号
九医連第242回常任委員会	11月号
九医連平成13年度第1回各種協議会	11月号
第23回産業医活動推進全国会議	11月号
各郡市医師会長協議会	12月号
九医連委員・九州各県医師会役員合同協議会	12月号
九医連第82回臨時委員会総会	12月号
九州ブロック医師会広報担当理事連絡協議会	12月号
九医連第243回常任委員会	12月号
第101回九州医師会総会・医学会	12月号
九医連第244回常任委員会	12月号
九州各県・政令指定都市保健医療福祉主管部局長及び九州各県医師会長合同会議	12月号
九州学校検診協議会専門委員会	12月号
九州各県医師会学校保健担当理事者会	12月号
医療危機突破 都道府県医師会都市区医師会緊急合同対策会議	12月号
【報告（講演会・研修会・その他）】	
女性医師の座談会	1月号
国際保健と医の倫理に関するシンポジウム	1月号
第21回医史蹟探訪会	1月号
家族計画・母体保護法指導者講習会	2月号
武見敬三全国医師総決起大会	3月号
みやざきナース Today2001	7月号
第19回参議院議員選挙全国医師総決起大会	7月号
第12回新研修医保険診療説明会並びに祝賀会	8月号
ORCA（仮称）情報	8月号
日医総研セミナー（医療構造改革）	9月号
ORCA（仮称）情報	9月号
第2回宮崎県医師会医家芸術展	9月号

秋期医学会・親善ゴルフ大会				10月号
ORCA(仮称)情報				10月号
宮崎県医史懇話会の解散について				10月号
2001年記念 日医野球大会報告				11月号
宮崎県献眼顕彰慰霊碑除幕式				12月号
ORCA(仮称)情報				12月号
<b>【追悼のことば】</b>				
古久保 文 造 先生(都城市北諸県郡医師会)				2月号
山路 武彦 先生(都城市北諸県郡医師会)				2月号
松山 美香樹 先生(都城市北諸県郡医師会)				2月号
安田 義重 先生(宮崎市郡医師会)				2月号
是枝 紀人 先生(都城市北諸県郡医師会)				2月号
坂田 師貫 先生(児湯医師会)				2月号
巴 淳一 先生(宮崎市郡医師会)				2月号
石井 學 先生(都城市北諸県郡医師会)				4月号
樋口 三男 先生(延岡市医師会)				4月号
小島 敏郎 先生(延岡市医師会)				4月号
田原 能一 先生(延岡市医師会)				4月号
佐々木 高儀 先生(都城市北諸県郡医師会)				5月号
田中 幸稔 先生(宮崎市郡医師会)				5月号
福永 克己 先生(宮崎市郡医師会)				5月号
團井 和之 先生(児湯医師会)				5月号
篠原 恒男 先生(日向市東臼杵郡医師会)				6月号
井上 鐘一郎 先生(延岡市医師会)				7月号
城山 英太郎 先生(宮崎市郡医師会)				7月号
山之内 秀夫 先生(都城市北諸県郡医師会)				8月号
有馬 正一 先生(都城市北諸県郡医師会)				8月号
比江嶋 信一郎 先生(児湯医師会)				10月号
谷口 良昭 先生(南那珂医師会)				11月号
<b>【ニューメンバー】</b>				
東 和弘(あづま かずひろ)				2月号
塚本 創一郎(つかもと そういちろう)				4月号
寺本 仁郎(てらもと ひとお)				5月号
樋田 正晴(ひだ まさはる)				6月号
香月 博(かつき ひろし)				6月号
日高 奈己(ひだか なみ)				6月号
立山 真吾(たてやま しんご)				6月号
平野 秀治(ひらの しゅうじ)				8月号
渡部 正一(わたなべ しょういち)				8月号
松岡 文章(まつおか ふみあき)				9月号
隅 清克(すみ きよかつ)				12月号
深見 淳一(ふかみ じゅんいち)				12月号
<b>【診療メモ】</b>				
近視矯正手術 レーシック	宮崎市	佐々木	究	1月号
ヘリコバクター・ピロリ除菌療法	宮崎市	市来	能成	2月号
ラミブジン	宮崎市	三原	謙郎	3月号
宮医大診療受付時間及び休診日				3月号
児童虐待について	宮崎市	市来	緑	4月号
高血圧治療ガイドライン2000年版	宮崎市	市来	能成	5月号
多汗症	宮崎市	吉岡	誠	6月号

人工内耳医療	宮 医 大	東 野 哲 也	7 月号
トランスサイレチン型心アミロイドーシス	宮 医 大	中 里 雅 光	8 月号
針刺し事故への対応			9 月号
インフルエンザの最近の話題	宮 医 大	峰 松 俊 夫	10月号
外来で出来る迅速診断法	宮 崎 市	市 来 緑	11月号
麻疹ワクチン	宮 崎 市	浜 田 恵 亮	12月号
【読者のひろば(読者からの投書)】			
		K 生	3 月号
		O 生	3 月号
		N 生	3 月号
		O 生	5 月号
		N 生	5 月号
		S 生	5 月号
		S 生	6 月号
		O 生	7 月号
		F 生	7 月号
		F 生	8 月号
		S 生	8 月号
		O 生	10月号
		F 生	10月号
		F 生	11月号
		N 生	11月号
【Web site】			
メルクマニュアル 第17版日本語版			1 月号
どこなびドットコム			2 月号
医薬品情報提供ホームページ			3 月号
ゴルフ用品			4 月号
国立がんセンタービデオ・オン・デマンドサービス			5 月号
NHK外国語講座			6 月号
JFHA 日本食品衛生協会			7 月号
臨床病期に応じた糖尿病治療マニュアル			8 月号
Web View World			9 月号
在外公館医務官情報			10月号
炭疽菌感染症について			11月号
Windows & Mac の疑問を解決			12月号

---

日 州 医 事 第628号 (平成13年12月号)  
(毎月1回10日発行)

発行人 社団法人 宮 崎 県 医 師 会  
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地  
TEL 0985-22-5118(代) FAX27-6550  
<http://www.miyazaki.med.or.jp/>  
E-mail:office@miyazaki.med.or.jp  
代表者 秦 喜 八 郎

編 集 宮崎県医師会広報委員会  
委 員 長 成田 博実  
副 委 員 長 井上 久  
委 員 市来 緑, 大藤 雪路, 面高俊一郎  
川名 隆司, 小村 幹夫, 佐々木 究  
戸枝 通保, 三原 謙郎  
担当副会長 大坪 睦郎  
担当理事 富田 雄二, 高崎 直哉  
事務局学術課 崎野 文子, 竹崎栄一郎, 千原佐知子

カット 武藤布美子  
印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース  
定 価 350円(但し 県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)  
●落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

---